

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 13 Osaka and Hyogo

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002253">https://doi.org/10.15084/00002253</a>

全国方言談話データベース

# 日本のふるさとことば集成

第13巻 大阪・兵庫

国立国語研究所資料集 13-13

国立国語研究所

2002

国書刊行会

## 刊行のことは

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成14年3月

国立国語研究所長 甲斐睦朗

## 利用にあたって

### 1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

#### 大阪府大阪市1977

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【大阪弁，船場ことば，商売人，古いしきたり】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

#### 兵庫県相生市1985

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【子供の遊び、子供の頃の思い出】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz、量子化ビット数16bit、  
waveファイル、ステレオ

CD-ROMは、CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては、個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には、現在では、その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが、学術的・歴史的資料の保存という観点から、そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ、お使いください。

## 2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

## 3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記(2)は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、  
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」  
などのように、明記してください。  
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所にお問い合わせください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

## 4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CDの作成については、「全国方言談話資料データベース」として、平成9(1997)～13(2001)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所 13-13

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第13巻 大阪・兵庫

目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 大阪府大阪市1977	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	23
談話	28
【大阪弁, 船場ことば, 商売人, 古いしきたり】	29
注記	116
II. 兵庫県相生市1985	119
地図	120
話者・担当者	121
解説	122
凡例	128
談話	133
【子供の頃の遊び, 子供の頃の思い出】	134
注記	223
作成・公開の経緯	225
「各地方言収集緊急調査」について	227

「各地方言収集緊急調査」地点一覧	231
「各地方言収集緊急調査」地点地図	236
各地方言収集緊急調査補助全体計画	237
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	238
各地方言収集緊急調査実施要領	239
各地方言収集緊急調査の実施について	242
調査実施上の留意事項について	244
「全国方言談話データベース」について	250



**I . 大阪府大阪市  
1977**

大阪府大阪市



## 大阪府大阪市1977話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	朝日昇 上小沢克子 北垣清蔵 別所貫一 山本鹿之助 山本せい
司会者	鳥越憲三郎
収録担当者	佐藤暢男
文字化担当者	佐藤暢男
解説担当者	佐藤暢男

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一 江川清 田原広史 井上文子
校正担当者	高木千恵 鳥谷善史

# 大阪府大阪市1977解説

**収録地点名** 大阪府大阪市東区（現・中央区）

## 収録地点の概観

### 位置

東区は、大阪市の中心部にあり、東は大阪城公園を境にして城東区と、西は西横堀川を境にして西区と、南は長堀川を境にして南区と、北は土佐堀川を境にして北区と接している。

船場と呼ばれる地域は、大阪市の東区と南区にまたがり、東は東横堀川、西は西横堀川にはさまれた区域である。

### 交通

国鉄大阪駅より南へ徒歩20分、または、地下鉄御堂筋線梅田駅より1駅の淀屋橋駅下車、南へ徒歩5分で船場の中心地に達する。

### 行政区画

1989(明治22)年4月の市制以前は、江戸時代からの大阪三郷620町からなる、堂島を北端、道頓堀を南端とする約15km<sup>2</sup>の区域を、東西南北の4区に分けていた。

1897(明治30)年4月1日には、玉造町の大部分を編入し、東区を形成した。面積は、5.92km<sup>2</sup>。

### 戸数・人口

1975(昭和50)年10月1日現在、人口28,950人、世帯数8,493世帯。昼間人口は309,405人。

### 産業

船場と称される地区を南北に走る御堂筋、堀筋は大阪を代表する主要道路で、その両側は商社が軒をならべるビジネス街であり、また、問屋街でもある。

## 収録地点の方言の特色

大阪市は、旧国では摂津に含まれる。摂津は、ほぼ大阪市の東部境界線と淀川で河内と区切られ、大和川で和泉と区切られている。摂津、河内、和泉は、

大まかな方言区画をなしている。

内郭方言、外郭方言の考え方では、さらに、摂津方言は、もっとも外郭的な能勢町・旧東能勢村と、もっとも内郭的な大阪市・豊中市・箕面市南部・池田市南部・吹田市西南部、および、中間地帯ともいえる旧三島郡に3分することができる。それぞれを能勢方言、摂津方言(狭義)・三島方言と呼ぶなら、大阪市の方言は、狭義の摂津方言に含まれる。

普通、「大阪方言」という場合、大阪市の方言を中心として指している。

大阪方言は、他地域に比べて、共通語の影響を強く受けている地帯でもある。「アグラオカク」(あぐらをかく)、「キナクサイ」(きなくさい)、「サケブ」(叫ぶ)、「トゲガササル」(とげがささる)、「オテダマ」(お手玉)、「ワタシ」(私)、「サセラレル」(させられる)、「コラレル」(来られる)、「コサセル」(来させる)、「～ナカッタ」(打消の過去)など、新しい共通語的な言い方は、大阪市を中心に放射状に周辺に向かって分布している。

なお、尊敬の助動詞「～ハル」の五段接続において、「カキハル」(お書きになる)のようなイ段接続が、「カカハル」(お書きになる)のようなア段接続より優勢であること、また、否定の助動詞「～ヘン」の五段動詞接続において、「カケヘン」(書かない)のようなエ段接続が、「カカヘン」(書かない)のようなア段接続よりきわめて優勢であることも、周辺に対して特徴的である。

能勢方言は、徹底した「カカハル」(お書きになる)地帯であり、男子自称代名詞「オラ」、「オコメ」・「オコンメ」(お手玉)、「ソゲ」(トゲ)、「メバック」(ものもらい)、「ドナル」(叫ぶ)、「カンコクサイ」(きなくさい)、「ジョロ」(あぐら)などの分布において、狭義の摂津方言と対立している。

三島方言は、打消の助動詞「～ヒン」が「～ヘン」とともに多く用いられること、打消の過去「～ナンダ」が「～ナカッタ」とともに多く用いられること、「来られる」というとき「～ラレル」・「～ヤレル」が多いこと、「とげがささる」というとき「～ササル」が「～ハイル」より圧倒的に多いこと、などにおいて、狭義の摂津方言と対立している。

## 音韻

- (1) 音韻体系は共通語に比べ、特に変わったものはない。[kwa]・[gwa]・[ʃe]・[ʒe]・[je]・[we]・[wo]などは、ほとんど現れない。

(2) ガ行鼻濁音は、人により語により時に聞かれるが、全体的にはあまり現れない点は共通語と異なる。

(3) 「イ」は後続半母音によって不完全逆行同化を起こす。

イワ → ユワ (岩)

オイワイ → オユワイ (お祝) など

(4) 母音の同化現象がさかんである。

エビスサン → エベッサン (戎さん)

ムシル → ミシル (むしる) など

(5) [i] と [e] の交替現象がさかんである。

ヒッコメル / ヘッコメル (ひっこめる)

キツネ / ケツネ (狐)

オッキナ / オッケナ (大きな)

ハイ / ハエ (蠅)

カイル / カエル (蛙) など

(6) [i] と [u] の交替現象が見られる。

サビシー / サブシー (淋しい)

モミナイ / モムナイ (まずい)

クタビレル / クタブレル (くたびれる)

テマリ / テマル (手毬) など

(7) [a] と [o] の交替現象がみられる。

サイデスカ / ソーデスカ (そうですか)

ヤラコイ / ヤロコイ (柔らかい) など

(8) 連母音変化がみられる。

[ie]

オイエハン → オエハン (お家さん)

[ui]

カユイ → カイー, カイ (かゆい)

[ea]

ミテアゲル → ミタゲル (見てあげる)

[ei]

シテイル → シテル (している)

[eo]

カイテオル → カイテヨル (書いている)

カイテオク → カイトク (書いておく) など

(9) 子音間にも交替現象が見られる。

[m] / [b]

セマイ / セバイ (狭い)

ヒモ / ヒボ (紐)

[s] / [h]

ソレ / ホレ (それ)

～サン / ～ハン (～さん)

～ナサル / ～ナハル (～なさる)

[ʃ] / [ç]

シタ / ヒタ (舌)

シク / ヒク (敷く)

オシト / オヒト (お人)

オシタシ / オヒタシ (お浸し)

[r] / [ʃ]

ヤッパリ / ヤッパシ (やはり)

バッカリ / バッカシ (ばかり)

[g] / [n]

イゴク / イノク (動く) など

(10) 1音節語が長音化する。1音節名詞, また, 1音節動詞に「～タイ」(希望)・「～ハル」(尊敬)の助動詞が続く場合に起こる。

メー (目)

テー (手)

キー (木)

ヒー (日)

キータイ (着たい)

データイ (出たい)

シーハル (しなさる)

キーハル (来なさる) など

- (11) 撥音の挿入が見られる。

アマリ → アンマリ (あまり)

シガツ → シンガツ (4月)

キノー → キンノ (昨日) など

- (12) 鼻音の前が撥音化する。

コブマキ → コンマキ (昆布巻き)

ソーダスナ → ソーダンナ (そうですね)

ソレナリ → ソンナリ (それなり)

タズネル → タンネル (たずねる)

オマスガナ → オマンガナ (おますがな) など

- (13) 撥音が脱落する場合がある。

ゲンカン → ゲンカ (玄関)

スルナ → スンナ → スナ (するな)

ナンギスル → ナンギスル (難儀する)

カンニンスル → カニスル (堪忍する) など

- (14) 破裂音・摩擦音の前が促音化する場合がある。

テツダイ → テッタイ (手伝い)

オーキイ → オッキイ (大きい)

～オマスカ → ～オマッカ (～ありますか)

～デスケド → ～デッケド (～ですけど)

ヌスビト → ヌスット (盗人)

ノコッテルサカイ → ノコッテッサカイ (残っているから) など

- (15) 長音節が脱落して短呼される現象がある。

ソーヤ → ソヤ (そうだ)

タコーナル → タコナル (高くなる)

ハロータ → ハロタ (払った)

イコーカ → イコカ (行こうか)

ムコーサン → ムコサン (向こうさん) など



(16) その他の脱落現象がある。

モッテコイ → モテコイ (持って来い)

ダンナサン → ダンサン (旦那さん)

ダイドコロ → ダイドコ (台所)

～ヨリカ → ～ヨカ (～よりか) など

(17) イ・ウ列音とヤ行音が接しているとき、促拗音化が起りやすい。

トシヨリ → トッシヨリ (年寄)

ニチヨービ → ニッチヨービ (日曜日)

モクヨービ → モッキヨービ (木曜日)

～デスヤロ → ～デッシヤロ (～でしょう)

～ダスヤロ → ～ダッシヤロ (～でしょう) など

## 文法

(1) いわゆる生粋の船場ことばの特徴は、今日では語彙的なものを中心にいくらか見られるだけで、むしろ、現代の船場の人たちのことばの特徴は、その著しい共通語化にあるといえる。

(2) 断定表現では、「～デオマス」、「～デス」、「～ダス」、「～ヤ」が用いられるが、待遇度はこの順で低くなる。

一部の人に「～ゴワス」が用いられる。待遇度の高い言い方である。

改まった言い方の時は、「～ゴザイマス」が使われる。

オカドガ ヒローゴザイマスノニ

(ご交際が お広うございますのに)

「～ジャ」は慣用的な言い方においてのみ用いられる。

ナンジャロト (何かといえば)

(3) 尊敬表現の「～ヤハル」(～なさる)は、五段活用動詞接続の場合、大阪方言では「～ヤハル」と拗音化し、さらに「～ハル」となるのが普通である。しかし、船場ことばでは「～ヤハル」がよく見られる。

イキヤハル (行きなさる)

同様に、上一段活用動詞接続の場合、大阪方言では「～ヤハル」と拗音化する傾向が強いが、船場ことばでは拗音化しないことがある。

オリヤハッタ (降りなさった)

- (4) 「オ～ヤス」という尊敬表現が特徴的に聞かれる。挨拶ことばとして、きまり文句になっているものが多い。

オイデヤス (いらっしやい)

オカイリヤス (お帰りなさい)

オカケヤス (おかけなさい)

- (5) 「オ」をとらない「～ヤス」は、「～なさる」相当の「～ヤス」ではなく、話し手自身に関して用いられた「～ます」相当の「～ヤス」である。

ココロエヤシタ (心得ました)

オフロモ ワイテヤンデ (お風呂も沸いてますので)

ヨセテ イタダキヤッケド (寄せていただきますけど)

- (6) 「デ」接続の「～ヤス」は、「～ございます」相当の「～ヤス」で、船場ことばの特徴的な語法である。

オマッソーサンデヤス (お待ちどおさんでございます)

- (7) 船場ことばとしては、「～ダス」は同等以下に対して使うが、一般的ではなく、もっぱら「～デス」を用いる。

ナクナリマシタデッカシラ (なくなりましたでしょうかしら)

ソーデシテンデー (そうでしたんですよ)

オヒサシブリデンナー (お久しぶりですね)

- (8) 「～トル」・「～テオル」は、話し手が自分の言動を謙遜する場合にも用いる。

ヨー キートリマス (よく 聞いております)

- (9) 「～ヨル」は主として目下の第三者の言動について使う。

デッチ ヤリヨリマス (丁稚をやっています)

キヨリマス (やってきます) など

- (10) 打消表現で、「～しない」ということを、「～はしない」と婉曲にいうのが一般的である。

アラシマセン (ありはしません)

デーシマセン (出はしません)

アケシマセン (あきはしません)

- (11) 理由表現では、「～サカイ」、「～カラ」とともに「～ヨッテ」も多用される。

(12) 文末詞「シ」が老年層に聞かれる。女子ことばである。

イカンシ (行かないよ) など

(13) 丁寧、尊敬の接辞が多用される。

アリガトサン (ありがとう)

オカイサン (おかゆ)

オメデトーサン (おめでとう) など

(14) 格式ばった挨拶ことばが多い。

イテサンジマス (行ってまいります)

オカドガ ヒローゴザイマスノニ

(ご交際が お広うございますのに) など

## 語彙

老年層のことばには、かなり古く、特色のある語彙が残存している。

オクモジ (菜の漬け物)

タモジ, オタモジ (蛸)

オスモジ (酔の物)

オモジ (帯)

オミヤ (お足)

オコーカ (便所)

オヒナル (起きる)

オヨル (寝る)

アリバセ (遊ばせ)

アモ (餅)

ノジガアル (食べでがある。ながもちする。)

ツロクスル (調和する)

ショービンナ (料理の品数が少ない)

ハンナリ (華やかで上品な)

マツタリ (芳醇なこと)

オーケンタイ (平気)

メータムキ (露骨)

〜ズクズク (〜べったり)

ミズテン (値段を見ないで買うこと)  
テンコモリ (大盛り)  
サシガミ (案内状)  
ゴモク (ごみ)  
テボチン (おでこ)  
オイド (お尻)  
イケズ (意地悪)  
ベベタ (どんじり)  
エーシ (良家)  
イカケ (夫婦づれ)  
シブチン (けちんぼう)  
カッコマン, カッコサン (おりこうさん, よい子)  
オカミ (主人)  
オエサン, ゴリョンサン (奥さん)  
トーサン, イトハン (お嬢さん)  
コイサン, コイチャン (末のお嬢さん)  
ボンボン (坊ちゃん)  
ナカボン (次男)  
サンボン (三男)  
コボンチャン (末弟さん)  
シンタリサン (分家さん) など

(以上の解説は、基本的に、各地方言収集緊急調査当時の報告原稿によるものである。)

## 大阪府大阪市1977凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 (半角)

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンデス      ヨソレデ      ワタシガ      イッタンデス  
そうなんです。      それで      私が      行ったんです。

### 、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ  
市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

//// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」なんですね。

[ ] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

### CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、収録県名と、そのページの方言音声収録されているCDのトラック番号を示している。「大阪01-1」はCDトラック番号が01で、その1ページ目ということである。「大阪01-1」「大阪01-2」……「大阪01-8/02-1」……「大阪12-7」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

**↑01**, **01↑02**, ……**↑11↑12**, **12↑** のように表示される。



第13巻のCD（58分42秒）には、大阪府大阪市の談話、【大阪弁、船場ことば、商売人、古いしきたり】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を基準として表示した。

トラックNo.	開始ページ, 行	終了ページ, 行	時間:分:秒
01	p.29, 0 .1	p.36, 0 .1	0:02:19
02	p.36, 0 .3	p.41, 0 .7	0:02:07
03	p.41, 0 .9	p.49, 0 .17	0:02:26
04	p.49, 0 .19	p.56, 0 .15	0:01:58
05	p.56, 0 .17	p.65, 0 .19	0:02:36
06	p.66, 0 .1	p.71, 0 .17	0:01:46
07	p.72, 0 .1	p.78, 0 .3	0:02:19
08	p.78, 0 .5	p.85, 0 .9	0:02:44
09	p.85, 0 .9	p.95, 0 .9	0:03:02
10	p.95, 0 .9	p.104, 0 .11	0:02:59
11	p.104, 0 .13	p.109, 0 .5	0:01:55
12	p.109, 0 .7	p.115, 0 .7	0:02:01
計			0:28:12

## 大阪府大阪市1977談話

収録地点 大阪府大阪市東区（現・中央区）

収録日時 1977(昭和52)年12月13日

収録場所 大阪府大阪市北区中之島 中之島中央公会堂

話題 大阪弁，船場ことば，商売人，古いしきたり

### 話者

A	男	大正 3年生	(収録時63歳)	牛乳販売業
B	男	明治33年生	(収録時77歳)	会社員
C	男	大正 1年生	(収録時65歳)	宮司
D	男	明治31年生	(収録時79歳)	医薬品卸業
E	女	明治37年生	(収録時73歳)	主婦
F	女	明治38年生	(収録時72歳)	無職

### 司会者

G	男	大正 3年生	(収録時63歳)	大学教授
---	---	--------	----------	------

### 調査員

男 (収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD) 28分12秒

【大阪弁、船場ことば、商売人、古いしきたり】

話し手

- |   |   |        |          |     |
|---|---|--------|----------|-----|
| A | 男 | 大正 3年生 | (収録時63歳) |     |
| B | 男 | 明治33年生 | (収録時77歳) |     |
| C | 男 | 大正 1年生 | (収録時65歳) |     |
| D | 男 | 明治31年生 | (収録時79歳) |     |
| E | 女 | 明治37年生 | (収録時73歳) |     |
| F | 女 | 明治38年生 | (収録時72歳) |     |
| G | 男 | 大正 3年生 | (収録時63歳) | 司会者 |

1C：ヤッパリ、 ダイブソラ、 ワレワレガ マダ  
やはり だいぶん それは、 我々が まだ

↑01

ツコーテオツテネー デ マー イッパンニワ モー  
使っていてねえ [それ] で まあ 一般には もう

ツカワレテナイ、 (D {笑}) ナー。  
使われていない、 (D {笑}) ねえ。

2D：イヤー ワタシラ フルイホーデスカラナ モー、 (C ンー)  
いや 私ら [は] 古いほうですからね もう (C んー)

デルンデス ソーユーコトガネ。 アノネ チーサイネ  
出るんです そういうことがね。 あのね 小さいね

コーユーモンデ、 ア、 エライ チョツイ [1] ナー  
こういうもので 「あ ずいぶん チョツイなあ」

大阪 01-2

チュオーナ、 コレワ オーサカベンデスケド アンマリ、 アノ {笑}  
というような これは 大阪弁ですけど あまり あの {笑}

コラ オッポド フルイデスワ。  
これは よほど 古いですよ。

3A : モー ワタシラ オタクラ (F チョット チツチャイ)  
もう 私ら [は] あなたがた [とは] (F ちょっと 小さい)

ダイブ ネンダイガ チガイマスカラナー。 (D エー)  
大分 年代が 違いますからね。 (D ええ)

4E : \*\* チーソーテネ、 チョット テノコンデ、 キノキータモンガ  
\*\* 小さくてね、 ちょっと 手の込んで、 気の利いたものが

アルデシヨ。 (F ウン) ソシタラ エライ  
ある [とする] でしょう。 (F うん) そうしたら 「ずいぶん

チョツイナ。  
チョツイな」 [と言う]。

5D : デー ソレオネ コレ エライ チョツイナー ト コー、  
[それ] で それをね 「これ ずいぶん チョツイなあ」 と ころ

(F シリマセン) オーサカデ イーマスガネー。 (E {笑})  
(F 知りません) 大阪で 言いますがねえ。 (E {笑})

6F : ソレワ シラナイデスケド。  
それは 知らないですけど。

大阪 01-3

7D : ソレカラ アノー、 バン ナルトネ、 アノー ヨサリ  
それから あの 晩 [に] なるかね あの 「ヨサリ」

チーマスワネ。 (A ヨサリワ ユー)  
と言いますよね。 (A 「ヨサリ」は 言う)

(C ヨサリワ ユーナ) (A コレワヨ ユーナ)  
(C 「ヨサリ」は 言うなあ) (A これは よく 言うね)

コレワネー アノー ウチノ、  
これはねえ あの うちの

(C イマ ワタシラデモ ツコーテマスワネ) (A \*\*\*\*\*)  
(C 今 私らでも 使っていますよね) (A \*\*\*\*\*)

ムスメガネ? アノー {笑} ジョガッコーエ イットッテ、  
娘がね? あの {笑} 女学校へ 行っていて

ヨサリ、 ユーベ ヨサリニ コンナヤッタ ユータ  
ヨサリ、「ゆうべ ヨサリに こんな [ふう] だった」 [と] 言ったら

アンタ オバーハンミタイナコト ユーネンナー {笑}  
「あんた おばあさんみたいなこと [を] 言うんだなあ」 {笑}

ユーテ ワラワレタ ユーテネ {笑}。  
[と] 言って 笑われた [と] 言ってね {笑}。

ヨサリ チューコトバモネ、 アノー、 アンマリ イマー、  
「ヨサリ」 ということばもね あの あまり 今

大阪 01-4

ツカイマセンネンナ。 ヨサリ。  
使わないんですね。 「ヨサリ」

8F : ソーデンナ。 (D ナ) ツカイマセンネンナ。  
そうですね。 (D ね) 使わないんですね。

(A ツカワシマヘンナ)  
(A 使いやしませんね)

9D : ンー ソヤ。 ナー ムカシワ ヨー イーマシタナ ヨサリ  
うん そうだ。 ねえ 昔は よく 言いましたね 「ヨサリ」

チュナナ。  
というような [ことを] ね。

10E : ヨサリ アメ フツカカラ トカネー。  
「ヨサリ 雨 [が] 降ったから」 とかねえ。

11D : エー。 ヨサリニ アメ フツタ トカネ。 ソイカラ、  
ええ。 「ヨサリに 雨 [が] 降った」 とかね。 それから  
アノヒトワ マー コラー チョットー、 アノー ナンデンナー、  
あの人は、 まあ これは ちょっと あの あれですねえ、

アノー ダレデモ イーマス チーサイコヤケドモ。  
あの 誰でも 言います [けど] 小さい子だけでも。

ア ムコノコワ エーシ [2] ヤ トカナ。  
「あ むこうの子は 「エエシ [=金持ちだ] だ」 とかね。

大阪 01-5

12A : アー ソヤネ。 ソリヤ イーマンナ。 エーシヤ テ。  
ああ そうだね。 それは 言いますね。 「エエシだ」 って。

13D : ンー {笑} エーシヤ トカ ユーフーニ イーマン  
んー {笑} 「エエシだ」 とか いうふうに 言います。

14C : コレ、 コレワ ツコテマスナー。  
これ これは 使っていますねえ。

15D : エー (C アー) エーシヤ トカナー。 (C ンー) ンー  
ええ (C ああ) 「エエシだ」 とかねえ。 (C んー) んー

アノ、 マ ソレカラー、 シミッタレ [3] トカネ。  
あの、 まあ それから 「シミッタレ [=けち]」 とかね。

(C ウン) (A イーマンナ、 ソラー)  
(C うん) (A 言いますね、 それは)

シブチン [4] トカネー シメ ンー シマ {笑}  
「シブチン [=けち]」 とかね。 ×× んー ×× {笑}

アイツワ シブチンヤ トカ、 シミッタレヤ トカネ。  
「あいつは シブチンだ」 とか 「シミッタレだ」 とかね。

シミッタレ チューノワー、 ムシロ ナンデスカナ? アノー  
シミッタレ というのは むしろ あれですかね? あの

ミミッチー チューイミデスカナ。  
「ミミッチイ = [けちくさい]」 という意味ですかね。

大阪 01-6

(C ソーデスヤロネ) ソーデンノー。 ソレカラ アノー

(C そうでしょうね) そうですねえ。 それから あの

チョト キレーナヤー、 トコ ミタラー、 アノー  
ちょっと きれいな××、 ところ [を] 見たら あの

ゴフクヤサンデモー ア、 コレワ エライ チョット  
呉服屋さんでも 「あ これは ずいぶん ちょっと

ハンナリ [5] シテマンナー ト コー。 {笑}

ハンナリしていますねえ」 と こう [言う]。 {笑}

16A : {笑} ハンナリネ。 (D {笑}) ヨー ソレワ  
{笑} 「ハンナリ」ね。 (D {笑}) よく それは

イーマシタデンナ ハンナリ チョット ハンナリシタ。  
言いましたですね。 「ハンナリ」 「ちょっと ハンナリした」

エー エー。

ええ ええ。

17D : {笑} ハンナリ チューコトバモ コレ チョット、  
{笑} 「ハンナリ」 ということばも これ [は] ちよっと

18A : コレ ドーユーコトカ、 カッコエー チューコトデスカナー。  
これ [は] どういうことか。 かっこいい ということですかねえ。

19D : エ? アー、 ドーユーイミヤ。

え? ああ、 どういう意味だ。



大阪 01-7

20E : チョット ハナヤイデ、  
ちよっと 華やいで、

21F : ソーデスネ。 (A ア ソー ハナヤギデスカ)  
そうですね。 (A あ そう。 華やぎですか)

22E : ヒンガ ヨーテ。 イロンナコトバガ ソンナカ  
品が よくて。 いろいろなことばが その中 [に]

ハイッテマスナ。  
入っていますね。

23A : ハイッテマンノカイナー (D アー) ハンナリ  
入っているんですかねえ。 (D ああ) 「ハンナリ」

ハンナリ ヨー イーマンナー ハンナリ。  
「ハンナリ」 [は] よく 言いますねえ。 「ハンナリ」

24E : シー ダイタイ センバノ コトバワ コー (A {笑}) ヒトツニ  
んー だいたい 船場の ことばは こう (A {笑}) ひとつに

ゲンターサレズニ、 コ ハバヒローニ、 フクミノーネー  
限定されずに こう 幅広く 含みのねえ

オーイコトバヤ。  
多いことばだ。

25A : \*\*\*\*\* ホーゴーシテゴワンナー。 ホーバイ。  
\*\*\*\*\* 抱合してございますね。 抱合。

ホーバイシテゴワンナー。 (E エー)

抱合してございますねえ。 (E ええ)

01↑02

26D : ソンデー マー カリニー オーサカベン、 オーサカ チュータラ  
それで まあ 仮に 大阪弁 大阪 といったら

ナンボヤ ナンボヤ テ アンター オッシャイマッサナー。  
「ナンボや ナンボや」と言っ て あなた おっしゃいますよねえ。

(A エー) ユーテハリマサヤロ? ソレー

(A ええ) 言っておられますでしょう? それ

オーサカヤッタ スグ ナンボヤ ッチューケド ソエ  
大阪といったら すぐ 「ナンボや」と言うけど それ

ナンボヤ ユワントネ、 オ ソレ オクレ  
「ナンボや」 [と] 言わないでね × 「それ [を] ください」

チュテ、 (A ウン) ソレオ ミズテン [6] チュイマンネン  
と言っ て (A うん) それを 「ミズテン」と言うんですよ。

27A : ア ミズテンデネ。 (D アー。 {笑}) モー アタマカラー  
あ 「ミズテン」 でね。 (D ああ。 {笑}) もう 最初から

ミントネ (D {笑}) ナンボ ッテ、  
[値段など] 見ないでね (D {笑}) 「ナンボ」と

ヒッカケテネ。 ミズテンデ。  
ひっかけてね。 「ミズテン」 で。

大阪 02-2

28D : ミズテン チューコトバガ、 アリマシテネー。 モ  
「ミズテン」 ということばが ありましてね。 もう

ミズテンデ カウネン、 テ モ {笑} ミズテンデ  
「ミズテンで 買うんだ」と もう {笑} 「ミズテンで

コータレ チャナコトー ユー。  
買ってやれ [=買ってしまえ] というようなことを 言う。

ソレガ マー アノ、  
それが まあ あの

29A : ケド ワタシラ アノ、 トーキョ イッタカテ ソー、  
[だ] けど 私達 あの 東京 [へ] 行っても そう

(D {笑}) コレ ナンボ デ トーシマシタガナー。  
(D {笑}) 「これ ナンボ」 で 通しましたがねえ。

(D {笑}) \*\*\*\* ユワントケヨ オマエ オーサカベン  
(D {笑}) \*\*\*\* 「言うなよ おまえ 大阪弁

ンナン ツカウナー ユーテ。 ンー オーサカベン  
そんなの [は] 使うな [と] 言って。 ンー 「大阪弁 [で]

ナニガ ワルイネン テ (D {笑}) ヨー ユータコト  
何が 悪いんだ」と (D {笑}) よく 言ったこと [が]

アリマスケドネー。  
ありますけどねえ。

大阪 02-3

30D : ソーデンナー。 (A エー) エー。{笑}  
そうですねえ。 (A ええ) ええ。{笑}

31A : シカシ ホントニ ジーット キータラ オーサカベンモ  
しかし ほんとうに ジーッと 聞いたら 大阪弁も

エーモンデゴワシテナ? (D {笑}) ソラ ナントモ  
いいものでございましてね。 (D {笑}) それは 何とも

イエン ジョーチャガ ゴワスケドナー。 (D {笑})  
いけない 情緒が ございますけどねえ。 (D {笑})

ホデモ ワレワレ ソンナ ツカウ キカイガ  
それでも 我々 [は] そんな [に] [大阪弁を] 使う 機会が

アンマリ ゴワヘンノデネー。  
あまり ございませんのでねえ。

32C : マー ソーユ、 (D ソレカラ アノー) コトバノ  
まあ そういう、 (D それから あの) ことばの

チョコチョコワ マーネー イマデモ ツコーテマスケドナー  
いくらかは まあねえ 今でも 使っていますけどねえ。

ウチデ。  
家で。

33A : ンー マー ソヤナー ウーン \*\* ゴワスナンカ ヨーネー。  
んー まあ そうだなあ うーん \*\* 「ゴワス」なんか よくねえ。

大阪 02-4

(C ウン) ゴワヘン トカ (C マー) ソラー  
(C うん) 「ゴワヘン」 とか (C まあ) それは

イーマスケドネー。 モ ソレモ チョイト  
言いますけどねえ。 「もう それも ちょっと

ゴワヘンノデー チー、 ソー、  
ゴワヘン [=ごさいません] ので、 って、 そう

ユーテゴワッケド。  
言っていますけど。

34D : アノー オショーガツニ アノー Fサントコー  
あの お正月に あの Fさん [の] ところ [は]

ヨー アノー ナンデスワナー。 アノー ムカシワ オショーバイ  
よく あの あれですよねえ。 あの 昔は お商売 [を]

ナサッテルトコノ トーサン [7] デシタカラ  
なさっているところの お嬢様でしたから

アノジブンノ オショーガツニワ ミナネ? ミセノヒトガ ソレ、  
あの頃の お正月には 皆ね、 店の人が それ

アノー オゾーニ イワウトキ、 マエニワネ? アノー  
あの お雑煮 [を] 祝う時 前にはね、 あのう

ヤッパリー、 カゾクガ ミナ、 アイサツシアウ トユーフナ  
やはり 家族が 皆 挨拶しあう というふうな

大阪 02-5

(F エ エー ソーデスネ) シューカンガー アッタンデンナー。  
(F ええ ええ そうですね) 習慣が あったんですね。

マー ワレワレデモ ソヤッタケド。  
まあ 我々でも そうだったけど。

35F : モー、 ソーデンナー、 ヨンジュニンクライ ズーット  
もう そうですねえ 40人くらい ずーっと

オゼンノ マエニ ナラビマシテネ。 (D ホー ホー) ソイデ  
お膳の 前に 並びましてね。 (D ほう ほう) それで

モー、 ジュンジュンニ アイサツ モーシマスネン。  
もう 順々に 挨拶 [を] 申すんです。

(D ハー ハー) デスカラ (D へー) ゴニンモ ロクニンモ  
(D はあ はあ) ですから (D へえ) 5人も 6人も

ズーット ツギカラ ツギニマデ ワタシラ、 チーサイトキデモ  
ずーっと 次から 次にまで 自ら、 小さい時でも

ワタシラニデモ バントーガ チャント (D {笑})  
私達にでも 番頭が ちゃんと (D {笑})

オメデトーゴザイマス サクネンチューワ イロイロ  
「おめでとうございます 昨年中は いろいろ

オセワンナリマシテ マタ コトシモ ドーゾ ヨロシク  
お世話になりました また 今年も どうぞ よろしく」

ユーテ、 ソナイシテ モーシマシタ。 (D ハー)  
[と] 言って そのようにして 申しました。 (D はあ)

36G : ソーユーヒョージュンゴジャナイデショ。 ソノ コトバオ、  
そういう標準語じゃないでしょう。 その、 ことばを

オーサカベンデ ヤッテイタダキタイ。  
大阪弁で やっていただきたい。

37F : アー ソーデッカ。 {笑} (G \*\*\*) (C・E {笑})  
ああ そうですか。 {笑} (G \*\*\*) (C・E {笑})

02↑03

38G : ド ドーユーアイサツデス。  
× どういう挨拶です [か]。

39D : ソレワネ アノー、 ンー ナンデスワナー。  
それはね あの んー あれですよええ。

40E : デモ ソレワ ヤッパリ、 (F ソレ) オメデトーゴザイマス、  
でも それは やはり (F それ) 「おめでとうございます

キューネンワ イロイロ オセワンナリマシタ。  
旧年は いろいろ お世話になりました」

41D : ソラーネー、 アノ アンマリ アノー、 ナンデッシャロ？  
それはねえ あの あまり あの なんでしょう

アノ オーサカベン ユーテモ  
あの 大阪弁 [と] 言っても

大阪 03-2

(F ソー、 アノ アラタマッタトキニワ ヤハリネー)

(F そう。 あの あらたまった時には やはりねえ)

ソナナコトバデスワ。 (F アーン) ナ。 チャウカ?

そんなことばですよ。 (F あーん) ね。 違うかい?

42E : ンー。 ソーデスナー。

ええ。 そうですねえ。

43D : アノー ソノトキニネ、 アノー オメデトーゴワース [8]

あの その時にね あの 「おめでとうゴワス」

トカネ? ユーコトワ アンマリ イーマセンナー ヤッパリ

とかね [そう] いうことは あまり 言いませんねえ やはり

オメデトーゴザイマス。

「おめでとうございます」

44E : ソレワ カンリヤクニー リヤクシタコトバヤネ。 (D ンー)

それは 簡略に 略したことばだね。 (D ええ)

オメデトーゴワースー ユーノワ。

「おめでとうゴワス」 [と] いうのは。

45D : オメデトゴワス ユータラ アノー ツマリ、

「おめでとうゴワス」 [と] 言ったら あの つまり

(G ン マ) アノー (A ミチデ オータトカ チョット \*\*)

(G ン まあ) あの (A 道で 会ったとか ちょっと \*\*)



大阪 03-3

エー エー ナカマドーシデ、ヤッタ オメデトーゴワスデー  
ええ ええ 仲間同士でだったら 「おめでとうゴワス」で

シマイデッケドナ。 ソラ ヤッパリ (E ワタシラヤッタラ)  
終りですけどね。 それは やはり (E 私らだったら)

ゴシュジン、 イマノ オカミヤカラ。  
ご主人に。 今の〔話では〕 主人〔が相手〕だから。

46A : ソラ、 ミチデ オーテモ、 シッタヒトヤッタ キッチリ テ、  
それは 道で 会っても 知った人だったら きちんと ×

ネー。 (E ウン) (D エー) ホーゲン ツカワント、  
ねえ (E うん) (D ええ) 方言〔を〕 使わないで

オメデトーゴザイマスン ナルナー。 (E ソー ソー)  
「おめでとうございます」に なるなあ。 (E そう そう)

(D ナー。 イーマンナー) エー。 イーマス。  
(D ねえ。 [そう] 言いますねえ) ええ。 言います。

ソリャ イーマシタデスナー。  
それは 言いましたですねえ。

47D : モー ズット オバーサン ナルトネー オベー  
もう ずっと おばあさん〔に〕 になるとねえ ××

オメデトー アー ナンヤ ユータ。  
「おめでとう」 あー 何とか 言った。

大阪 03-4

48F : オメデトーサンデス ユーテ  
「おめでとうさんです」 [と] 言って。

(A オメデトーサン) (D エ?) マー テーネイニネー、  
(A 「おめでとうさん」) (D え?) まあ 丁寧にねえ

(D アー) オメデトーサンデスー ユーテ。 マダ、  
(D ああ) 「おめでとうさんです」 [と] 言って。 まだ

サンノ アトエ デスオ ツケテハッタデンナ?  
「さん」の 後へ 「です」を つけておられましたね?

49D : ソー ソ、 オメデトーサンデスネ、 (F エー) エー  
そう そう 「おめでとうさんです」ね。 (F ええ) ええ

ソヤッタ、  
そうだった。

50A : ダイタイ オメデトーサンデ、 ネ トーシテマシタナ。  
だいたい 「おめでとうさん」で、 ねえ 通していましたね。

(D エ、 オメデトーサンデス ト) オメデトーサン  
(D ええ 「おめでとうさんです」 と) 「おめでとうさん」

チュテ。  
と言って。

51D : マ ソレデー コト スミマスネ。 エー。  
まあ それで こと [が] すみませぬ。 ええ。

52F : ソデ ショーニンデシタラ アノー マー オカミノホーガ  
それで 使用人でしたら あの まあ 主人のほうが

アイサツシマスノ、 マー オメデトーサン。  
挨拶しますの [が] まあ 「おめでとうございます」 [と言う]。

(D ンー) ン キュ、 フユトシ [9] ニワ イロイロ  
(D んー) ん ×× 「冬年には いろいろ

ツカイタテマシテネ ユーテネ。  
使いたてまして」 [と] 言ってね。

(D ア ソヤ ソヤ ソヤ) (E ソー ソー ソー ソー)  
(D あ そうだ そうだ そうだ) (E そう そう そう そう)

53D : アー オツカイタテシマシタ ト。 (F マタ、 ネ) エ。  
あ 「お使いたてしました」 と。 (F また、 ね) え。

(F ソレモ) マー、 ホンネンモ ヨロシ タノンマッセー  
(F それも) 「まあ 本年も よろしく 頼みますよ」

ト。 (F ハイ) コエ カケル。 マー シュジンワー ソー  
と。 (F はい) 声 [を] かける。 まあ 主人は そう

ユーワケデスネ。 (F ン ソーデス) エー、 ムコノホーワ、  
言うわけですね。 (F うん そうです) ええ。 むこうのほうは

アノ ホンネンモ ドーゾ ヨロシユ オネガイイタシマス ト  
あの 「本年も どうぞ よろしく お願いいたします」 と

大阪 03-6

(F エー) コー イーマックドモ。

(F ええ) こう 言いますけども。

54A : \*\*\*\* タノンマッセ チュナモンデスワナ。

\*\*\*\* 「頼みますよ」 というようなものですよね。

(D エー エー) コトシモ タノンマッセー ト ヨー ユー、

(D ええ ええ) 「今年も 頼みますよ」 と よく 言う、

チョット ソレワ ヨー イーマックド。 ソリヤー モー、  
ちょっと それは よく 言いますけど。 それは もう、

フツーネー。

普通ねえ。

55F : ソンナトキニワ ヤッパリ オーサカベンヤナシニ ソノ、

そんな時には やはり 大阪弁ではなくて その

(A ハジメ) テーネーナコトバ ツカッテタヨーデンナー。

(A はじめ) 丁寧なことは [を] 使っていたようですねえ。

へー。

はい。

56A : ソーデッサロナ ワタシモ ソー オモイマスネー (D ンー)

そうでしょうね 私も そう 思いますねえ。 (D んー)

オメデトーゴザイマス ト (F へー) キッチリ ソノトキワ、

「おめでとうございます」 と (F はい) きちんと その時は、

大阪 03-7

ネー ヒョージュンゴ ツコーテハッタ ト ワタシワ  
ねえ 標準語 [を] 使っておられた と 私は

オモイマスナー。  
思いますねえ。

57D : マー ソヤケド ソレモ アクセントガ チガイマスカラナ  
まあ そうだけど それも アクセントが 違いますからね。

(A ア) (G アクセントガ チガウ。 アクセントガ チガウ)  
(A あ) (G アクセントが 違う。 アクセントが 違う)

トーキョーベンジャ ナインデス。 (A ハイ ハイ)  
東京弁じゃ ないんです。 (A はい はい)

(F ソーデンナー) エー ソラ アノー  
(F そうですねえ) ええ。 それは あの

トーキョーベンジャ ナインデスケドネ。 オメデトーゴザイマス  
東京弁じゃ ないんですけどね。 「おめでとうございます」

チュー、 ソラ マー、 アノー ゴザイマスワ イーマックドナ。  
という それは まあ あの 「ございます」 は 言いますけどね。

ンー。 アノー オーバーハン ナルト ゴワイマス チュー  
んー。 あの おばあさん [に] なんと 「ゴワイマス」 と言う

ヒトモ アリマンナ。 {笑}  
人も ありますね。 {笑}

大阪 03-8

58A : ン。 ヤ ゴワス ゴワス チューコトワ ワリニ  
うん。 いや 「ゴワス」、 「ゴワス」 と言うことは わりあい

ムカシカラ ハ オーカッタデスネー。 (D ゴワイマス)  
昔から × 多かったですねえ。 (D ございます)

59F : ソーデンナ。  
そうですね。

60A : ワタシ イマダニ ゴワスモ、 ツカイマス。  
私 [は] いまだに 「ゴワス」 も 使います。

61F : ア、 アンサン ヨー ソノ サッキカラネ、 (A ウン)  
あ、 あなた [は] よく その さっきからね (A うん)

ゴワス ユーテ オッシャツテ\*\*\*ネ。 (G {笑})  
「ゴワス」 [と] 言って おっしやって\*\*\*ね。 (G {笑})

62A : イヤ コレ シジュー ツカイマンネン。 ワタシワ。 (F へ?)  
いや これ 始終 使うんです。 私は。 (F え?)

シジュー ツカイマンネン。  
始終 使うんです。

63F : アー ソーデッカ。  
ああ そうですか。

64A : エー。 ソデ ウチノ\*\*\*ニ X1\*\*、 オルデショー?  
ええ。 それで うちの\*\*\*に X1\*\* いるでしょう?

X1、 デ、 X2セ、 ツ X2サンノ ゴシユジン  
X1 [それ] で X2× × X2さんの ご主人 [と]

ヨー ハナシ シマツシャロー? (F へー へー)  
よく 話 [を] しますでしょう? (F ええ ええ)

\*\* オーサカ、ベンデツシャロー?  
\*\* 大阪弁でしょう?

ドナイデ ゴワハンネン  
「ドナイデ ゴワハンネン [=いかがでございますか]」

オイソガシー ゴワッカー  
「オイソガシ ゴワッカ [=お忙しゅうございますか]」

テ ツイ ソー イーマンネン  
と つい そう 言うんです。

コノゴロデモネー? (D {笑}) ダカ  
この頃でもね? (D {笑}) だから

ゴワス ッチューコトワ ヨー ユイマスワ ワタシワ。  
「ゴワス」 ということは よく 言いますよ 私は。

(F アー ソーデッカー) エー。  
(F ああ そうですか) ええ。

03↑04

65G : ドーデスカ ゼンブ ゴワス ツケテ、  
どうですか、 全部 「ゴワス」 [を] つけて

大阪 04-2

ヤリマセンカ。 (E {笑}) (F ゴ)

やりませんか。 (E {笑}) (F ×)

66A : イヤ ソリャ センセー シン イヤハルケドネ ナカナカ  
いや それは 先生 さん [そう] 言われるけどね なかなか

ソレ、 キリカエガ {笑} (D {笑}) ツイネー ナカニ  
それ、 切り換えが。 {笑} (D {笑}) ついねえ 中に

コンゴーシテシマウ。 ミックス ナッテシマウンスヨー。  
混合してしまう。 ミックス [に] なってしまうんですよ。

(G アー) ホトンド ツカッテナインデスモン。 イマノ

(G ああ) ほとんど 使っていないんですもの。 今の

ジダイネー。

時代 [では] ねえ。

67G : ツカッテナイカラネー。

使っていないからねえ。

68D : エ ゴワヘン チューコトワ イーマスナ。 (A イーマス)

ええ 「ゴワヘン」 ということは 言いますね。 (A 言います)

アリマセン チューコト ゴワヘン。 (G ゴワヘン)

ありません ということ [を] 「ゴワヘン」 (G ゴワヘン)

69A : ゴワヘン。 ワタシラ シジュー ゴワヘン チュコトワ

「ゴワヘン」。 私ら [は] 始終 「ゴワヘン」 ということは



大阪 04-3

ツカイマスヨ。

使いますよ。

70D : エ、 ゴワヘン チュ エー、 ソラ  
ええ 「ゴワヘン」 という ええ 「ソラ

ゴワヘン テーマッサ。 エー。  
ゴワヘン [=それはございません] って言いますよ。 ええ。

71F : オンナデモ ソーデゴワンナー  
女でも 「ソーデゴワンナー [=そうでございますねえ]」 [と]

(A エー) ユーコトワ、 (A ヨー イーマスネ、 エー、 エー)  
(A ええ) いうことは (A よく 言いますね。 ええ ええ)

イーマスンケドナ。 (D ゴワヘンナー。  
言うんですけどね。 (D 「ゴワヘンナー [=ございませんね]

ゴワンナー。 ンー ンー)  
「ゴワンナー [=ございますね]」 ええ ええ)

72A : アノ イケダヤノ オクサンデモネ? (F エー)  
あの いけだやの 奥さんでもね? (F ええ)

ア ソーデ ゴハンナー ヨー  
「ア ソーデ ゴハンナー [=あ、そうでございますねえ]」 よく

ブンボーグヤノ\*\*\*、 オクサン イマツシャロ、 (F ア)  
文房具屋の\*\*\*、 奥さん いますでしょう (F あ)

大阪 04-4

アノカタネー、 (F ヘー) アレ \*\*\*デスサカイネー。  
あの方 [が] ねえ (F ええ) あれ [は] \*\*\*ですからねえ。

(F ヘー) ダカ、 ソーデゴハンナー  
(F ええ) だから 「ソーデゴハンナー [=そうでございますねえ]」

モー ウチ イマノトコ ナニモ  
「もう うち [は] 今のところ 何も

ゴワヘンノデネー マタ ソノウチ  
ゴワヘン [=ごさいません] のでねえ また そのうち

トリヨセトキマスサカイ {息を吸う} ドーゾ ヨロシユー  
取り寄せておきますから {息を吸う} どうぞ よろしく」

デ (F マタ キトークレヤス) ア  
で (F 「マタ キトークレヤス [=また来てください]」) あ

キテオクレヤス {笑} ネ。  
「キテオクレヤス [=来てください]」 {笑} ね。

73D : ソー ソ、 ソーユーコトー モーシマスナー。 (A エー) エー。  
そう そう そういうことを 申しますねえ。 (A ええ) ええ。

ソレカラ コドモードーシデー、 ナンデンナー アノー シー [10]  
それから 子供同士で あれですね あの 「シー」

シー チーマシタナー。 アレヤ シー、 ナン  
「シー」 と言いましたねえ。 あれだ 「シー」 何 [だ]

大阪 04-5

アレワネー (A ンー) アノー チョット マー アノ、  
あれはねえ (A んー) あの ちょっと まあ あの

ドッチカ ユート、 トシヨリカー オコラレタンデス。  
どちらか [と] いうと 年寄りから 怒られたんです。

アンナコトバ ツコータ イカンデー テ。  
あんなことば [を] 使っては いけないよ って。

74E : ウチ ウチデ ツコーテ、 ネ。 ガッコーデワ ユーテモネ。  
家、 家で 使って、 ね。 学校では 言ってもね。

75F : アノ、 トモダチドーシワネ、 ヨー イーマシタネ。  
あの 友達同士はね よく 言いましたね。

76D : エー。 イカンデー ッチュー テイーマスケドナー  
ええ。「イカンデー」と言う って言いますけどねえ。

イカンシー? トワ イーマセンナー。  
「イカンシ [=いけないよ]」? とは 言いませんねえ。

アノー イカンシー ユータラ ナンヤ コー、  
あの 「イカンシ」 [と] 言ったら 何か こう。

77F : セヤシー ユーテネー。  
「セヤシー [=そうだよ]」 [と] 言ってねえ。

78E : ンー ンー ウチデ ツコタ オコラレテ。  
うん うん 家で 使ったら 怒られて。

大阪 04-6

79D : エー アノー コトバ イカン ユーテ。  
ええ あの ことば [が] いけない [と] 言って。

80A : ワテ [11] ワテ ワテナー ワテナー  
「ワテ [=私]」 「ワテ」 「ワテナあ [=私ねえ] ワテナあ」

ユーテネー。 ウチ [12] ワ、 ワテナワ オンナノ、  
[と] 言ってねえ。 「ウチ」は、 「ワテナ」は 女の、

ウチワ、 ボクラ トキドキ ウチ ユータネー  
「ウチ」は 僕ら [も] 時々 「ウチ」 [と] 言ったねえ。

\*\*\*\*サン。

\*\*\*\*さん。

81C : ワ ワタシラ ワテ ユータ。  
× 私ら [は] 「ワテ」 [と] 言った。

82A : ワテ ユータナー。 ウチワ ワテ ユータナー。  
「ワテ」 [と] 言ったなあ。 私は 「ワテ」 [と] 言ったなあ。

83C : ソヤッテ カナイ ビックリシタ ユーテ。  
//// 家内 [が] びっくりした [と] 言って。

(A ナー ワシラカテ)

(A ねえ 私らだって)

84F : ワタシモネ ワテ モーシマスネン。 ソシタラ アノネ、  
私もね 「ワテ」 [と] 申すんです。 そしたら あのね、

大阪 04-7

ムスコガネ、 オカーサン ンー トキドキ ワテ イーマッセー  
息子がね 「おかあさん んー 時々 ワテ [と] 言いますよ」

ユーテ イーマスノデ、 ヘー ワテ ソンナニ ワテ  
[と] 言って 言いますので、 「へー ワテ そんなに ワテ

ユーカイナー、 (全員 {笑}) ユーテネ。  
[と] 言うかなあ (全員 {笑}) [と] 言ってね。

(D ワテ ソンナニ ワテ ユーカ {笑})

(D 「ワテ そんなに ワテ [と] 言うか」 {笑})

(A ワテ ワテ) ハー。 ソレ モー シラズニ

(A 「ワテ」 「ワテ」) はあ。 それ もう 知らずに

ソナン デマスデスワー。 チョット オーワライ  
そんなの [が] 出ますんですよ。 ちょっと 大笑い

シタコト アリマス。 {笑}

したこと [が] あります。 {笑}

85A : キョネンデシタカナ Cハン クラスカイ ヤットトキ。

去年でしたかね Cさん。 クラス会 [を] やった時。

(C ソー ソー ソー) アノー センパノネー、 イヤ

(C そう そう そう) あの 船場のねえ いや

ホントノ コイサン [13] デスワ。 ソノジブンノ。

ほんとうの 「コイサン」 ですよ。 その頃の。

ジュニンホドネー。 イマ ミンナ アシヤニ  
10人ほどねえ。 今 皆 芦屋に

スンデマスケド、 ソノヒトタ、 ウチ ワテ  
住んで [います] けど、 その人 [たち]、 「ウチ」 「ワテ」

ナニ ユーテンノ アンタ  
「何 ユーテンノ [=何を言ってるの] アンタ

アカンヤンカー [14] ユーテネ  
アカンヤンカー [=だめじゃないの] [と] 言ってね。

ホントノネ センバコトバ デテマシタデスワ。  
ほんとうのね [船場] ことば [が] 出ていましたですよ。

86C : ソラ ヤッパ アイテガ デルトネー、  
それは やはり 相手が 出るとねえ、

(A ソー ネ、 ツイ ソヤッテネー) ツイ  
(A そう ね、 つい そうやってねえ) つい

デテクルンデスケドネー。 (A エー)  
出てくるんですけどねえ。 (A ええ)

04↑05

87F : ソーデスネ。 (C ウン) アイテガ オーサカベンデスト  
そうですね。 (C うん) 相手が 大阪弁ですと

コッチモネ シゼンニ パーット デテキマスンデッケドネー。  
こちらもね、 自然に ぱーっと 出て来ますんですけどねえ。

大阪 05-2

88D : ソー ソー、 ソーユーコトデショ ヤッパリネ、 ムコカラ  
そう そう、 そういうことでしょう やはりね、 むこうから

ユードーサレル {笑} アノー、  
誘導される {笑} あの、

89F : アー オタクラネー ドチラモ、 オーサーカーノ  
あの あなたがたねえ どちらも 大阪の

カタデスサカイニネー  
方ですからねえ

90D : エー エー デスカラ オーサカベン ズクズク [15] デ  
ええ ええ ですから 大阪弁 「ズクズク」 [=べったり] で

ヤリマス。  
やります。

91F : モー、 ツネ ズット、 (E ンー フン) ネー  
もう、 日頃 ずっと (E んー うん) ねえ

ツカッテラレマスンデッシャロ？  
使っておられますのでしょうか？

92D : アノ オーサカベンオー モー バッカリ ベッターリ  
あの 大阪弁を、 もう [大阪弁] ばかり ベったりと

ヤルノー オーサカベン ズクズクヤ イーマンネン。  
やるのを 「大阪弁 ズクズクだ」 [と] 言うんです。

大阪 05-3

(C アー) ー ー。 {笑}

(C ああ) ええ。 ねえ。 {笑}

93A : ソラ、 Bサンワ ワリニ オジョーズデスエ。 オタクワ。  
それは Bさんは わりあい お上手ですよ。 あなたは。

ヨー、 ン アノ ホントノ アンマリ クチノ、 スクナイ  
よく ン あのほんとうの、 あまり 口 [数] の 少ない

オカタデゴワッケドナー。 (全員 {笑}) (B ソーデンナー)  
お方でございますけどねえ。 (全員 {笑}) (B そうですねえ)

オンコーナ オカタデッサカイ。  
温厚な お方ですから。

94F : アノ テーネーナ コトバ、 ネ。  
あの 丁寧な ことば [を]、 ね。

95B : ドー ユーテ ヨロシーカーナ。  
どう 言ったら よろしいかなあ。

96F : ツカッテハリヤンスワ。  
使っておられますわ。

97B : エー。 (F ー) ソノトキニ ナラント デマセンケドネ。  
ええ。 (F ん) その時に ならないと 出ませんけどね。

(A {笑})

(A {笑})



大阪 05-4

98F : エ、 サテ ト ナリマストネー。  
ええ さて [話せ] と なりますと [なかなか大阪弁が出ない] ねえ。

99B : エー。 デマセンワ。 {間}  
ええ。 出ませんよ。 {間}

100D : デ チョットー、 (B エー) アノー、 ドートーノ  
[それ] で ちょっと、 (B ええ) あの 同等の

ヒトニ ユーノト チョット ウワメノ ヒトニ ユーノトデ、  
人に 言うのと ちょっと 目上の 人に 言うのとで

アノー チゴーテクルンデスナー。 デ マー アノー  
あの 違って来るんですね。 [それ] で まあ あの

マー ワレワレデモー、 ヨソノ オクサンニ、  
まあ 我々でも よその 奥さんに

ゴリョンサン [16] トワ イーマセンネー。 ネット。  
「ゴリョンサン [=奥様]」とは 言いませんねえ。 ねっ。

ゴリョンサントワ イーマセンワナ。  
「ゴリョンサン」とは 言いませんよね。

101F : エー。 ムカシワネー (D エー) ユーテマシタデンナー。  
ええ。 昔はねえ (D ええ) 言っていましたですねえ。

102D : ハー ハー。 ソヤケドモ、  
はあ はあ。 そうだけれども、

大阪 05-5

103E : ソヤケド ソレワ、 アノ ジョチューサンヤ ナンカガ ワタシラニ  
だけど それは あの 女中さんや 何かが 私達に

ムカッテ ゴリョンサン。 (F へー、 へー)  
向かって 「ゴリョンサン」 [と言う]。 (F ええ ええ)

104D : ソヤ ゴリョンサン トユー、  
そうだ 「ゴリョンサン」 と言う、

105E : ソエデ ワタシラガ ヨソノ オクサンニ タイシテ、  
それで 私達が よその 奥さんに 対して

(D いや、 セー) ゴリョンサン トワ  
(D いや、 ××) 「ゴリョンサン」 とは

イーマセンヤロ?  
言いませんでしょう?

106D : サン トワ イヤシマヘンデ。  
「[ゴリョン] サン」 とは 言いはしませんよ。

107F : ソーデスナー。 (E ー)   
そうですねえ。 (E んー)

108D : ー ソノトキワ ヤッパリ ゴリョンサンヤナシニ アノ  
んー その時は やはり 「ゴリョンサン」 ではなく あの、

オクサンヤ。  
「オクサン」 だ。

109A : ソヤケドモネー、 ワタシラ ヤッパネー、 アノ ショーバイ  
だけれどもねえ 私達 [は] やはりねえ あの 商売 [を]

シテマッシャロ?  
していますでしょう?

110F : へー。  
ええ。

111A : ソヤカ ツイネー。 (F エー) アノー ヤッパイ  
だから ついねえ。 (F ええ) あの やはり

オトクイサンノ オクサンヤ ゴリョンサン イーマシタワ。  
お得意さんの 奥さんは 「ゴリョンサン」 [と] 言いましたよ。

エー。  
ええ。

112F : アッ ドンナカタデモネー。 (E アー アー アー)  
あつ どんな方でもねえ。 (E ああ ああ ああ)

113A : エー。 ヤッパ オトクイサンデスサカイ、 (F エー)  
ええ。 やはり お得意さんですから (F ええ)

ゴリョンサン ト。  
「ゴリョンサン」 と。

114D : ンー ソー ソー、 オトクイサンノトキワネ  
んー そう そう、 お得意さんの時はね

大阪 05-7

(A エー ハイ ゴリョンサンネ) ゴリョンサンデ

(A ええ はい 「ゴリョンサン」ね) 「ゴリョンサン」で

ヨロシーネンケドナ。

いいんだけどね。

115A : ソ ホエ、 コイサンデモネ (D ソー ソー) モー  
そう それ [は] 「コイサン」でもね (D そう そう) もう

コノゴロ アンマリ イエシマセン (D ウン)

この頃 [は] あまり 言いはしません。 (D うん)

ゴリョンサンワ イマダニ イーマスワ

「ゴリョンサン」は いまだに 言いますよ。

オイサン [17] モネ タマニネ。 (D エー) コノゴロ

「オイサン」もね たまにね。 (D ええ) 「この頃

オミウケシマヘンケド ナンデ、 ドンナンデッカー  
お見受けしませんけど どうして、 どんな [ぐあい] ですか」

トカネー。 (D エー エー) オイサン

とかねえ。 (D ええ ええ) 「オイサン

オミウケシマヘンケド ドンナデッカー ユテ

お見受けしませんけど どんな [ぐあい] ですか」 [と] 言って

オゲンキデスカー ユーテ。

「お元気ですか」 [と] 言って。



大阪 05-9

ソーデッカ、 アー ソーデッカ トユーノワ、 ヤッパイ  
「そうデッカ、 ああ そうデッカ」と言うのは やはり

チョット ウワメノ ヒトニタイシテ ユーンデス。(C ンー)  
ちょっと 目上の 人に対して 言うんです。(C ンー)

デ ソーダッカ テユン、 (F ソーダッカ)  
[それ]で「そうダッカ」って言うの、 (F 「そうダッカ」)

ユーノワ、 チョット マー ドートーカ チョットー、 マ  
言うのは ちょっと まあ 同等か ちょっと まあ

シタメ、 (F ソーデッカ、 ネ)  
目下、 (F 「そうデッカ」、 ね)

117A : ア ソーデゴハッカモ  
あ、「そうデゴワッカ [=そうでございますか]」も

イーマッセー?  
言いますよ?

118D : エ。 ソーデゴワッカ  
ええ。「そうデゴワッカ」

119E : ソーデゴワッカ ヤッタ モヒトツ テーネー。  
「そうデゴワッカ」 だったら もうひとつ [=さらに] 丁寧。

120F : モヒ、 モヒトツ テーネー。  
×× もうひとつ [=さらに] 丁寧。

大阪 05-10

121A : エー エー エー、 ソーデゴワッカ ユーノワ  
ええ ええ ええ、 「そうデゴワッカ」 [と] というのは

122C : ソーデゴワッカ ユーノワ ウエニ、  
「そうデゴワッカ」 [と] というのは 目上に

(D モヒトツ) ウン。

(D もうひとつ [=さらに]) うん。

123A : エー。 ウエニ。 タショー ウエメノ、 ケーゴン ナル、  
ええ。 目上に。 多少 目上の、 敬語に なる、

124D : ソーデッカ ヨリ モヒトツ ジョートヤ。  
「そうデッカ」 より もうひとつ [=さらに] 上等だ。

125A : ジョートーデンネン。 ア ソーデゴハッカ。  
上等なんです。 「あ そうデゴワッカ」

126D : ソーデゴハッカ。 {笑} (A ー) エー。 ソーデンナ。  
「そうデゴワッカ。」 {笑} (A ん) ええ。 そうですね。

127E : ソンナコトゴワヘンデー トカ  
「そんなことゴワヘンデー [=ごさいませんよ]」 とか

(A ゴワヘンネ、 エー) ユーノワネー ヤッパリ チョット

(A 「ゴワヘン」ね、 ええ) というのはねえ やはり ちよっと

テーネー。 (A テーネーデスサカイネー) ネ。

丁寧。 (A 丁寧ですからねえ) ね。

05↑06

大阪 06-1

128D : アンバイ [18] テ、 アンバイ チュノモ コレ  
「アンバイ」 って、「アンバイ」 というのも これ [は]

オーサカベンヤネ。  
大阪弁だね。

129E : アンバイトカ アンジョー [19] ユタラ  
「アンバイ」とか 「アンジョー」 [と] いったら

オーサカベンデッカ。  
大阪弁ですか。

(A アンジョー。 アンジョー トカユー)  
(A 「アンジョー」 「アンジョー」 とか言う)

130D : アンジョー。 (A アンジョー トカユー)  
「アンジョー」 (A 「アンジョー」 とか言う)

アンジョー タノンマッセ トー  
「アンジョー [=上手いぐあい]に」 頼みますよ」 と

(A ウン) ユーコトワ ヌー イーマスナー。  
(A うん) いうことは よく 言いますねえ。

(C ソーデスネ。 ウン) アラー ベンリナ コトバデスワ。  
(C そうですね。 うん) あれは 便利な ことばですよ。

(C ウン {笑}) (A アンジョー {笑}) ナンデモ  
(C うん {笑}) (A 「アンジョー」 {笑}) 何でも



大阪 06-2

アンジョーデ コト、 スムンヤカラ。 オー \*\* マー  
「アンジョー」で こと [が] すむんだから。 おー \*\* まあ

アンジョー タノンマッセー テ、 ナンノコッチャ  
「アンジョー 頼みますよ」 って、 何のことやら

ワカラヘンケド、 {笑} アンジョー タノンマス、  
わからないけど。 {笑} 「アンジョー 頼みます」

131A : マカシトキー チュナモンデ {笑}  
「マカシトキ [=任しておいて]」 というようなもので。 {笑}

(D {笑}) マカシトキワ ドコカナ。 ソラ  
(D {笑}) 「マカシトキ」は どこかな。 それは

132D : アンジョー チュノワ ヨー シカシ、 ソ アノ  
「アンジョー」 というのは よく しかし × あの

デル コトバデッセネー。  
出る ことばですよねえ。

133A : ナー アンジョー チューノワネー。  
ねえ。 「アンジョー」 というのはねえ。

134D : エー。 デ チョット コノー、 アンナー ナニ  
ええ。 [それ]で ちよっと この あんな 何 [を]

シテモネー、 アッ コノー ア コレ タベタラネー  
してもねえ、 あっ この、 あ これ [を] 食べたらねえ、

大阪 06-3

アノー、ア コレ チョット ノジ [20] ガ アル トユー。  
あのう 「あ これ ちよつと ノジが ある」 と言う。

(A ン) ノジガ アル。 (A \*\*\*ノジネ)  
(A ン) 「ノジ」が ある。 (A \*\*\*「ノジ」ね)

ノジガ アル チューノワ マー ツマリ、  
「ノジ」が ある というのは まあ つまり

(A タベ、 タベゴタエデスカナー)  
(A ×× 食べごたえですかねえ)

エー タベデ [21] ガ アル。 (A タベゴタエトカネ)  
ええ 「タベデ」が ある。 (A 食べごたえとかね)

タベデ チュー、 コトバガ アリマスナ。  
「タベデ」と言う ことばが ありますね。

135E : ンー。 ソー チョット ナガク モツトカネ。  
んー。 そう ちよつと 長く もつとかね。

136D : ン ナガク モツ。 ユーノー ソレオ、 タベデガ  
うん 長く もつ。 [と] いうのを それを 「タベデ」が

アル トカ ノジガ アル トカ。 アノー、 ユー、 マー  
ある とか 「ノジ」が ある とか。 あのう いう まあ

コトバガ、 アリマスネー コレ ヨー イマデモ  
ことばが ありますねえ、 これ [は] よく 今でも

ワタシラ ツカイマス。

私達 [は] 使います。

137A : アー ノジ ッテ ワタシラ アンマリ、 (D ンー)  
ああ 「ノジ」 って 私達 [は] あまり (D ンー)

ツカイマセン。

使いません。

138D : アノゴハン ノジガ アルナー ト コー、 (A ア ソーデスカ)  
「あのご飯 ノジが あるなあ」と こう。(A あ そうですか)

エー ヤリマスワナー。 ヨー ツカイマスヨ?  
ええ、 やります [=使います] よねえ。 よく 使いますよ?

エー。 ツカイデガ アル トカネ。 {笑} ソレ デガ  
ええ。 「ツカイデが ある」 とかね。 {笑} それ 「デ」 が

デー [22] ガ アッタラ モー ソンデ、 アン ナンチューノカ  
「デ」 が あれば もう それで、 あの なんというのか

ン デ デル チュー ジデモ カクノカ {笑} エー。  
× × 「出る」 という 字でも 書くのか、 {笑} ええ。

ツカイデガ アル。  
「ツカイデが ある」。

139E : {笑} ン デモ ヨーケニ ナッタラ マンゾクシテ  
{笑} うん でも たくさんに なったら 満足して

大阪 06-5

コ ヤッテ {笑いながら} コンナフー ナッテ {笑}  
こう やって {笑いながら} こんなふう [に] なって {笑}

(D {笑}) ツカイデガ アル トカ {笑}

(D {笑}) 「ツカイデが ある」 とか。 {笑}

140D : {笑} ソレカラ イチバン セーセキガ アカナンダラネ?  
{笑} それから いちばん 成績が だめだったらね、

オマエ ベベタ [23] ヤナー トユー。  
「おまえ ベベタだなあ」 と言う。

141A : シー ベベタ。 ソラ ウンドーカイデモナ? オレ ベベタヤー  
んー 「ベベタ」 それは 運動会でもね? 「俺 ベベタだ」

ユーテ (E アー アー ソーネ)  
[と] 言って (E ああ ああ そうね)

(D ア ベベタヤ {笑}) ナー ベベヤー ユーテ。

(D あ 「ベベタだ」 {笑}) ねえ 「ベベだ」 [と] 言って。

142D : ベベタ チューワ ドーユージー カクノカ  
ベベタ という [の] は どういう字 [を] 書くのか

シランケドモ {笑} (A ベベタ) ベベタ  
知らないけれども {笑} (A 「ベベタ」) 「ベベタ」

チュー コトバガ アリマンナ。  
という ことばが ありますね。

大阪 06-6

(A エー エー ゴワッナー) エー。

(A ええ ええ ございますねえ) ええ。

アンナン ヨソデワ アンマリ イワンデショ ベベタ  
あんなの [は] よそでは あまり 言わないでしょう 「ベベタ」

チュナコト。 (C エー \*\*\*ネー) ソレカラネー、  
というようなこと。 (C ええ \*\*\*ねえ) それからねえ

ベベッ チーマスワナ。  
「ベベ [=着物]」 と言いますよね。

143A : ベベネー。 ベベ。 ベベ キテ。  
「ベベ」ねえ。 「ベベ」。 「ベベ」 [を] 着て。

(C キモノオネー)  
(C 着物をねえ)

144D : エー ベベ キテンナー。 ウン。  
「いい ベベ [を] 着ているなあ。」 うん。

145A : エー ベベ キテハッテ ドコ イキハンネー  
「いい ベベ [を] 着なさって どこ [に] 行かれるの」

ユーテネー。 エーベベ キテ。  
[と] 言ってねえ。 「いいベベ [を] 着て。」

06↑07

—— 中 略 ——

大阪 07-1

146F : ショーバイニンワ アノー ザイサンノ タカニ ヨリマシテネ?  
商売人は あの 財産の 多寡に よりましてね?

ヤッパリ チャント モー ヨソ、 ジュンジョガ  
やはり ちゃんと もう ××、 順序が

ゴザイマスندنナ。 (D ン) ンデ ワタシラワ、 コー  
ございますのですね。 (D ン) それで 私達は、 こう

ユビワ ヒトツ、 カイマスノンデモ、 ムコサンヨリ、  
指輪 ひとつ、 買いますのでも、 むこうさん [=相手] より、

オーキナワ コータラ イカン。 (D フン フン) デ  
大きな [の] は 買ったら いけない。 (D ふん ふん) で

コッチ、 シタノ スコシ シタメノカタヤツタラ  
こちら [は]、 下の 少し 目下の方だったら

ムコーヨリワ チョット オーキンノ コーテ。  
むこうよりは 少し 大きなの [を] 買って。

ナンデモ ソーデシタデンナ。 (D ン一) ナニ ヒトツ  
何でも そうでしたのですね。 (D ン一) 何 ひとつ

カウノンデモ、 ムコサンヨリ、 エーモン シタラ  
買うのでも、 むこうさんより、 いいもの [を] したら

アカン ユーテネ。 オセラレタコト\* アリマスワ。  
いけない [と] 言ってね。 教えられたこと [が] ありますよ。

大阪 07-2

ンー。

んー。

147A : ムコサン \*\*\*\*ネー ヒカクシハリマシテネー。  
むこうさんが \*\*\*\*ねえ 比較なさいましてねえ。

(F ソーデンネ)

(F そうなんですよ)

(D ンー アリマ タシカニ アリマスワ)

(D んー ありま [す] 確かに ありますよ)

ソデ ショーバイニンワ メッタニ アノ、 ジブントコノ  
それで 商売人は めったに あの、 自分 [の] ところの

オイエノ、 アノー オウチノ カド [24] マデー クルマ  
お家の、 あの お家の 入口まで 車 [に]

ノリハラシマヘンナ (D ウン、 カクッチワナー)

乗られはしませんね (D うん //////////////)

(F ソーデンネ) エー アノ テマエデ オリハリマシテ

(F そうなんです) ええ あの 手前で 降りられまして

アルイテキハリマス ジンリキシャデモネー \*\*\*\*。

歩いて来られます 人力車でもねえ \*\*\*\*。

148D : ソヤカラ アノー マー ユー カンコンソーサイノ、  
だから あの まあ 言う [=いわゆる] 冠婚葬祭の、

大阪 07-3

アノー オイワイトカ、 アノー マー オクヤミトカ  
あの お祝いとか、 あの まあ おくやみとか

ユーノンデモネ、 アン ムコサン ナンボヤ  
いうのでもね、 「あの むこうのほう [は] いくらだ」

テュタ {笑} ムコサン ナンボヤ テ  
と言った {笑} 「むこうのほう [は] いくらだ」 と

ジキニ マー、 キキマスワナ Bサントコエ マー、  
すぐに まあ、 聞きますよね Bさん [の] ところへ まあ、

アノー (B ソーデンナー) ナニ イッテモネ、  
あの (B そうですねえ) 何 [か] 要ってもね、

(B エー\*\*\*) ホタラ ムカイエー イキマッシヤロ  
(B ええ\*\*\*) そしたら 向かいへ 行きますでしょう

(B エー) Bサン ナンボデンネン アッ  
(B ええ) 「Bさん いくらなんですか、 あ

Bサンノ ウエデ イキマヒョーカ ト コー {笑}  
Bさんの 上で [=よりは多く] 行きましようか」 と こう {笑}

(B イヤ モー オタガイニネー) ソーユーフーナシキニ、  
(B いや もう お互いにねえ) そういうふうなやり方で、

149B : エー アノー キフトカネー (D エー) ナントカノ バーイワ  
ええ あの 寄付とかねえ (D ええ) 何かの 場合は



大阪 07-4

ミンナ ソーユウグアイニ モ、 ソノー キンチョー [25]  
皆 そういうぐあいに もう、 その 金帳 [を]

クッテミテ {笑} ソデ ソ\*テマス\*\*。  
繰ってみて {笑} それで そ [うし] ています\*\*。

150C : ソラ モー ワタシノホーガ イチバン {笑} ヨーケ  
それは もう 私のほうが いちばん {笑} たくさん

ミトリマスワ {笑} (全員 {笑})  
見ていますよ。 {笑} (全員 {笑})

151D : モー アノー X3サン イガイワ ソラ モー {笑}  
もう あの X3さん 以外は それは もう {笑}

ヒシヒシト カンジテハリマス  
ひしひしと 感じておられます。

152C : モー ンー \*\*ンキャ \*\*\*ニ デテイッテモネー {笑}  
もう んー \*\*/// \*\*\*に 出て行ってもねえ {笑}

(D {笑})

(D {笑})

153A : ワタシラ トコヤテネ ヤッパリ アノ、 オソーシキノモノト  
私達 [の] ところだってね やはり あの、 お葬式のものど

モー コーデンチョー ミテネー (F ハイー)  
もう 香典帳 [を] 見てねえ (F はい)

大阪 07-5

ア ムコー、 アノー ナクナッ ア シニハッタサカイニ  
「あ むこう [が]、 あの ××× あ 死なれたから

(D ウン) インナ ナンボー ホナ ウチノ  
(D うん) それなら いくら それなら うちの

コーデンチャー ミテミーヨー ユーテネー ソレト  
香典帳 [を] 見てみなさいよ」 [と] 言ってねえ それと

オンナショーナ ツラ アワシマシテネー、  
同じような [額に] 面 [を] 合わせましてねえ、

(D ウン ソーデンネン) ネー、 (D エ)  
(D うん そうなんです) ねえ、 (D え)

ウエモ シタラ イカンシ (D ウン)  
[それより] 上も [=多く] したら いけないし (D うん)

シタニ シテモ イカンシネー  
下に [=少なく] しても いけないしねえ。

154D : ソヤカラ アノー アンタトコ ナンダッセ? モー  
だから あの 「あなた [の] ところ [は] あれですよ? もう

コンナ オチツカナ アンタ トナリキンジョニ  
こんな [程度に] 落ち着かな [いと] あなた 隣近所に

ワラワレマッセー ト {笑} ソンナコト、  
笑われますよ」 と {笑} そんなこと [を]、

大阪 07-6

155A : \*\*\*\* スグ ワラワレルコトネー ミナ  
\*\*\*\* すぐ [に] 笑われること [を] ねえ 皆

\*\*\* イワハンネケドナー。

\*\*\* 言われるんだけどねえ。

156D : {笑} イワレルヤロネ、 (A エー) エー  
{笑} 言われるだろうね、 (A ええ) ええ。

マー コラー マー イ、 オーサカー

まあ これは まあ × 大阪

157C : マー ネ イマノ コトバーデスケド ケッキョク ハジ  
まあ ね 今の ことばですけど 結局 恥[を]

カク ユーコト イーマスノヤネー (D エ?)

かく[と] いうこと [を] 言うんですねえ (D え?)

ワラ ワラワレル ユーコトオネー (A ワラウ)

×× 笑われる [と] いうことをねえ (A 笑う)

(D ワラワ、 ンー) ハジ カク ユーコトワ

(D ×××、 んー) 恥 [を] かく [と] いうことは

イー\*\*\*ネー。

言い [ます] ねえ。

158D : ソー ソー ソー アノー ワラワレマッセー トユナネー。  
そう そう そう あの 「笑われますよ」 というようなねえ。

159C : ウン マ ソレデモ ミナネー ソノイミワ  
うん ま それでも 皆ねえ その意味は

フクンデルンデスケドネー。  
含んでいるんですけどねえ。

07↑08

160D : マー アノー ズット ムカシーノ ハナシーニ ナリマッケドモ  
まあ あの ずっと 昔の 話に なりますけれども

(C ウン) ドショーマチノ クミアイデネー アノー オジー  
(C うん) 道修町の 組合でねえ あの ///

アノ ナニカ クミアイ ナニガ ノコッテルラシーカラ  
あの 何か 組合 [に] あれが 残っているらしいから

(C エー エー ノコッテマスワ) ソノ アノ クミアイ  
(C ええ ええ 残っていますよ) その あの 組合 [に]

イレテモラウ ユータテ ナカナカ ソノー、  
入れてもらう [と] いったって なかなか その、

ココラノヒト ハイラレヘン、 ンデ チャント  
このあたりの人 [は] 入れない、 それで ちゃんと

ショーカイガ アッテ、 ソレー (C \*\*\*) アノ ヒトノ  
紹介が あって、 それ (C \*\*\*) あの 人の

ソノー、 (C \*\*\*ナー) クミアイ イレテモロタカギリワ、  
その (C \*\*\*な) 「組合 [に] 入れてもらった限りは、

大阪 08-2

(C ウン) モー ケシテ、 フギリナコトワ (C \*\*\*)

(C ウン) もう 決して、 不義理なことは (C \*\*\*)

イタシマセン ト、 モシ オフギリオ イタシマシタラ、  
いたしません」と、「もし 御不義理を いたしましたら、

マンザンナカデ、 (C ナカデ オワライ) オワライクダサレ  
満座の中で、 (C 中で お笑い) お笑いください」

ト コー (C ウン) ソーユーコトオ (C ソーデンネ)

と ころ (C うん) そういうことを (C そうですね)

ショーモン イレルンデ。 デ、 ワ、  
証文 [を] 入れるんで [す]。 それで、 ×

オワライクダサレ チューコトワ ソレホド ミオ キルホド ツライ  
「お笑いください」ということは それほど 身を 切るほど つらい

トユーコトニ ナッテタンデ ムカシ (C ソー)

ということに なっていたので 昔 (C そう)

ショーバイニンワネ、 イマ アンタ モ ドナイ ショーガ  
商売人はね、 今 あなた もう どう しょうが

コナイ ショーガ アンタ モー アンタ、 (A {笑})

こう しょうが あなた もう あなた、 (A {笑})

モー、 シリニ ホ カケテ ニゲル  
もう、 尻に 帆 [を] かけて 逃げる

大阪 08-3

テナモンデスケドモ、 (B \*\*\*) アノー、  
というようなものですけども、 (B \*\*\*) あの、

ムカシワ ソレグライネ? (B エー)  
昔は それくらいね? (B ええ)

アノ ツラカッタデスワ。 (B カタカッタデスナー)  
あの つらかったんですよ。 (B かたかったんですね)

マ ソヤカラ モー、 アノー  
まあ だから もう、 あの

マンザンナカデ オワライクダサレ テ ソレガ マー、  
「満座の中で お笑ください」とそれが まあ、

(B アー ソーデスワ) イマノ オッシャル、 ハ、 ハジオ、  
(B ああ そうですよ) 今の おっしゃる、 ×、 恥を、

アー ハジン ナル ト ユーコトオ オッシャルンデスナ、 ンー。  
ああ 恥に なる と いうことを おっしゃるんですね、 んー。

161B : コノクミアイワネー、 \*\*ノ クミアイワ カタカッタデスナ。  
この組合はねえ、 \*\*の 組合は かたかったですね。

162D : {笑} ソノグライ クミアイワ、 エー アノ ケンイガ  
{笑} そのくらい 組合は、 ええ あの 権威が

アッタワケデスワ、 (B ええ) エー {笑}  
あったわけですよ、 (B ええ) ええ {笑}

大阪 08-4

{間} (G ンー ナカナカ)

{間} (G んー なかなか)

163C : サテー、 ソノ センバコトバ ユーノワ ワタシラ モー  
さて、 その 船場ことば [と] いうのは 私達 もう

イツモ コレ ナンギスルンデスケドネー (G ウン ウン)  
いっつも これ 難儀するんですけどねえ (G うん うん)

オーサカベンヤッタラ、 ワリカタ コー、 キラクニネー  
大阪弁だったら、 わりあい こう、 気楽にねえ

(D エー エー エー) ハナシ シテルケド ソノ  
(D ええ ええ ええ) 話 [を] しているけど その

センバコトバガ ワタシラン ユーテルンガ センバコトバニ  
船場ことばが 私達の 言っているのが 船場ことばに

ナッテンノンカ、 (A ソー ソーユーコトデス) ネー  
なっているのか、 (A そう そういうことです) ねえ。

164D : ワレワレワ マー ユータラ センバ イガイニ  
我々は まあ 言ったら [=言ってみれば] 船場 以外に

アンマリー アノー  
あまり あの

165C : デタコト ナインデスケドネー  
出たこと [が] ないんですけどねえ。

166D : マー チョット エー シリマセンカラネー (C ウン)  
まあ ちよつと ええ 知りませんからねえ (C うん)

エ スンダコトガ ナイカラ、 (C ウン) ソヤカラ マー  
え 住んだこと ないから、 (C うん) だから まあ

ツイー ムカシカラ イーナラワシテルーコトバガネ?  
つい 昔から 言いならわしていることばがね?

ヤッパリ マー センバコトバーヤ ト、 マ オモテ、  
やはり まあ 船場ことばだ と、 ま 思っ、

(C ウン、 ソレモ \*\*\*ネー) エー、 オリマスケドネー  
(C うん、 それも \*\*\*ねえ) ええ、 おりますけどねえ

(C ウン)  
(C うん)

167G : オーサカ、 オーサカベント センバ、 ア コトバト ドコ、  
大阪、 大阪弁と 船場、 あ ことばと どこ [が]、

ヒトツ、 フタツグライデ、 ドツガ  
ひとつ、 ふたつくらいで [例を挙げると]、 どこが

チガウンデスカ オナジコトバデ  
違うんですか 同じことばで

168C : ソレガ ワカラン、 ヨネ、 エー  
それが わからないよね、 ええ。



大阪 08-6

169D : ソヤカ センバノ ヒトツノ ヤッパリ クセヤロー ト  
だから 船場の ひとつの やはり 癖だろう と

オモウンデスネー。 アノ ホーゲンノ ウチノ マタ ホーゲン  
思うんですね。 あの 方言の 中の また 方言

{笑} オーサカホーゲン アリマスケド ソノウチノ マタ  
{笑} 大阪方言 [が] ありますが その中の また

ホーゲン、 テーナモンヤロー ト オモウンデスケド。  
方言、 というようなものだろう と 思うんですけど。

170A : イヤ モーカリマッカー  
いや 「モーカリマッカ [=儲かりますか]」

ツチュナコトワ ヤッパリー  
というようなこと [=言い方] は やはり

センバデッサロナー、 (D アー ア ワカ)  
船場でしょねえ、 (D ああ あ わか)

モーカリマッカ モーカリマヘンガナー チャナコト  
「儲かりますか」 「儲かりませんよ」 というようなこと [=を]

ユーノワ。 (D ワカリマッカー テ ムコー) アラ  
言うのは。 (D 「ワカリマッカ」 って ×××) あれは

ヤッパリ センバコトバデッサロー。  
やはり 船場ことばでしょう。

大阪 08-7

171D : ソヤケド ソラー オーサカ ゼンタイニ ソレオ ツカイマスヤロ?  
だけど それは 大阪 全体に それを 使うでしょう?

ワカリマッカー チャナ  
「ワカリマッカー」 っていうような [言い方は]。

172A : ソヤケドー モトモトー、 ソー チガイマッカナー (D エー)  
だけど もともと、 そう じゃないですかねえ (D ええ)

ワ\*\* オモイマッケドネー。 ヤッパリ、 ショーカワ  
[私はそう] 思いますけどねえ。 やはり、 商家は

ヤッパリ センバワ ショーバイニンノ、  
やはり 船場は 商売人の、

(D エ ショーバイニンヤカラネー) デゴワシタカラネー、  
(D ええ 商売人だからねえ) でございましたからねえ、

(D エー) ダカラ ヤッパ アーユー センイガイカ、  
(D ええ) だから やはり ああいう 繊維街か、

アノヘン、カラノネー? (D アー) モーカリマッカ  
あの辺からのねえ? (D ああ) 「モーカリマッカ」

チューナ ヒトツノ、 マインチノー  
というのは ひとつの、 毎日の

ニチジョーノ アイサツガワリニ ツコーテゴワシタハカイネー  
日常の 挨拶がわりに 使っておりましたからねえ

(D フン フン) ソヤカ ケッキョク アレモ ゴ

(D ええ ええ) だから 結局 あれも ×

ワタシラ、 ナカセンバグライノ ショー、 (D ハー ハー)

私達、 中船場あたりの ××× (D はあ はあ)

ショーバイニンノネー、 ショーカノ、 ヒトツノ ホーゲンヤナ ト  
商売人のねえ、 商家の、 ひとつの 方言だな と

ワタシワ オモイマスケド、 ヨ、 アノー、

私は 思いますけど、 × あの、

\*\*サントコ ソーデショ? (F ー) アノ

\*\*さん [の] ところ [は] そうですね? (F ん) あの

08↑09

ダシヤサン ケートー。 ンナコト ゴワヘンカ。

///さん 系統 [は]。 そんなこと [は] ございませんか。

173F : ソーデッシャロカネー。

そうですねえ。

174A : ソラ、 オタクサンワ モ ゼンゼン ソンナ、

それは、 お宅さんは もう 全然 そんな、

モーカリマッカー ソーユーナ、コトバ ワリニー

「モーカリマッカー」 そういうようなことば [は] わりに

オタクラ、 ウエノホーヤカラ メーカーサンヤカラ、

お宅ら [は]、 上のほうだから メーカーさんだから

大阪 09-2

(F ハ イエ {笑}) ソヤカイ、 ソヤケドナー

(F は いいえ {笑}) だから、 だけどねえ

175F : アノー ワタシラ オ ネー オクニー、 イマスデッサカイニネー。  
あの 私達 [は] × ねえ 奥に いますからねえ。

ヤッパリー、 モーカリマッカグライ ユーテタンヤ  
やはり、 「モーカリマッカ」 くらい [は] 言っていたのでは

ナイデッサロカ。 (A ソーカナー) ソーユーコトワ  
ないでしょうか。 (A そうかなあ) そういうことは

176D : シ トーキョーノ ヒトワネ、 オーサカーオ ヒョースルノニー  
ん 東京の 人はね、 大阪を 評するのに

スグニ オーサカーベン チュータラ モーカリマッカー ト  
すぐに 大阪弁 と言ったら 「モーカリマッカー」 と

(A モーカリマッカ ト) ユーケド ソー ザラニ

(A 「モーカリマッカ」 と) 言うけど そう ざらに

オーサカデモヤナー、 (A ウン) オータラ モーカリマッカ  
大阪でもだねえ (A うん) 会ったら 「モーカリマッカ」

チュナコトーバツカリ ユエヘンワ。  
というようなことばかり 言いはしませんよ。

177A : イヤ ソレガヤ ケツキョクネ、 (D ハー)

いや それがだ、 結局ね、 (D はあ)

大阪 09-3

イマ、 ユータヨーニ アノ、 オーサカ イコール  
今、 言ったみたいに あの、 大阪 イコール

ショーバイニンノ チーデッシャロー？  
商売人の 地でしょう？

(D ア ソー ソー ソー ソ) ホイ ケッキョクー  
(D あ そう そう そう そ) それで 結局

ホンマチラヘンガ マー ユッタ  
本町あたりが まあ 言ったら [=言ってみれば]

ドッチカ オーサカノ チューシンチデゴワスサカイナ、  
どちらか [と言うと] 大阪の 中心地でございますからね、

(D ソーデンナ ソーデス) ダカ ソノ コトバガネ？  
(D そうですね そうです) だから その ことばがね

(D エー) シゼント。  
(D ええ) 自然と。

178F : アー アノ バントナンカワ ソンナコト ユータカモ  
ああ あの 番頭なんかは そんなこと [を] 言っていたかも

ワカリマセンナ、 (A ソーデス ソーデンナー ンー)  
しれませんね、 (A そうです そうですねえ んー)

デモー アタシノ チチ ソンナコト \*\*\*\*ヤッタヨーニ  
でも 私の 父 [は] そんなこと \*\*\*\*だったように

(E オカミノ トーサンマデワ)

(E 主人の お嬢様までは)

(A ソラ モー コレワ チョット コトバガ

(A それは もう これは ちょっと ことば [が]

キタナイデッシャロナー ンー タントーチョコニュー)

汚いでしょうなあ ンー 単刀直入)

オモイマス

思います。

179D : イヤ オ オンナワネ、 オンナワ マタ コトニネ、 (E ウーン)

いや × 女はね、 女は また 殊にね、 (E うーん)

ソナイニ ヒトニ オーテ モーカリマ {笑}

そんなに 人に 会って 「モーカリマ」 {笑}

ソナナコト イエシマヘン

そんなこと [は] 言いはしません。

(F イヤ ソレワ アタシラワネ) ソヤ\*ド オトコデモネ、

(F いや それは 私達はね) だけど 男でもね、

ソナイ モー アノー スグニ モーカリマッカー パッカリオ、

そんな もう あの すぐに 「モーカリマッカー」 ばかりを、

(A ンー) ユーンジャナイ ト オモウンデスケドネ。

(A ンー) 言うんじゃない と 思うんですけどね。

180A : ソラ モー ゴフジン レンチューー シナ シナモ、  
それは もう ご婦人 連中 んな そんなもの、

カップルデ アルイテヒタ ミタコト  
カップルで 歩いている人 [を] 見たこと [が]

ゴワヘンモンナー ワタシラ モー、 (F ソーデス)  
ごさいませんものねえ 私達 [は] もう、 (F そうです)

ワカイトキニネー ヤカマシ イワレタサカイネー。  
若い時にねえ やかましく 言われたからねえ。

181F : ワタシラ、 ソーデンナー チチト ハハガ イッショニー  
私達 [は]、 そうですねえ 父と 母が 一緒に

デタ ユーノン アンマリ シリマセンデス  
出た [と] いうの [は] あまり 知らないです

(A ソーデスネー、 エー) デマシテモ、  
(A そうですねえ、 ええ) 出ましても [=出かけたとしても]、

(A アトカラ) サンボカ、 (A アトカラネー) ネー  
(A 後から) 3歩か、 (A 後からねえ) ねえ

ゴホ、 アトカラネー (A アトカラ {笑})  
5歩、 後からねえ (A 後から {笑})

アルカ\*\*マシタデスサカイ フン。  
歩か\*\*\*ましたですから ふん。

大阪 09-6

182A : ワシ イマダニ ソレ ユイマンネン ウチノ カナイ、  
私 [は] いまだに それ [を] 言うんです うちの 家内 [に]、

ナンデ イッショニ アルキマヘンネー ユテ、  
「なんで 一緒に 歩かないんです」 [と] 言って、

ンナ カッコ ワルイ ヤメトケー {笑}  
「そんな [の] かつこう [が] 悪い やめておけー」 {笑}

(全員 {笑}) ムカシノネ、 キューシュー ノコッテマスナー、  
(全員 {笑}) 昔のね、 旧習 [が] 残っていますねえ、

ナンデ イッショニ アルイ\*\*、 ソンナ モー  
なぜ 一緒に 歩い\*\*、 そんな もう

オマエ サキ、 アルツ イヤ サキ デテ オレ サキ  
「おまえ 先、 ××× いや 先 出て 俺 [は] 先 [に]

デルサカイ、 オマエ アトカラ ツイテコイヨー、  
出るから、 おまえ 後から ついて来いよー、

ナンデ イッション デタ イキマヘンノ、  
「なんで 一緒に 出たら いけないんです [か]」、

カッコ ワルイヤン {笑} ユーテ。  
「かつこう [が] 悪いじゃないか」 {笑} [と] 言って。

183D : アー オ オクサントカ。 (A ンー) オ、  
ああ × 奥さんとか。 (A んー) お、



大阪 09-7

184F : ヤッパリ キンジョ ミンナ  
やはり 近所 [が] 皆

シッテル オウチバツカリデスサカイネー  
知っている 家ばかりですからねえ

185D : オクサント イッショニ デルコト イカケ [26]  
奥さんと 一緒に 出ること [を] 「イカケ」

チマシタ\*\*、  
と言いました\*\*、

186A : イヤ イカケデツケドナ、 (D ウン)  
いや 「イカケ」ですけどね、 (D うん)

ワタシラ、 イッショニ デテモネ、  
私達 [は]、 一緒に 出てもね、

オレ サキ イクサカイ アト ツイテコイヨ ト。  
「俺 [は] 先 [に] 行くから 後 [を] ついて来いよ」 と。

(D ンー) ソーユーファーニネ、 (D ソー)  
(D んー) そういうふうね、 (D ええ)

ナツテシマイマスノデネー。  
なってしまうのですねえ。

187D : ソデ ジキニ アー イカケヤナー テ  
それで すぐに 「ああ イカケだなあ」 って

大阪 09-8

(A {笑}) ゼツタイ、 (A イカケガ オー)

(A {笑}) 絶対、 (A イカケが ××)

ワルグチ、 オー フタリ アルイテルト、 (A ナー)  
悪口、 おー ふたり [で] 歩いていると、 (A ねえ)

イカケデ ドコエ イキナハッタンヤ {笑}  
「イカケで どこへ お行きになったんだ」 {笑}

188E : ア、 アノ X4ノオジーサン? (A ウン) (D ウン)  
あ、 あの X4のおじいさん? (A うん) (D うん)

イッシュヨニ アルイテイッタ イカケデ ドコ  
一緒に 歩いて行ったら 「イカケで どこ [に]

イキナハッテン (F アラ ソーデッカ)  
行かれたんだ」 (F あら そうですか)

189D : {笑} イカ、 イカケ テ ドーユーイミカ  
{笑} ×× 「イカケ」 って どういう意味か

シランネケド、  
知らないんだけど、

190C : ヤッパイ ソーナ、 ナンスネー ケッキョク シモタヤ [27] ガ  
やはり それは、 あれ[で]すねえ 結局 普通の家

スクノーテー、 ナンデスネ? (D ンー) オミセガー ミナ  
少なくとも、 あれですね? (D ンー) お店が 皆

大阪 09-9

アツカラネー、 ヤッパリ メダツカラ、 (G フン フン フン)  
あつたからねえ、 やはり 目立つから、 (G ふん ふん ふん)

191F : モー ミセガ ゼーブ アツテ、 ミセニ イツモ バントーガ  
もう 店が 全部 あつて、 店に いつも 番頭が

スワツテマシタデスワ (D アー ソーデス)  
坐っていましたよ。 (D ああ そうです)

192C : ソー ソー ソー ソデ シゼン  
んー そう そう それで 自然 [に]

ソー ナツテイッタンデショーナ。  
そう なっていったんでしょね。

193D : モー ドショーマチオネー、 ワカイ ムスメサン アルカレヘン。  
もう 道修町をねえ、 若い 娘さん [は] 歩けない。

(C ナンカ、 ソー ソー ソ ソレワ) \*\*\* (C ウン)  
(C なんか、 そう そう そう それは) \*\*\* (C うん)

リョーホーカラ コー (C ウン) ミラレマスヨツテネ、  
両方から こう (C ウン) 見られますからね、

ミラ {笑} (E ワタシラデモ、 アノー ナー)  
×× {笑} (E 私達でも、 あの ねえ)

194F : ソーデス アタシラ アルクトキニ、 ヤッパリ  
そうです、 私達 [は] 歩く時に、 やはり

大阪 09-10

コーユーフーニシテ アルク、 シッテル オウチーネー  
こういうふうにして 歩く 知っている お家 [が] ねえ

リョーホー ミンナ、 (B ソー ソ) ミナ アケテ  
両方 皆、 (B そう そう) 皆 開けて

ジューツ オモテ ミテマスデスモンネー。  
じーっと 表 [を] 見えていますものねえ。

(B ミテハルサカイ)

(B 見ておられるから)

195B : デシテネー、 (D {笑}) ドショーマチワネ、  
///ねえ、 (D {笑}) 道修町はね、

オトコバッカシノ マチデスサカイネ。  
男ばかりの 町ですからね。

196F : ソイデ マタ マー オハイン ナンテ ユワレタラ  
それで また まあ お入りなさい なんて 言われたら

ヨケイ、 アコーナッ ターット ハシランナランヨーナネー  
よけい、 赤くなっ[て] たーっと 走らなければならないようなねえ

カンジデ。

感じで。

197B : オンナノカタ ッチュータ メッタニ アンマリ  
女の方 といったら めったに あまり

オトーリデワ オマヘンデスサカイネ。  
お通りでは ありませんからね。

198 F : ソーデンナー、 (D {笑}) ワタシノ ハハナンカ、  
そうですねえ、 (D {笑}) 私の 母なんか、

ハントシー ゲタ ハカナンダ ユートキ  
半年 下駄 [を] はかなかった [と] いう時 [が]

アリマシタデスワ。 (B ア ソーデッカ) ハー。  
ありましたよ。 (B あ そうですね) はい。

(B アー ネー) ソト デルコト アリマセンネン、  
(B ああ ねえ) 外 [に] 出ること [が] ないんです、

09↑10

(B アー ネー ー) マー ヤオヤモ キマスシ ナニモカモ  
(B ああ ねえ うん) まあ 八百屋も 来ますし 何もかも

(E ソー ソ ミンナ キマス)  
(E そう そう 皆 来ます)

199 B : ネ、 デイリガ アリマスワナ。  
ね、 出入りが ありますよね。

200 F : ソイデ、 デッチガ タクサン オリマスデッサカイニ、 (B エー)  
それで、 丁稚が たくさん おりますから、 (B ええ)

ナニ カイニイク ユーテモ デッチニ、  
何 [を] 買いに行く [と] いても 丁稚に、

大阪 10-2

(B ソーデンナ)

(B そうですね)

201E : ヤオヤモネ (D エー エー) ヤオヤモ オサカナヤサンモネ、  
八百屋もね (D ええ ええ) 八百屋も お魚屋さんもね、

(D オン) ミナ、 (A アー セヤ)

(D うん) 皆、 (A ああ そうだ)

202F : コドモシュー チョット イッテコーイ ユーテ  
「子供衆 ちょっと 行って来い」 [と] 言って

ユータラ モー スグ、  
言ったら もう すぐ、

(B ジョチューサント {咳} ネー、 ワカイ、 アノ)

(B 女中さんと {咳} ねえ、 若い、 あの)

ジョチューヨリモ ソノホーガネ、 (B ハシリズカイノホーオネ)  
女中よりも そのほうがね、 (B 走り使いのほうをね)

ンー、 ヤルンデス。

んー、 やるんです。

203B : オツカイニ ナッテマシタカラネ。

お使いに なってましたからね。

204D : ソラ アノー ゴリョンサンガネ (B ハー)

それは あの 奥様がね (B はあ)

大阪 10-3

マ イチバエ イッテ カイモン スル ッテ ソンナモン  
ま 市場へ 行って 買物 する って そんなも [の]

トテモ、 (B {笑})  
とても、 (B {笑})

(C ンナ ソユコトワ ナイデスワナ) ナインデスワ。  
(C そんな そういうことは ないですよ) ないんですよ。

(C ン一) ミナ ヤオヤー サカナヤ ミナ マイニチ、  
(C ン一) 皆 八百屋 魚屋 皆 毎日、

(A フリデ キマスサカイネー) (F ン ソーデス)  
(A //で 来ますからねえ) (F ン そうです)

ソヤカラ ソノトキ チューモンシマスワネ。  
だから その時 [に] 注文しますよね。

(A マー マイン\* ゴヨーキキニ キマスサカイネー) ソヤ  
(A まあ 毎日 御用聞きに 来ますからねえ) だから

ソンナモン ゴリョンサン アンタ イクコト アラヘン  
そんなもの 奥様 [が] あなた 行くこと [は] ない

ン ソレデノーテモ ジョーチューサンガ イキマスワ。  
ん それでなくても 女中さんが 行きますよ。

205F : ジョチューモ イキマセンデシタワ。(C ハー ハー) (D {笑})  
女中も 行きませんでしたよ。(C ええ ええ) (D {笑})

大阪 10-4

デッチガ タクサン イマシタノデネ、 (B へー) デスカラ  
丁稚が たくさん いましたのでね、 (B へー) ですから

デッチガー ジョチューニ ツカワレテマシタデスナ。  
丁稚が一 女中に 使われていましたね。

206D : アッ ソヤ ソヤ デッチモネ、 キタテワネ、  
あっ そうだ そうだ 丁稚もね、 来たばかりの時はね、

(F キタテワ モー ナニモカモネ) エー モー  
(F 来たばかりの時は もう 何もかもね) ええ もう

フキソージト、 エー フキソージト、 ツカイハシリ。  
拭き掃除と、 ええ 拭き掃除と、 使い走り。

207F : カワイソーデシタ。  
かわいそうでした。

208A : シロクジ、 シロクジチュー ハタラキッパナシデスワネー。  
×××× 四六時中 働きっぱなしですわねえ。

(F ソーデス アノ) オンマニ シロクジチュー  
(F そうです あの) ほんとうに 四六時中

ハタラキッパナシ。  
働きっぱなし。

209F : オコメ トギマスノモネー オーキナ タルニ、  
お米 [を] とぎますのもね 大きな 樽に、



大阪 10-5

ナンカ コー イレ、 ミオツクシ [28] ノ アノ  
何か こう 入れ、 みおつくし [=滞標] の あの

コナイ スルノモ、 ヤッパリ デッチガネ。  
こんなに するの、 やはり 丁稚がねえ。

(A ミオツクシナー コ ヤッテ ヤッタ ンー)

(A みおつくしねえ こう やって やった んー)

210E : アー ソーデスカ、 (F フン) ウチラ ジョチューガ  
ああ そうですか、 (F ふん) 私達 [は] 女中が

シテマシタケド。  
していましたけど。

211F : ウチワ デッチデシタ (E ハン) ンー。  
私 [の家] は 丁稚でした (E はん) んー。

212D : アノー カワチノホーカラネ、 (A エー) アノー アルバイトニ  
あの 河内のほうからね、 (A ええ) あの アルバイトに

セー ジューニングライ クンデー、 (A ハー ハー)  
×× 10人くらい 組んで、 (A はあ はあ)

コンナ オーキナ アノー ナニ、 アノ {笑} カマオナ、  
こんな 大きな あの なに、 あの {笑} 釜をね、

ア サゲ アノー カツイデ ヤッテキテ ソンデ、 アノ  
あ ×× あの 担いで やって来て それで、 あの

大阪 10-6

(E ア ソラ オモチツキデ) (A ソラ モチ)

(E あ それは お餅搗きで) (A それは 餅)

エー、 ソノ ニシ ニサンニチマエニー、 アライニ  
ええ、 その ×× 2、3日前に、 洗いに

イキヨリマスワ。

行きますよ。

213A : アライマスネー アライニネー (D エー エー)

洗いますねえ 洗いにねえ (D ええ ええ)

コーユーゴザ モッテネー (D ソー ソー) アノ  
こういうござ [を] 持ってねえ (D そう そう) あの

オーキー ゴザ モッテ オイ コレ アライニ (D {笑})  
大きい ゴザ [を] もって ×× これ 洗いに (D {笑})

アレ バー エ イ イセーノエーモンデゴワンナー アレワー。  
あれ ×× え × 威勢のいいものでございますねえ あれは。

214D : オ オーサカシノ シルシオ、 サカサマニ シタヨーナ

× 大阪市の 印 [=市章] を、 逆さまに したような

ヤツデ。 (A ソー ソー ソー、 ミオツクシノネー)

やつで。 (A そう そう そう、 みおつくしのねえ)

エー、 アレデ、 ア アレー、

ええ、 あれで、 × あれ、

大阪 10-7

215A : バン オソーマデ ワッショイ ワッショイネー カツイデキテ、  
晩 遅くまで わっしょい わっしょいねえ 担いできて、

(D {笑}) クラガリデネー (D ソー) \*\*\*

(D {笑}) 暗がりだねえ (D そう) \*\*\*

216F : モー ワタシノホーワ モー ツネモ、 オコメ、 トグノン  
もう 私のほうは もう 日常も、 お米 [を]、 とぐのは

コレデ シテオリマシタデス。 (B アー ソーダッカ。 アー)

これで しておりました。 (B ああ そうですか。 ああ)

デスカラ オケガネ、 (B フン) ナカノホーガ ズーット  
ですから 桶がね、 (B ふん) 中のほうが ずーっと

(B ズーット ヘッテ) コーユーフーニ、 ウスー

(B ずーっと 減って) こういうふうに、 薄く

ナッテマスネン。 (B ソー ソー ソー)

なっているんです。 (B そう そう そう)

(D {笑}) ンデ オーキナ オカマデネー。 \*\*\*ネー

(D {笑}) それで 大きな お釜だねえ。 \*\*\*ねえ。

217B : アノ X5サンノ ヨ オミセノ ヨコニネー ナカバシスジ。

あの X5さんの × お店の 横にねえ 中橋筋。

(D エー) コノー アシデ、 オコメオネ、 ツキマス

(D ええ) この 足で、 お米をね、 搗きます

大阪 10-8

(E ハー) (F ア ゴワシタデッカ) アリマシタカー。

(E はあ) (F あ ございましたですか) ありましたか。

218D : アー アー アレワネ、 (F X5ノトコニ) アノー

ああ ああ あれはね、 (F X5のところに) あの

マタハン ティーマシテ ウチノ ヨコマチ、 (B ハー)

「またはん」といまして うちの 横町、 (B はあ)

マタハン ユーテネ? (B \*\*\*) X5ノー、

「またはん」 [と] いてね (B \*\*\*) X5の、

\*\* ノキオ カリテ (B ハイ) ソンデ アノ ヌカオ

\*\* 軒を 借りて (B はい) それで あの 糠を

ツクットンデスワ (B ハー) アレ アノ コメオネ、

作っているんですよ (B はあ) あれ あの 米をね、

ツキマシテネ、 アシデ トーン トン トーン トン

搗きましてね、 足で とん とん とん とん

(B トニカク オージョタイデッサカイネー) ソー ソー、

(B とにかく 大所帯ですからねえ) そう そう、

ンー ソレデ ソレオー (B ウン) コメ

んー それで それを (B うん) 米 [を]

ツイテシモトラ、 (B ハイ) コンド エー コンナ アノ

搗いてしまったら、 (B はい) 今度は えー こんな あの

大阪 10-9

ハコントコエ イレヨリマンネン、 デ ザート ヤルト  
箱のところへ 入れるんですよ、 で ザーッと やると

コメダケガ デテ、 ヌカダケガ ノコルヨ ナットンネン。  
米だけが 出て、 糠だけが 残るよう [に] なっているんだ。

ホデ {笑いながら} ソレオ、 (B ソーデスネー) マタ  
ソレデ {笑いながら} それを、 (B そうですねえ) また

コドモヤカラ ミナ ミ ソレオ ミニ イキマンネン。  
子供だから 皆 × それを 見に行くんです。

219B : モー ワタシラ メズラシー ミテマシタデスケドネー。  
もう 私達 [は] 珍しく 見ていましたですけどねえ。

(F ア ソーデスカ) エー。  
(F あ そうですか) ええ。

220D : アンナンワ アノー ナガイアイダ ヤツテマシタデ? ワリニ。  
あんなのは あの 長い間 やってましたよ? わりに。

221B : ソーデンナ イチバン、 シン アノー オソーマデ  
そうですね いちばん、 ん あの 遅くまで

ヤツテマシタ\*\*ネ  
やっていた\*\*ね。

222D : ヤツテマシタ、 イチバン ナガイコト、 マタハンガ  
やっていた、 いちばん 長いこと、 「またはん」が

イキテル (B エー) アイダジュ ヤットッタ。  
生きている (B ええ) 間中 やっていた。

(B マタハン) マタハン チーマンネン アレネ。  
(B 「またはん」) 「またはん」というんです あれね。

(B ア ソーデッカ {笑}) (F {笑}) ンー ソデ  
(B あ そうですか {笑}) (F {笑}) んー それで

アノ、 ココロヤスー シテマシタ ムカイヤカラ。  
あの、 心安く していました むかいだから。

223 B : {咳} オウチワ、 ゴキンジョデスサカイネ。  
{咳} お家は、 ご近所ですからね。

224 D : エー ヨコマチヤカラネ。  
ええ 横町だからね。

10↑11

—— 中 略 ——

225 F : ワタシノホーワ アノ ソノ ヨータモノオネ、  
私のほうは あの その 洋反物をね、

アキナイ、 シテオリマシタンデスケドネ、 ソレノ ベッケ  
商いしておりましたのですけどね、 それの 別家 [と]

ユーノガ ワリアイニ ミナ、 シツカリシテマシテ  
いうのが 割合に 皆、 しっかりしてまして

大阪 11-2

イマダニ、 アノー、 ネンニ イッカイ アツマッテ  
いまだに、 あの、 年に 1回 集まって

カイオ シテオリマシテネ。(G ソーデスカ メズラシ)  
会を しておりますね。(G そうですか 珍しい)

デ、 アノ アニガ シツカリセンモンデスカラ ワタシガ  
で、 あの 兄が しっかりしないものですから 私

カイチョーン ナリマシテ (G ンー ンー ンー) {笑}  
会長に なりまして (G んー んー んー) {笑}

(D {笑}) ソレデ、 アノー モー ムカシバナシニ ハナガ  
(D {笑}) それで、 あの もう 昔話に 花が

サキマシテ。(G ンー ンー) モー イツマデモ ワタシ  
咲きまして。(G んー んー) もう いつまでも 私 [は]

トーサン トーサン テイワレテマスンデ。(G ホー) {笑}  
「トーサン トーサン」と言われていますので。(G ほう) {笑}

(D {笑}) ジューゴロクニン アツマリマスンデス。(G ホー)  
(D {笑}) 15、6人 集まるんです。(G ほう)

226D : アノ ソーユーシューカンガ ヤツパリ センバニワ  
あの そういう習慣が やはり 船場には

ノコルンデスネ。 ヤハリー ナンカ コー オモヤエ、  
残るのですね。 やはり 何か こう 主家へ、

大阪 11-3

アノー ナンカ オモヤントキニ マー ホージガ アルトカ、  
あの 何か 主家のところで まあ 法事が あるとか、

ナントカ ユータ オモヤ イカンナラン。 マー  
なんとか いったら 主家 [に] 行かねばならない。 まあ

コレマデワ、 ツイタチ ジューゴニチニワ カナラズ オモヤエ、  
これまでは、 1日 15日には 必ず 主家へ、

(A ウン) イク ト。 (F ウン) ヨメサンガネ、  
(A うん) 行く と。 (F ウン) 嫁さんがね、

アノ アイサツニ イク。 デ ソノトキワ モー、  
あの 挨拶に 行く。 で その時は もう、

ゾーリ ハイテ、 ホンデー ハオリワ、 ヌイデ。  
草履 [を] 履いて、 それで 羽織は、 脱いで。

アノー、 オモヤ ハイル ト ソーユーシューカンガ、  
あの、 主家 [に] 入る と。 そういう習慣が、

アッタデスネー。 マー コノー センゴワ モー ズット  
ありましたねえ。 まあ この 戦後は もう ずっと

カワリマシタケレドモ。 マ ダイタイ アノー ムカシワ ミナ  
変りましたけれども。 ま だいたい あの 昔は 皆

ソンナンデシタワ。  
そんなのでしたよ。



大阪 11-4

227 C : ナンネンゴロマデ ツズイテマシタ。 (D エー?)  
何年頃まで 続いていました。 (D ええ?)

ナンネンゴロマデ ツズイテ  
何年頃まで 続いて

228 E : センゼンマデ ツズイテ、  
戦前まで 続いて、

229 D : センゼンマデ アリマシタヨ? (C アー ソーデスカ、 ハー)  
戦前まで ありましたよ? (C ああ そうですか、 はあ)

フーン。  
ふん。

230 E : センゴワ アノ、 コー モノガ フジユニ ナツテキテ。  
戦後は あの、 こう 物が 不自由に なってきて。

(C エー) デ シュジンガ チョーヨーニ イツタリ  
(C ええ) で 主人が 徴用に 行ったり

(C エー ソーデスネ マ) ヘータイニ イツタリ。  
(C ええ そうですね まあ) 兵隊に 行ったり。

アレデ モー スッカリ ネー。  
あれで もう すっかり ねえ。

231 A : ヤ イマデモ アノ X6ハンワ コトハジメ [29] ニ ヤッパリ、  
で 今でも あの X6さんは 事始めに やはり、

大阪 11-5

デイリショーニ デイリノネー (F ハー) ミセニ  
出入商に 出入のねえ (F はあ) 店に

オッタ、 (F オカガミオ) ヤッパ オカガミ  
送った、 (F 鏡餅を) やはり 鏡餅 [を]

シテマスデスワ (F アー ソーデッカ) ヘー。  
していますよ。 (F ああ そうですか) ヘえ。

ヤッパ マイトリマスナー ムコーワ。  
やはり 参っていますねえ むこうは。

232D : X6、X6?

X6、X6?

233A : X6サントコ (D アー アー アー)  
X6さん [の] ところ (D ああ ああ ああ)

X7サントコネー。 ヤッパリ コトハジメニワ。  
X7さん [の] ところねえ。 やはり 事始めには。

234D : コトハジメワ ミナ アノ ナンカ ナンデスナー。  
事始めは 皆 あの なんか あれですねえ。

235A : モー デモ イマー ゼンゼン ゴワヘン ヒトツツモ  
もう でも 今 全然 ございません。 ひとつも

ゴワヘンデ アンナ モンワー。  
ございませんよ あんな ものは。

236F : ソーデンナー。 (A エー) アノ メズラシーノデ  
そうですねえ。 (A エー) あの 珍しいので

(A メズラシーゴフス エー) シンブンニ ヨク アノ、  
(A 珍しゅうございます ええ) 新聞に よく あの、

\*\*\*\* X8サンノ ナニガ デマスデンナー。 (A エー)

\*\*\*\* X8さんの あれが 出ますねえ。 (A エー)

11↑12

237D : ムカシネー アノ タカサゴネ? (A エー タカサゴ)  
昔ねえ あの 高砂ね? (A ええ 高砂)

マンジュヤ。 (A マンジュヤ) ムコデ チャント、  
饅頭屋。 (A 饅頭屋) むこうで ちゃんと、

アノー、 コトハジメニ ナル\*トネ、 (A チャントネ)  
あの、 事始めに なる\*とね、 (A ちゃんとね)

ソノ オカガミオ コシラエテハリマシテ。  
その 鏡餅を こしらえておられてまして。

ソデ ムコーエ チューモンシテネ? (A フン フン)  
それで むこうに 注文してね? (A ふん ふん)

ソデ、 ア ドコソコ ドコソコ クバットイテヤ  
それで、 あ 「どこそこ どこそこ [に] 配っておいてよ」

チュ コー。 {笑}  
という ころ。 {笑}

大阪 12-2

ズボラナヒトワ モー ソーユーフーナシキ [30] ノネ、  
怠惰な人は もう そういうふうなやり方のね、

アノー コトガ デケタワケデス。 ソヤカラ、  
あの ことが できたわけです。 だから、

(B ソーデンナー) エー。 (B タカサゴノ、 ハイ)  
(B そうですねえ) ええ。 (B 高砂の、 はい)

タカサゴデ モー ムコーデナ、 アモ [31] モー。 アモ {笑}  
高砂で もう むこうでね、 餅もー。 餅。 {笑}

(B {笑}) アモモ ヤリハルシ、  
(B {笑}) 餅も 作られるし、

ソレカラ オカザリモ。 オカザリモ。  
それから お飾りも。 お飾りも。

シー ホイカラ アノー ナニガ アリマスネー アノー、  
んー それから あの あれが ありますねえ あの、

アノ ホ オー、 アレワ、 ン、 チョ ナニムシ、  
あの ほ おう、 あれは、 ん、 ×× 何蒸し、

ナンヤ、 シラムシ [32] カ。 (B シラムシ?)  
何だ、 白蒸しか。 (B 白蒸し?)

(E オボンニ シラムシネ) エー オボンノ シラムシネ。  
(E お盆に 白蒸しね) ええ お盆の 白蒸しね。

大阪 12-3

アレモ ミナ アノ タカサゴデ ギョージオネ。  
あれも 皆 あの 高砂で 行事をね。

イヤ ムコデ チャント、 ヤツテクレタカラ、  
いや むこうで ちゃんと、 やってくれたから、

ミナ スンデマシタカラ ムコーエ ヨーケ カイニイクカラ、  
皆 住んでいましたから むこうへ たくさん 買いに行くから、

(B ソーデスナー) ムコーモ ショーバイニ ナル、

(B そうですねえ) むこうも 商売に なる、

イマ スンデヘンカラ、 ムコーモ ショーバイニ ナランカラ  
今 住んでいないから、 むこうも 商売に ならないから

ソンナモン オヤ オヤ、 アノ ヤメハリマシタケドモネ ンー。  
そんなもの ×× ×× あの やめられましたけれどもね んー。

238F : イマ コトハジメニ コノ オモチ モライマシテモ、  
今 事始めに この お餅 [を] 貰いまして、

シカタ ゴワヘンナー。

仕方 [が] ございませんねえ。

(B ソー、 メーワクイタシマンナ {笑})

(B そう、 迷惑いたしますね {笑})

239A : ミナ アレ オゼンザイ シハリマンナー。  
皆 あれ [を] おぜんざい [に] なさいますねえ。

大阪 12-4

240F : ショーガツニモ ツカイマセンシネー。

正月にも 使いませんしねえ。

241A : エー、 オゼンザイナンカニネー、 ヤッパリ イマダニ、  
ええ、 おぜんざいなんかにねえ、 やはり いまだに、

X6ハンデモネ、 イツツモ オモチデッサロ。

X6さんでもね、 いつも お餅でしょう。

ソヤカ ミナ オゼンザイニ シタトカ シタリネ。

だから 皆 おぜんざいに したとか したりね。

(F ア ソーデッカ ハー)

(F あ そうですか はあ)

ソナン シハリマスデスワ エー。

そんなの [を] なさいますよ ええ。

242D : トージワ ヤッパリ (F ア、 トージモネ) オモチ  
冬至は やはり (F あ、 冬至もね) お餅 [を]

ヤッテハルン (C ヤッテマス) アノー トージニネー

やっておられるん (C やっています) あの 冬至にねえ

アノー シンノー [33] サンデ (C ハイ ヤッテマス トージ)

あの 神農様で (C はい やっています 冬至)

コー オモチオ。 (C ハイ) アレ シテ、

こう お餅を。 (C ええ) あれ して、

大阪 12-5

243A : ヤクヨケニネー。

厄除にねえ。

(C ウン \*\* ソラ モー \*\*ダケデスカラ)

(C うん \*\* それは もう \*\*だけですから)

(D ンー) ダイタイ モー ゼンゼン ゴワヘンナ モー。

(D んー) だいたい もう 全然 ありませんね もう。

(F エ?) ゼンゼン ゴワヘンナ ムカシワネー、

(F え?) 全然 ございませんね 昔はねえ、

ヨー アノ コトハジ、 アノー ナニニ、 オゼンザイネー、

よく あの ×××× あの 何に、 おぜんざいねえ、

(E トーじ) (F トージノヒニネー)

(E 冬至) (F 冬至の日にねえ)

オセッター シハリマシタケドネー (F へー) モー ゼンゼン、

お接待 [を] されましたけどねえ (F へえ) もう 全然、

(E アノ ヤクドシ) ヤクドシ ヤクドシ。

(E あの 厄年) 厄年 厄年。

244D : ア ソー ソー、 アレワ ミセノ モノガネ?

あ そう そう、 あれは 店の 者がね?

(A ウン) キョーワ ヨー シットリマンネン。

(A うん) 今日は よく 知っているのですよ。

大阪 12-6

キョーワ ドコヤロガ ゼンザイヤ。  
「今日は どこそこが ぜんざいだ。」

245A : {笑} ソー ソ、 タベニ。 (D ウン)  
{笑} そう そう、 食べに。 (D うん)

ヨビニキハリマンネン。 キトクナハレヤ ユテ。  
呼びに来られるんですよ。「来てくださいよ」 [と] 言って。

{笑} (D ミナ イツキョンネン) ワシラデモ、  
{笑} (D 皆 行くんだ) 私達も、

ギンコーナンカネ、 キョー ヨー キトクナハレヤ  
銀行なんかね、「今日は ×× 来てくださいよ

キョーワ アノー オゼンザイ シマスサカイ ヨツテ  
今日は あの おぜんざい [を] しますから 寄って

(D ア) キトクナハレヤ ユテ デ ヨル、  
(D あ) 来てくださいよ」 [と] 言って で 寄る、

246F : ギンコーデモ アリマスカ。  
銀行でも ありますか。

247A : アリマシタ。  
ありました。

248F : ア ソーデッカー。  
あ そうですか。



大阪 12-7

249A : ホクリクギンコーデモ アリマシタデスワ。  
北陸銀行でも ありましたよ。

(F へー) エー アノ、 メー タイ  
(F へえ) ええ あの、 ×× ××

ショーワノ、 ハジメゴロデ ゴワツケドネ、  
昭和の、 初め頃で ございますけどね、

(F へー へ) アノ アリマシタデスワ。  
(F ええ ええ) あの ありましたよ。

12↑

## 大阪府大阪市1977注記

- [1] チョツイ  
小さくて、手のこんだ気のきいたもの。
- [2] エーシ  
よい衆。お金持ち。
- [3] シミッタレ  
けち。金品を出し惜しみすること。
- [4] シブチン  
自分の金やものをなかなか出そうとしない人。けち。
- [5] ハンナリ  
気質や色彩などが、はなやかで上品でくすんでいないこと。
- [6] ミズテン  
値段をたしかめずに買うこと。  
後先を考えずに事を行うこと。花札で相手や状況を考えずに札を出すことから。
- [7] トーサン  
お嬢様。「イトサン」の略。姉妹が多数いる場合は、「姉イトサン」、「中イトサン」、「小イトサン」などという。「小イトサン」は「コイサン」となる。
- [8] ゴワース  
ゴワス。一部の老年層に聞かれるが、一般的ではない。
- [9] フユトシ  
冬年。前年の暮。
- [10] シー  
文末詞。女子ことば。老婦人層に時に聞かれる。
- [11] ワテ  
自称代名詞。対等以下の相手に用いる。女性中心だが男性も用いる。
- [12] ウチ  
自称代名詞。主として女性が用いる。

- [13] コイサン  
コイトサン。末娘。
- [14] アカンヤンカー  
だめじゃないの。ヤンカは女子ことば。本来、「～じゃないか」の意の反語表現であるが、一般化され、単に念をおしたり、注意を促したり、訴えたりする用法を持つ。
- [15] ズクズク  
本来、びしょぬれの意。浸りこむ。
- [16] ゴリョンサン  
商家の奥様。「ゴリョウニンサマ」の略。
- [17] オイサン  
オエハン。オエサン。オイエサマ。お家様。中流の家庭の歳のいった御寮人、または若夫婦の上にいる女主人。
- [18] アンバイ  
物ごとの折り合い、ほどあい、加減、都合。転じて、ほどよく処理すること。
- [19] アンジョー  
味よく。うまく、体裁よく、ていねいに。
- [20] ノジ  
持ちごたえ。長持ち。
- [21] タベデ  
食べごたえ。
- [22] デー  
物を消費するのに余裕のあること。
- [23] ベベタ  
びり。どんじり。
- [24] カド  
家の表入口。
- [25] キンチャョー  
お祝や香奠や寄付の控帳。

[26] イカケ

鑄掛け。夫婦同伴で仲よく外出すること。

[27] シモタヤ

商家ではない、普通の家。

[28] ミオツクシ

大阪市の市章, みおつくし (✕) をさかさにしたような道具。たくさんの米をとぐときに用いる道具。

[29] コトハジメ

上方では、陰暦12月13日に煤払いをして、正月の準備をすること。

[30] シキ

やり方。方式。

[31] アモ

餅。おもに、女性や子供が使用したようである。

[32] シラムシ

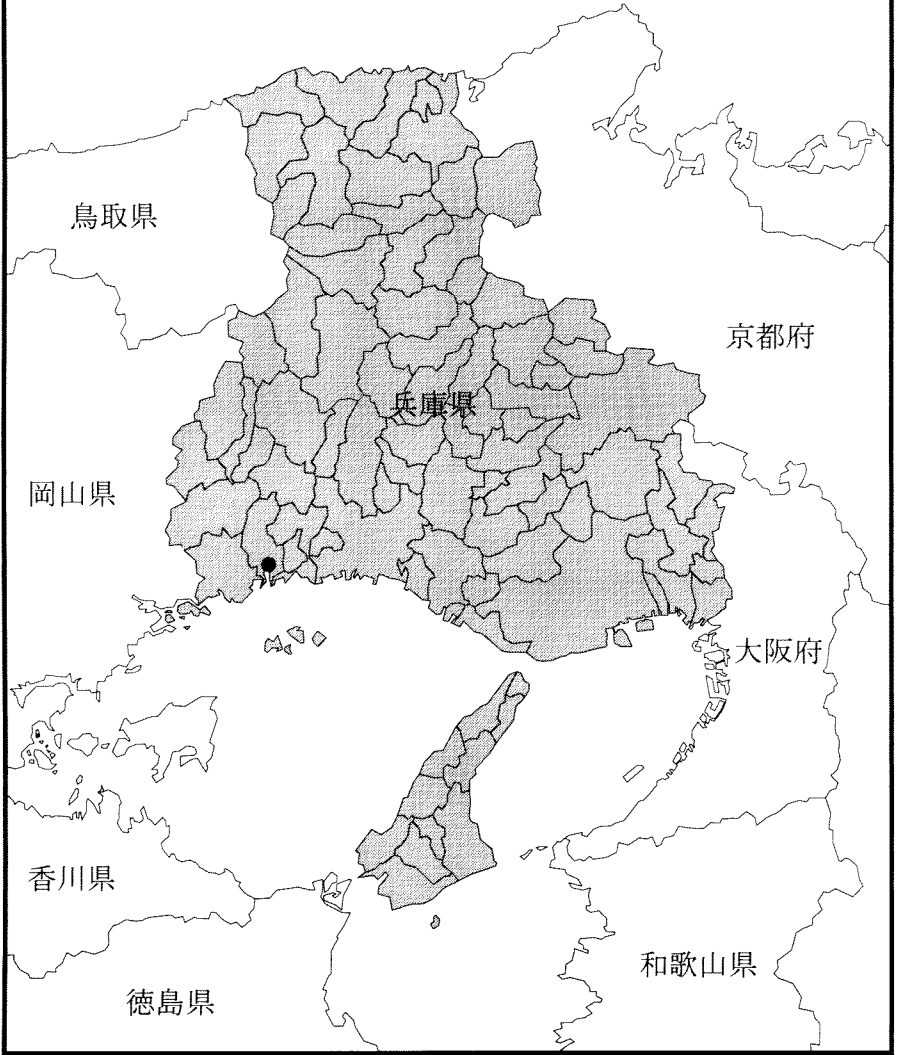
白蒸し。もち米の蒸したもので、盂蘭盆に仏に供える。赤飯に対していう。

[33] シンノー

大阪府大阪市東区どししょうまち道修町2丁目すくなひこな少彦名神社の11月22、23日の祭礼。葉祖神。張子の虎を魔除けとしている。

**Ⅱ. 兵庫縣相生市  
1985**

兵庫県相生市



## 兵庫県相生市1985話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	岡本みよの 田中茂
収録担当者	都染直也
文字化担当者	都染直也
解説担当者	都染直也

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一 江川清 田原広史 井上文子
文字化担当者	武田佳子
校正担当者	高木千恵 都染直也 鳥谷善史

## 兵庫県相生市1985解説

収録地点名                    兵庫県相生市相生（あいおいし あいおい 俗称 お お 相生）

### 収録地点の概観

#### 位置

相生市は兵庫県南西部に位置し、播州（播磨）に属する。北は龍野市、西は赤穂市、東は揖保川町に接し、南は瀬戸内海に面している。相生は JR 相生駅の南約2.5kmに位置する。

#### 交通

相生市には国道2号線・山陽自動車道をはじめ、東海道山陽新幹線・山陽本線・赤穂線が通り、JR 相生駅・JR 西相生駅がある。相生へは、JR 相生駅から神姫バスで約15分、相生港下車。また、相生には国道250号線が通り、比較的交通の便の良いところである。

#### 地勢

市域は東西約8km、南北約20km。姫路平野の西端に位置するが、全般的に山地が多く、面積の85%を占める。相生は、東には山が迫り、西には海（相生湾）がある。大谷川沿いに発達した細長い集落である。

#### 行政

1942(昭和17)年10月市制施行。面積90.61km<sup>2</sup>。人口は1988(昭和63)年2月現在約38,000人であるが、減少傾向にある。

#### 産業

1907(明治40)年創設の播磨船渠株式会社から、現在の石川島播磨重工業に代表されるように、造船の町として全国的に有名である。相生に限れば、漁業・農業に従事する者も多い。観光資源としては、瓜生羅漢石仏・那波野古墳・若狭野古墳・求福寺などがある。また、佐多稲子の小説「素足の娘」の舞台としても有名である。



## 収録地点の方言の特色

### 方言区画

兵庫県の方言は、南北に二分される。北の但馬方言、南の丹波・摂津・播磨・淡路の各方言である。相生方言は南部方言のうちの播磨方言に属する。さらに、播磨方言の下位区分としての西播磨方言と言われる。西播磨方言は近畿方言の西端に位置するため、中国方言的な特色も少なからず見られる。

### 音声・音韻

- (1) 相生方言のアクセント体系は、京阪式のそれに準ずるものである。ここでは、2拍名詞についてまとめておく。

(●○は名詞の拍を、▶▷は名詞に続く助詞を表す。●▶は高い拍、○▷は低い拍を表す。)

●●▶型：鼻が、飴が、牛が、水が、風が、鳥が：1類

箸が、船が、松が、傘が、帯が、空が：4類

●○▷型：花が、犬が、山が、足が、草が：2類

橋が、胸が、石が、川が、歌が：3類

○●▷型：息が、白が、海が、奥が：4類

(○●型：単語の場合) 雨が、猿が、影が、秋が、蜘蛛が、鯉が：5類

京都、大阪、姫路などの一般的な京阪式アクセントでは、

●●▶：1類

●○▷：2・3類

○○▶：4類

○●▷：5類

のように、2拍名詞には4種類の型があるが、相生方言では4類の語が●●▶と○●▷とに分裂し、3種類である。4類の○●▷の語は、2拍目が狭母音(イ・ウ)の語であるが、●●▶型にも狭母音の語がみられ、母音の広狭による型の異なりとは断定できない。

これまでの報告によれば、相生市内の方言のアクセントには、地域差・年代差・個人差が見られるということである。ここでは、老年層話者のアクセントを記述した。東京式アクセントとの接触地域でもあり、テレビなどの影響とも併せて、今後のアクセント変化の方向が注目される。

(2) 連母音アイは、融合して [æ:] になったり、前よりアの [ai], [æi],  
イ→エで [ae] など、様々に変化する。

例: [akai] → [akæ:], [akæi] (赤い)

[sonaini] → [sonaeni] (そんなに)

(3) [s] → [h] (→φ) への変化が多く見られる。

例: [sakai] → [hakai] (～さかい)

[sorenara] → [horenara] → [honnara] (それなら)

[ikinasai] → [ikinahai] → [ikinaai] → [ikinai] (行きなさい)

(4) Ci (Cu) + (j) Vの時 (ア行とヤ行を除くイ段・ウ段の音にア行・ヤ行の音が続く時), 特殊な変化を生ずることがある。

Ci }  
Cu } + (j) V → CC (j) V

例: [kaki] (柿) + [ja] (～だ) → [kakkja]

[kaku] (角) + [ja] (～だ) → [kakkja]

[suki] (好き) + [jakara] (だから) → [sukjakara]

[kumiai] → [kummjai] (組合)

(5) 語頭のガ行音は [g] 音であるが、語中語尾では [ŋ] 音 (カ°, キ°, ク°,  
ケ°, コ°) になる。

(6) ザ・ダ・ラ行音の混乱が見られる。

例: リンリキシャ (人力車)

ノゾ (喉)

(7) [ʃ] (シ) → [ç] (ヒ) への変化。

例: 7月 → [çitʃigatsu]

敷く → [çiku]

(8) 1拍語を長音化し, 2拍に発音する。

例: 毛 → ケー

葉 → ハー

血 → チー

(9) 促音便・ウ音便が略音便となる。

例: 取って来る → トテクル

持って来る → モテクル

～と思うて → オモテ

嫌うて → キロテ

(10) 撥音化。

例：[tadzuneru] → [tanneru] (尋ねる)

## 文法

(1) ナ行変格活用動詞「去ヌル」「死ヌル」がある。

(2) 一段活用動詞の五段活用化が見られる。

(3) 仮定表現は、動詞連用形（音便形）＋タラが一般的であるが、未然形によることもある。

例：イカエーノニ（行けばいいのに）

(4) サ行イ音便が見られる。

例：[daʃita] → [daita]（出した）

[koroʃita] → [koroita]（殺した）

(5) 意志表現に、動詞（五段活用及び五段化した一段活用）未然形を用いる。

例：イカー（行くよ）

デラー（出るよ）

未然形による仮定表現との相異は、母音の長音化とアクセント型（上線部高音）にある。

例：行カエエノニ（仮定）

行カー（意志）

(6) 命令表現には、命令形によるものと、連用形によるものがある。ただし、後者は前者に比べて、命令の度合が低い（強い勧誘的）ものである。

例：ハヨ イケ（早く行け）

ハヨ イキ（早く行きなさいな）

(7) 断定の助動詞には、「ダ、ジャ、ヤ」の3種が認められる。「ダ」は「ダロー」など、限られた場合に使われることが多いが、「ジャ」「ヤ」の使いわけは判然としない。

(8) 能力可能と状況可能の区別がある。

例：私の孫はまだ2歳だがひとりで服が着られる。

ウチノマコ° マダ ニサイヤケド フク ヒトリデ ヨーキル。  
(打消はヨーキラン)

例：この服は孫が2歳の時に買ったものだがまだ着られる。

コノフク マコ° カ° ニサイノトキ コータケド マダ キレル。  
(打消はキラレヘン, キラレン)

(9) 動作の進行態と継続態の区別がある。

例：今まさに雨が降っている時。 アメカ° フツリヨー。

雨が降って、止んでいる時。 アメカ° フットー。

フツリヨーはフリヨルとも、フットーはフツトルとも言う。

(10) 形容詞連用形は略音便が一般的。

例：長くなる → ナコ° ナル

早く行く → ハヨ イク

(11) 形容動詞の終止形は「～ナ」となることがある。

例：元気だ → ゲンキナ

アノシト イツマデモ ゲンキナナ。

上記以外の場合、(7) に準じ、「元気ヤ」「元気ジャ」などとなる。

(12) 助詞「ガ」は省略されることが多い。しかし、名詞と融合することは少ない。

例：傘ナイケド ドコ オイトンド。

「～ト思ウ」「～ト言ウ」の場合は、省略・融合が見られる。

例：アイツワ イク オモウワ。(行くと思うよ。)

アイツワ イク ユータデ。(行くと言ったよ。)

アイツワ イクツチュータデ。(行くと言ったよ。)

(13) 「～テ (クレル)」が「～ト (クレル)」となる。

例：ワシノ ハナシモ キートクレナ。

アイツカ° オシエトクレタ。

## 語彙

近畿方言的語彙を基盤としながらも中国方言的語彙も多く見られ、地理的特色をよく反映している。すなわち、近畿方言的語彙の西端境界線と、中国方言的語彙の東端境界線が、多数相生市付近に引かれるということである。

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『兵庫県民俗調査報告 12 兵庫県の方言—兵庫県方言収集緊急調査報告書—』(兵庫県教育委員会, 1989年)によるものである。)

## 兵庫県相生市1985凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 (半角)

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンドス      ヨソレデ      ワタシガ      イッタンデス  
         そうなんですよ。      それで      私が      行ったんです。

### 、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ  
         市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

//// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。



[ ] (全角)  
方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ  
みかん [を] 乗せて

= (全角)  
[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー  
今 いう [=今話題にあがった]

| | (全角)

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] (全角)

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「兵庫13-1」は CD トラック番号が13で、その1ページ目ということである。「兵庫13-1」「兵庫13-2」……「兵庫13-9/14-1」……「兵庫22-10」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

**↑13**, **13↑14**, …… **21↑22**, **22↑** のように表示される。

第13巻のCD（58分42秒）には、兵庫県相生市の談話，【子供の頃の遊び，子供の頃の思い出】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を基準として表示した。

トラックNo.	開始ページ，行	終了ページ，行	時間：分：秒
13	p.134, 0 .1	p.142, 0 .3	0:02:53
14	p.142, 0 .5	p.151, 0 .11	0:03:05
15	p.151, 0 .13	p.161, 0 .9	0:02:57
16	p.161, 0 .11	p.169, 0 .11	0:03:08
17	p.169, 0 .11	p.178, 0 .5	0:03:05
18	p.178, 0 .5	p.187, 0 .5	0:02:59
19	p.187, 0 .7	p.197, 0 .9	0:03:19
20	p.197, 0 .11	p.205, 0 .1	0:02:53
21	p.205, 0 .3	p.213, 0 .11	0:02:57
22	p.213, 0 .13	p.222, 0 .3	0:03:14
計			0:30:30

## 兵庫県相生市1985談話

収録地点 兵庫県相生市相生あいおいし あいおい（俗称 お お相生）

収録日時 1985(昭和60)年8月28日

収録場所 兵庫県相生市相生 木下充造氏宅

話題 子供の頃の遊び，子供の頃の思い出

話者

A 男 明治44年生（収録時74歳）

B 女 大正3年生（収録時71歳）

調査員 男（収録談話中に発話なし）

収録時間（CD） 30分30秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、兵庫県教育委員会によって『兵庫県民俗調査報告 12 兵庫県の方言－兵庫県方言収集緊急調査報告書－』（兵庫県教育委員会編集・発行 1989(平成1)年3月31日）が作成されている。

【子供の頃の遊び、子供の頃の思い出】

話し手

A 男 明治44年生 (収録時74歳)

B 女 大正 3年生 (収録時71歳)

1A : ンナ [1] コドモノ ジ ジブンノ (B ンー) アソビ  
それじゃあ 子供の × 頃の (B んー) 遊び

↑13

ユーター、 (B ハー ハー) ダイナンカ<sup>°</sup>ー、  
[と] いてねえ、 (B はあ はあ) どんなのが、

オンナノシトヤッタ ドナイナカ<sup>°</sup> アッタン。  
女の人だった [ら] どんなのが あったの。

2B : ンー ワタシラヤッタラ アノ、 モ、 チーサイ  
んー 私たちだったら あの、 もう、 小さい

イチネンセク<sup>°</sup>ライヤッタラネ、 (A フン) ソノ、 イトマキト  
1年生ぐらいだったらね、 (A ふん) その、 糸巻と

イトマキオ、 アノ、 イト マイテー、 (A フン) ホデ  
糸巻を、 あの、 糸 [を] 巻いて、 (A ふん) それで

ハシッテイテ コッチノー、イトマキニ マイテ、 (A ハー)  
走って行って こっちの糸巻に 巻いて、 (A はあ)

ホイデ ソンナキョーソーヤネ。 (A フーン) ソヤカラ  
それで そんな [ような] 競争だね。 (A ふーん) だから

兵庫13-2

マ、 ソーユーコトラ [2] アノ モー、 ホレ、 アノ  
ま、 そういうことなんか [を] あの もう、 ほら、 あの

テーノ ウンドーン ナッテナ イマノ (A ンー) コドモヨリ。  
手の 運動に なってね 今の (A んー) 子供より。

ソーユコトー モ ゴニズツー コー クンデ、  
そういうこと [を] もう 5人ずつ こう [組を] 組んで、

ホデ アノー、 ドッチカ° イチバンヤ ニバンヤ  
それで あの、 どっちが 1番だ [とか] 2番だ

ユテ キメタリネー (A フン) ホイタラ モー  
[とか] 言って 決めたりねえ。 (A ふん) そしたら もう

(A ア、 イマノ リレーシキミタイナヤナ。)

(A あ、 今の 「リレー式」みたいな [遊び方] だね。)

ア、 リレーシキヤ。 (A ハイ ハイ アー アー) デ、  
あ、 リレー式だ。 (A はい はい ああ ああ) で、

ソンナアソビカ° アッテ モー、 ホンマニ ソンナンワ  
そんな遊びが あって もう、 ほんとうに そんなのは

アンマリ アタマ ツカワイデモ エーカラ、 (A フン)  
あまり 頭 [を] 使わなくても いいから、 (A ふん)

タダ ハシッテイテ イトオ イッショケンメ マイテ、 マタ  
ただ 走って行って 糸を 一生懸命 巻いて、 また

兵庫 13-3

ツキ°ニ マウス ユーコッチャカラ、 シン、 モノスコ°  
次に 回す [と] いうことだから、 ん、 ものすごく

タノシーナ。 (A ウン ウン) アノ、 アタマモ カラダモ  
楽しいね。 (A うん うん) あの、 頭も 体も

アンマリ、 ソノ マケタラ ハジヤ ユーコトモ  
あまり、 その 負けたら 恥だ [と] いうことも

オモワヘンシ。 ヤ ソンナンカ° アノー アツタカラ  
思わないし。 いや そんなのが あの あったから

ホン ヨカッタワ アノ、 ソーユーコトヤ オジャミヤナ。  
ほんとうに よかったよ。 あの、 そういうことや お手玉だね。

ホデ ナツワ アノ ホレー カイスイヨク、 モー ワタシカ°  
それで 夏は あの ほら 海水浴、 もう 私が

チーサイトキヤッタ モー ホエ、 ウミー ユーノモ  
小さい時だったら もう それ、 海 [と] いうのも

ハジメテグライデネ、 (A フン フン) ウミ イク  
はじめてぐらいでね、 (A ふん ふん) 海 [に] 行く

ユーコトガ。 (A シー ハー ハー ハー) ソヤカ モー ソノ  
[と] いうことが。 (A んー はあ はあ はあ) だから もう その

カイスイキ°ー ユーコトワ、 モー モットライデモエーンヤ。  
海水着 [と] いうことは、 もう 持っていないでもいいんだ。

兵庫13-4

ソヤカ ミナ パンツナリ ハイッター。  
だから みんな パンツのまま 入ったり。

3A : ソーヤナー。 ムカシワ (B フン、 ホイデ アノ)  
そうだねえ。 昔は (B ふん、 それで あの)

カイスイキ°ナンテ アレヘンモンナ。  
海水着なんて ないものね。

4B : フン、 オンナノナ、 (A フン、 フン) ソノ、  
ふん、 女のね、 (A フン、 フン) その、

イマノ ランニング°ミタヤナンカ° チョット ハヤッテ、  
今の ランニング [シャツ] みたいなのが ちょっと はやって、

オテ オンナノコワ モ、 ソンナンオ、 コーテマウ [3]  
そして 女の子は もう、 そんなのを、 買ってもらう

ヒトモ アルシ、 カワンヒトモ アルケンド、 ワタシワ ソノ、  
人も あるし、 買わない人も あるけど、 私は その、

ミズイロノン コーテモーテナー、 (A ハー ハ) モ  
水色の [を] 買ってねえ、 (A はあ は) もう、

ソレ ウレシテ、 ホンデ モー ソノ、 キシノ、 モ  
それ [が] うれしくて、 それで もう その、 岸の、 もう

ミズモ キレーナシ、 (A ソーヤ) モー イワカ°  
水も きれいだし、 (A そうだ) もう、 岩が

兵庫 13-5

(A ウン) メールトコエ コー ハイッテナー、 デ  
(A うん) 見える所へ こう 入ってねえ、 で

ソノ ミズノ ソノ オンド ユーコトオ ハジメテ、  
その 水の その 温度 [と] いうことを 初めて、

コー、 アツイヤロナー オモテ イタ モ、  
こう、 熱いだろうな [と] 思って 行ったら もう、

ホ、 ナマ ミ ツメターイ ユーカンジカ° シテ、  
× ×× × 冷たい [と] いう感じが して、

ウミ ハイッタトキネー。 タ、  
海 [に] 入った時 [に] ねえ。 そしたら、

ソーユーコトノ オモイデモ アルシ、 ホシテ、 アノ、  
そういうことの 思い出も あるし、 そして あの、

マタ アノ、 イシオ グーグーグーグー  
また あの、 石を グーグーグーグー [と]

ア、 アゲタラ アノー コレ  
× 上げたら あの、 これ、

ダメー [4] ユーモンカ° アッテナー。  
ダメ [と] いうものが あってねえ。

5A : アー アー ウン ウン ウン アー オッタ オッタ。  
ああ ああ うん うん うん。 ああ いた いた。



兵庫 13-6

6B : ホンデ ソノ、 (A ウン) ダメー ユーン  
それで その、 (A うん) ダメ [と] いうの [は]

マタ イマゴロ ナイケンド アレ ムカシ ナンデ  
また 今頃 [は] ないけど あれ [は] 昔 [は] どうして

アノ、 ダメカ° アッタンカナー。  
あの、 ダメが あったのかなあ。

7A : イマゴロ オラヘンカ? サンコト ナイヤロ タダ、  
今は いないか? そんなこと ないだろう。 ただ、

8B : アラヘン アラヘン サヤテ タベラレヘンワ。  
ない ない。 だって 食べられないよ。

9A : タダ タ、 タベンダケノモンダロ。  
×× × 食べないだけのものだろう。

10B : ソヤケ ソノ ダメオ ヒロテ ミンナ アンタ、  
だから その ダメを 拾って 皆 あなた、

モッテモッテ ユカ°イテヤナー  
持って帰って ゆがいてだねえ、

(A ンー ソー ソー ソー) ホイデ ハリデ  
(A そう そう そう そう) それで 針で

タベヨッタデショ。 (A ンー) ホンナ ソノ  
食べていたでしょう。 (A んー) そうすると その

兵庫 13-7

カラオヤナー マタ オモチャニシテ (A ソーヤ) アノー  
殻をだねえ、 また おもちゃにして、 (A そうだ) あのー

(A アレ ナンヤ イ) カイカ°ラワ。

(A あれ なんだ ×) 貝殻は。

11A : インナンコ° [5] ユーンカイナ。  
インナンコ° [と] いうのかな。

12B : ア、 (A インナンコ°ナ) インナンコ°ー シテナ。  
あ、 (A インナンコ°ね) インナンコ° [を] してね。

13A : ウン ウン ショッタ ショッタ。  
うん うん していた していた。

14B : ホイデ アノー ムシロ ヒーテ (A ウン)  
それで あのー むしろ [を] 敷いて (A うん)

カド [6] デー (A フン フン) ホデ ナツデモ  
門の外で (A ふん ふん) それで 夏でも

ソーユ、 アソビカ° アツタカラ モー、 シゼントナー  
そういう、 遊びが あったから もう、 自然とねえ

(A ンー) アノ イマノ コーヨリ、 タノシーコト  
(A んー) あの 今の 子より、 楽しいこと [を]

シタナー ユテ ワタシヤ アノ、 (A ン ソラナー)  
したなあ って 私などは あの、 (A ん それはねえ)

兵庫 13-8

オモイデカ° アルワナー。  
思い出が あるよねえ。

15A : ウン ンー ソラナー ワシラカ° ソノ コドモノジブンワ、  
うん んー それはねえ 私たちが その 子供の頃は、

(B ホイカ ロクジュウ) アソブー ユータテ ドークワ  
(B それから 60 ) 遊ぶ [と] いても 道具は

アラヘンシ (B フンー) イマミタイニナー、  
ないし、 (B ふん) 今みたいにねえ、

16B : フン、 ソーヤネー。  
ふん、 そうだねえ。

17A : ホデ、 ウワ マ イマー アンタ、 (B フン フン)  
それで、 ×× ま 今、 あなた、 (B ふん ふん)

ソノ カイスイキ°ノ ハナシカ° デキタ [?] ケド  
その、 海水着の 話が 出 [て] 来たけど

(B フン フン {咳}) ワシラモ ウミ イクー  
(B ふん ふん {咳}) 私たちも 海 [へ] 行く

ユタラー アノ、 ロクシャクフンドッシャ。  
[と] いったら あの、 六尺禪だ。

18B : フンドシヤ、 ソー ソー ソー ソー。  
禪だ。 そう そう そう そう。

兵庫 13-9/14-1

19A : シロサラシノ。 ナ、 (B フン、 フン)  
白晒の。 ね。 (B ふん、 ふん)

ロクシャクフンドシデナー (B フナー) ウミー。 フン。  
六尺褌でねえ、 (B ふん) 海へ。 ふん。

13↑14

20B : ソーヤデー ホテ ソーユ、  
そうだよ そして そういう、

21A : デ、 ワシラモナー (B フナー) マ、 アノー、  
それで、 私たちもねえ、 (B ふん) まあ、 あの、

イマー、 サイキン ナッテ (B フナー)  
今、 最近 [に] なって (B ふん)

ツクズク オモウンニヤケドー、 (B へー へー) アノー、  
つくづく 思うんだけど、 (B はい はい) あの、

イマゴ°ロノ コーワ ソノ、 ヨーオヨカ°ン コカ° オル、  
近頃の 子は その、 泳げない 子が いる、

ヨーアピン [8] コカ° アルナー。  
浴びられない [=海水浴ができない] 子が いるねえ。

(B ハー ハー ハー) オイーン。 (B フン)  
(B はあ はあ はあ) 多いん [だ]。 (B ふん)

アレ ワシラニ ユワシタラナー、 (B フン ウン)  
あれ [は] 私などに 言わせたらねえ、 (B ふん うん)

兵庫 14-2

オー、 ホーボニ プールガ デキタカラ アレ、 ヨーオヨカ°ン  
×× あちこちに プールが できたから あれ、 泳げない

コカ° デキタ オ、 (B フン) ギャクセツヤケドナー。  
子が できた × (B ふん) 逆説だけどねえ。

22B : ハー ソーヤナー。 (A サエ オモウンヤ) ホデ、  
はあ そうだねえ。 (A そう 思うんだ) それで、

23A : トユーノワナー、 (B フン) ワシランジブンワナー、 イツノ、  
というのはねえ、 (B ふん) 私たちの頃はねえ、 いつの、

イツン、 ナンサイゴロカラ アンタ、 オヨキ°ダシタンカ  
いつの、「何歳頃から あなた、 泳ぎ始めたのか」

ユ、 キカレタ コマルンヤ。 (B ハー)  
[と] いう [ことを] 訊かれたら 困るんだ。 (B はい)

イツノマニカ、 オヨク°ヨー ナットンヤ。 (B フーン)  
いつのまにか、 泳ぐよう [に] なっているんだ。 (B ふーん)

トユーノワナ、 (B ウン ウン) オヨカ°ナンダラナー、  
というのはね、 (B うん うん) 泳がなかったらねえ、

(B ン、 ハー) ガキダイショーカ° オマー、 オマエ  
(B ン、 はあ) ガキ大将が おまえ、 おまえ [は]

イネー ユテ アソンドクレヘンノヤナ。 (B アー ソー)  
帰れ [と] 言って 遊んでくれないんだよね。 (B ああ そう)

兵庫 14-3

ウン。(B ハー) ホテ ウミー ソノ、 ウシロカラ  
うん。(B はあ) そして 海へ その、 後ろから

ツキハメラレタリ [9] ナー、 (B ヘー ヘー ヘー) ナンヤ  
突き落とされたりねえ、 (B はい はい はい) なんか

(B フン) スルサカイナ、 (B ソーヤ) ホテ ハヨ、  
(B ふん) するからね、 (B そうだ) そして 早く、

ヨー [10] ソノ、 オヨク°ヨ ナラナンダラ、  
よく、 その、 泳ぐよう [に] ならなかったら、

(B フン フン) アソンデモラワレヘンヤロ、 (B フン)  
(B ふん ふん) 遊んでもらえないだろう、 (B ふん)

ソヤカラ、 ヒトリデニ ソノ、 (B ンー)  
だから、 ひとりでに その、 (B んー)

オボエテイクヨッテニノ。 (B ソーヤ) ウン、  
[泳ぎを] 覚えていくからね。 (B そうだ) うん、

ナンボグライノ トシカラ オヨキダシタンカー ユテ  
「何歳ぐらいの 歳から 泳ぎ始めたのか」 [と] 言って

キカレタラナ、 (B エー) ワカラン。 カ、 ナマジッカ  
訊かれたらね、 (B ええ) わからない。 だから、 なまじ

(B ン) イマミタイニ プールカ° アッテ、 (B ンー)  
(B ん) 今みたいに プールが あって (B んー)

兵庫 14-4

ナンスルカラナ。 (B ソーヤ) ヨーオヨカ°ン コカ°  
あれだからね。 (B そうだ) 泳げない 子が

オンニヤ ワシラ モ シ、 シゼ、 シテデーヤナ。  
いるんだ。 私たち [は] もう × ×× ひとりで [に] だね。

(B フン フン フン) シテデニ モー、 オヨク°ヨー  
(B ふん ふん ふん) ひとりでに もう、 泳ぐよう [に]

ナッタワ。 (B フン) ンー。 ソヤナコトー ワッ  
なったよ。 (B ふん) んー。 そんなこと [を]、 私

カンカ°エテナ。 (B フン) ンー。 ソヤカ、  
考えてね。 (B ふん) んー。 だから、

24B : ソヤカラ モー ソノナー、 ムカシワ、 ソーユーコトデー アノ  
だから もう そのねえ、 昔は、 そういうことで あの、

オヤモ アンマリ カンショーサーヘンシネ、 (A ソーヤガ)  
親も あまり 干渉しないしね、 (A そうだよ)

デ トモダット イクー ユテ モー ガッコノ センセカ°  
それで 友だちと 行く [と] 言って もう 学校の 先生が

ツレテイタ モ、 トーイヤロー アミノウラノ モット  
連れて行ったら もう、 遠いだろう 網の浦の もっと

(A ウン) アオキノサキ。 ソレデモ アルイテイテナー  
(A うん) 青木の先。 それでも 歩いて行ってねえ

兵庫 14-5

(A ソーヤガナー) モドリ アツイ アツテモ

(A そうなんだよ) 戻り [=帰り] [が] 暑い 暑くても

ソナモン キャンデ タベンネヤナイシ。

そんなもの アイスキャンデー [を] 食べるんじゃないし。

ソーユーコトデ モ ミナー、 キタエトーカラナー。

そういうことで もう みんな 鍛えているからねえ。

(A ンー ウン) ソノ イマデモ ソ トツショリ

(A んー うん) その 今でも × 老人 [は]

ネバリズヨインヤロ オモイマスワ。 ナー。

粘り強いんだろう [と] 思いますよ。 ねえ。

25A : ソイカラナー、 コナイダナー、 ワシ アノー、 (B フン)  
それからねえ、 先日ねえ、 私 あの、 (B ふん)

アンタラ シットーカ シランケド、  
あなた [は] 知っているか [どうか] 知らないけど、

(B へー) アノー、 X1ハン ユー シトカ°

(B はい) あの、 X1さん [と] いう 人が

アルワナー (B ハー ハー ハ ハ ハー) X2ノ

いるよねえ (B はあ はあ は は はあ) X2の

ムスコヤ。

息子だ。



兵庫 14-6

26B : ワタシ ドーキューセヤ。

私 [は] 同級生だ。

27A : ア、 ソヤ ソヤ ドーキュー、 (B ンー) アンタモ

あ、 そうだ そうだ 同級、 (B んー) あなたも

ホン モロタヤロ。

本 [を] もらっただろう。

28B : ヘー デ、 コナイダ ドーソーカイ シテ。

はい それで、 この間 同窓会 [を] して。

29A : アノ フルサトノオモイデバナシ。 (B フン フン フン フン)

あの 『ふるさとの思い出話』。 (B ふん ふん ふん ふん)

ア、 アレー (B フン) ヨンダラナ、 (B ヘー)

× あれ [を] (B ふん) 読んだらね、 (B はい)

ソノー オトコノコノ アソビデ チンダイモーショ イテ

その 男の子の 遊びで 「チンダイモーショ」 [と] 行って

カイトッタヤロ。 (B ハー。 ソーヤ) チ

書いていただろう。 (B はあ。 そうだ) ×

チンダイモーショ ユ、

「チンダイモーショ」 [と] いう、

30B : ウチ マダ シマイマデ (A ア) ヨンドーヘンケド ンー

私 [は] まだ 終わりまで (A あ) 読んでいないけど んー

兵庫 14-7

31A : アー ソーカ。 (B ウン) ア、 ソノナ、 (B ウン)  
ああ そうか。 (B うん) あ、 そのね、 (B うん)

アノ、 ウチヒモ ユテ アノー ホレ、 (B フン)  
あの、 ウチヒモ [と] 行って あの ほら、 (B ふん)

アノー、 クミヒモミタイ ウ、 (B フン フン) ヒモカ°  
あの、 組紐みたい [な] × (B ふん ふん) 紐が

アルヤロ、 (B フン) アレカ° イロイロ  
あるだろう、 (B ふん) あれが いろいろ [と]

アルヤロ。  
あるだろう。

32B : ハー アカヤ アオヤ  
はあ 赤や 青や

33A : アカヤ キーヤ アオヤ ユテ。 (B ウン) デ  
赤や 黄色や 青だ [と] 言って。 (B うん) それで、

アレオナ、 タシカニ アカイロカ° タイショーデ、 (B フン)  
あれをね、 確かに 赤色が 大将で、 (B ふん)

カ キーロカ° ナー、 (B フン) アノー、 アレ、  
それから 黄色がねえ (B ふん) あの、 あれ、

カンジャ イヨツタカナ、 ナンカデ、 (B フン) デ、  
間者 [と] 言っていたかな、 何かで、 (B ふん) それで、

兵庫 14-8

タイショー、 チュージョー、 (B ウン) ショーショー、  
大将、 中将、 (B うん) 少将、

(B フン) ユーテ ソレ イロデ、 イロワケ  
(B ふん) [と] いて それ [を] 色で、 色分け [を]

シテナ、 (B フン) デ ソレオ ソノ、 ウデニ  
してね、 (B ふん) それで それを その、 腕に

マイテ、 (B フン) ホデ、 リョ、 フタテニ ワカレテ、  
巻いて、 (B ふん) それで、 ×× 二手に 分かれて、

(B へー へー) ホデ ソノ、 アノ、 クライノ  
(B はい はい) それで その、 あの、 位の

タカイモノカ°、 ヨワイモンニ コ、 イマ ユータラ  
高い者が、 弱い者に こう、 今 [で] 言ったら

イマ タッチヤ、 (B フン フン) シタラ  
今 [は] タッチだ、 (B ふん ふん) [それを] したら

ソレカ° モー センシヤ。 (B ハー ハー ハー) ホデ  
それが もう 戦死だ。 (B はあ はあ はあ) それで

ホンナ タイショーカ° イチバン エライカ ユタ  
それなら 大将が いちばん 偉いか [と] いったら

タ、 タイショーワ ドコデモ、 アノー イチバン ツヨインカー  
× 大将は どこでも、 あの いちばん 強いのか

兵庫 14-9

ユトラ ソノ キーロノ カンジャー ユンカ° アッテ  
[と] いったら、その 黄色の 間者 [と] いうのが あって

ソレカ°、 タイショーニ カテルワケヤ。(B ハー ハー ハー)  
それが、 大将に 勝てるわけだ。(B はあ はあ はあ)

ホデ、 ソノ カンジャ ユンワ マタ ホカノモンニ  
それで、 その 間者 [と] いうのは また 他の者に

マタ、 マケルワケヤ。(B マケルンヤ。 フン フン) マ  
また、 負けるわけだ。(B 負けるんだ。 ふん ふん) まあ

チョード ソノ、 アノー ヘビトー (B フン) ナンノ カエルト  
ちょうど その、 あの 蛇と (B ふん) あれの 蛙と

ナメクジノー ミスクミミタイニ (B ウン)  
なめくじの 三すくみみたいに (B うん)

ンマイコト クンミヤシトンヤナ、  
うまいこと [=うまい具合に] 組み合わせているんだね、

(B フン フン) ソレオ コー、 フタテニ ワカレテナ、  
(B ふん ふん) それを こう、 二手に 分かれてね、

34B : ワカレテ ヘー。  
分かれて、 はい。

35A : ホエテ コー、 ヨイショ ヨイショ ユーテナー、  
そして こう、「よいしょ よいしょ」 [と] 言ってねえ、

兵庫 14-10/15-1

(B ウン) マ、 ドナイナカケコ°エ ショッタカ、  
(B うん) まあ、 どんな掛け声 [を] していたか、

ワスレタケドヤナー、 (B ウン ウン ウン) ホンデ  
忘れたけどだねえ、 (B うん うん うん) それで

コー、 タッチ シアイ スルワケヤナ。  
こう、 タッチ [の] し合い [を] するわけだね。

(B ハー ハー ハー) ホデ、 サイコ°ニ ソノ、  
(B はあ はあ はあ) それで、 最後に その、

(B フン) ナンニンカ ノコッタホーカ° カチヤ。  
(B ふん) 何人か 残ったほうが 勝ちだ。

(B ハー) ソレオナー (B フン) X1サンカ° カイトッタ。  
(B はあ) それをねえ (B ふん) X1さんが 書いていた。

14↑15

(B ハー) チンダイモーショ、  
(B はあ) チンダイモーショ、

36B : アレ エーヤロ ムカシノコト ヨー  
あれ [は] いいだろう、 昔のこと [を] よく

カイトツテヤナー。  
書いていらっしやるねえ。

37A : ウン カイトンネヤ アー。  
うん。 書いているんだ。 ああ。

兵庫 15-2

38B : ヨー キオクシトツテヤナー (A ソーヤ、 アー)  
よく 記憶していらっしやるねえ (A そうだ、 ああ)

チャーントシテナー。  
きちんとしてねえ。

39A : マ、 ソーユナコトー ワシラモ (B ウン)  
まあ、 そういう [ような] こと [を] 私たちも (B うん)

アソビー シタナ、 ンー。 (B アー ハー ハー)  
遊び [を] したね、 んー。 (B ああ はあ はあ)

アノ ナンセナー、 (B フン) シ ソノー、 アノ、  
あの 何しろねえ、 (B ふん) × その、 あの、

アノ X1サンモ カイトツタケド、 (B ウン) ノ  
あの X1さんも 書いていたけど、 (B うん) [そ] の

ウチヒモ カウンカ° アレ イッポン イッセンカ。  
うち紐 [を] 買うのが あれ [は] 1本 1銭か。

(B フン フン) ホテ アッコノ、 アキタケノ  
(B ふん ふん) そして あそこの、 秋竹の

オモチャヤ イッテ、 (B ソー ソー) カウンヤ。  
おもちゃ屋 [へ] 行って、 (B そう そう) 買うんだ。

(B ウン) ホ ソヤカラ、 マ ソノク°ライナ テードノ  
(B うん) × だから、 まあ そのくらいの 程度の

兵庫 15-3

オモチャヤツたら、 (B ウン) カエルンヤ ワシラデモナ、  
おもちゃだったら、 (B うん) 買えるんだ 私たちでもね、

(B ウン ウン ウン。 ソーヤ) ヤデ イマミタイニ  
(B うん うん うん。 そうだ) だから 今みたいに

アンター モー デンドーソーチノ (B ナンデ\*\* フン)  
あなた もう 電動装置の (B なんて\*\* ふん)

ナンヤー カンヤー ユタテヤナー、  
何だ かんた [と] 言ってもだねえ、

ソヤナモン アラヘンカラナー アソビドーグヤ [11]。  
そんなもの ないからねえ 遊び道具だなんて。

40B : ヤ コドモモ アイテ [12] シモテナ (A ンー ンー)  
× 子供も 飽きてしまっただね (A んー んー)

イマノ オモチャデモ、 (A ヤッパリ) ホデ ウチ[13]ラヤツタ  
今の おもちゃでも、 (A やはり) それで 私たちだったら

コー、 オトコノコノ アソビー ユータ ホレ ア カベニ  
こう、 男の子の 遊び [と] いったら ほら あ 壁に

ヒトリ モタレトツテ ンモ ンマ [14] ンナツテ、  
ひとり [が] もたれていて もう 馬になって、

(A アー アー アー ドンマノリ ドンマノリ [15]) ホテ、  
(A ああ ああ ああ 「胴馬乗り」 「胴馬乗り」) そして、

兵庫 15-4

コエーッテ、 (A {笑}) キテ ソノー (A オン)  
こうやって、 (A {笑}) 来て その (A うん)

ンマノウエー ミンナ ノリヨッタヤロ ゴニンモ ロクニンモ。  
馬の上へ 皆 [が] 乗っていただろう 5人も 6人も。

(A ンー ウン ウン ウン) ホデ タオレタラナー  
(A んー うん うん うん) それで 倒れたらねえ

(A ンー) マケル イテ。  
(A んー) 負ける [と] 言って。

41A : アレモナー、 (B ソンナアソビオ) アノー コナ、  
あれもねえ、 (B そんな遊びを) あの こんな、

42B : オンナノコモ シヨッタンデ アレー。 オモシロイモン。  
女の子も していたの [だ] よ あれ。 おもしろいもの。

43A : イ ヤリヨッタ アノ チート オテンバノ コカ<sup>o</sup>ナ。  
× やっていた あの ちょっと おてんばの 子がね。

44B : {笑} オモシロイモン {笑}  
{笑} おもしろいもの {笑}

45A : イヤ、 アレモナー、 (B ウン) ワシ モー、  
いや、あれもねえ、 (B うん) 私 [は] もう、

オーダケノー ソノー トクイナ アソビカ オモタ  
相生だけの その 特異な 遊びか [と] 思ったら



兵庫 15-5

ソヤナイナー テレビデモ ヤリヨッタナ、 (B アー アー)  
そうじゃないねえ テレビでも やっていたね、 (B ああ ああ)

ヤッパイ、 (B ソー アンナアソビ?) アーユーアソビ  
やはり、 (B そう、 あんな遊び?) ああいう遊び [を]

(B アー ソー アンナアソビ) ヤリヨッタトコー  
(B ああ そう あんな遊び [を]) やっていた所 [が]

(B フーン) ホカデモ アルラシーナ。 (B ソー) ンー。  
(B ふうん) よそでも あるらしいね。 (B そう) んー。

ソヤカ、  
だから、

46B : ソラ アノ、 タケンマカ° アルシナー。  
それは あの、 竹馬が 有るしねえ。

47A : ソー ソー ソー ソー ソ。 (B ンー) タケンマデモ  
そう そう そう そう そう。 (B んー) 竹馬でも

モ ミナ ジブンデ ツクッテナ。  
もう 皆 自分で 作ってね。

48B : フン、 ソーヤ。  
ふん、 そうだ。

49A : ウン、 ナンセナー、 モ、 アソブドーク°カ° ナインヤモン。  
うん、 とにかくねえ、 もう、 遊ぶ道具が ないんだもの。

兵庫 15-6

(B エー、ソーヤナー) ンー ソヤカラ、 ヤッパリー  
(B ええ、 そうだねえ) んー だから、 やはり

イマノ、 イ、 イワユル ソノ、 (B ンー) セーカツノチエ  
今の、 × いわゆる その、 (B んー) 生活の知恵

ユーンカ、 (B フン) アソブニワ チエデナ、 (B フン)  
[と] いうのか、 (B ふん) 遊ぶには 知恵でね、 (B ふん)

ミンナ カンカ°エテ。 ウン。 ホデ、 (B ン) イマノ  
皆 考えて。 うん。 それで、 (B ん) 今の

ソノ ヤキューミタイナコトモナ、  
その 野球みたいなこともね、

50B : アー ショッタ ショッタ。  
ああ していた していた。

51A : ショッタヤロ。 (B フン) ホデ ソノ、  
していただろう。 (B ふん) それで その、

52B : ホデ デンシンボーカ [16] デンシンボー ハシリヨッタンヤ。  
それで 電信柱から 電信柱 [へ] 走っていたんだ。

53A : ンー ソー ソー。 ホデ ボール ユータッテナ ゴ、 ゴ  
んー そう そう。 それで ボール [と] いってもね × ×

(B アノ ニキ°リコボシデ ウッテ)  
(B あの 握りこぶしで [ボールを] 打って)

兵庫 15-7

ゴンマリノ、 ゴムマリノ。 (B フン フン) ホデー  
ゴムまりの、 ゴムまりの。 (B ふん ふん) それで

バット ユータテ ソヤナモン アラヘンヤロ。  
バット [と] いったって そんなもの ないだろう。

54B : イヤ コレ、 ニキ°リデ。  
いや これ、 握り [こぶし] で。

55A : ニキ°リデ、 (B ウン) アー ワシラワ アノ、  
握り [こぶし] で。 (B うん) ああ 私たちは あの、

アノー ヤマ イテ アノ、 キリノキオ キツテキテナー。  
あの 山 [へ] 行って あの、 桐の木を 切ってきてねえ。

(B アー ソー) キリノキオ、 カルイカラ。 (B ンー)  
(B ああ そう) 桐の木を、 軽いから。 (B んー)

ソレオ コー カマデ カワオ ムイテ ケズツテ、  
それを こう 鎌で 皮を むいて 削って、

(B ソー) ホテ ジブンデ ツクツテナ。 ソレデ ウツンヤ。  
(B そう) そして 自分で 作ってね。 それで 打つんだ。

56B : イヤ ウチラ ニキ°リコブシ シテナ、  
いや 私たち [は] 握りこぶし [を] してね、

(A アー ソーゲ {笑}) テ、 ポーント ウツンヤ ホンナラ、  
(A あ、 そうか {笑}) そして、 ポーンと 打つんだ そしたら、

兵庫 15-8

(A アー ソラ オンナノ、 オンナノコヤハカイヤワ)

(A ああ それは ×××× 女の子だからだよ)

デート コッチノ ドンシンボ、 コンド  
デーっと こっちの ××××× [=電信柱]、 今度 [は]

コッチガーノ デンシンボー ユテナ、  
こっち側の 電柱 [と] いてね、

(A ンー ソー ソー ソー) ハシリョッテン。

(A んー そう そう そう) 走っていたの。

57A : ンー ワシラモ ソノー (B ウン) オンミヤノ ケーダイデナ、  
んー 私たちも その (B うん) お宮の 境内でね、

(B ンー) ホテ トリートカ、 (B フン ウン) ヘカラ  
(B んー) そして 鳥居とか、 (B ふん うん) それから

ソノー、 キノ オーキ \*\*ノキ アッタワ、  
その、 木の 大き [い] \*\*の木 [が] あったよ、

(B ア、 マワッテナ、 フン フン) マワッテ コー  
(B あ、 回ってね、 ふん ふん) 回って こう

ヤリヨッタモンヤ。 (B フーン) ヤッパリ、 アノー、  
やっていたもんだ。 (B ふーん) やはり、 あの

ソコエ ソコエ デテクンヤナ、 ソノ アソビノ  
その時 その時 [に] 出て来るんだね、 その 遊びの

カンカ°エカタカ°、  
考え方が、

58B : ソーヤデ。 (A ドークカ° ナケラ ナエヨーニ)  
そうだよ。 (A 道具が なければ ないなりに)

ホンナモンナー アノ、 イマワ ジドーシャヤケ、  
そんなものねえ あの、 今は 自動車だけ [ど]、

ムカシ ウシカ° {笑いながら} ヨー トーリョッタヤロ。  
昔は 牛が {笑いながら} よく 通っていたらう。

(A ウン ンー) ギューシャヤナー (A アー ン ソーヤ)  
(A うん んー) 牛車だとかね (A ああ ん そうだ)

ンマカ°。 (A ンー ソ) タ モー、 ソナイ  
馬が。 (A んー そう) そしたら もう、 そんなふうに

シヨッテモ ジッキ ンマカ° トーッタラ モー  
していても [=遊んでいても] すぐに 馬が 通ったら もう

ンマカ°、 ドッコデモ コ、 トマッタ ションベン {笑}  
馬が、 どこでも こう、 止まったら 小便 [を] {笑}

シテナー ホイデ モー、 コマッタナー ユテ マタ  
してねえ それで もう、 「困ったなあ」 [と] 言って また

バシヨ カエタリナー。 (A ンー ソヤカラ) ショッタデ。  
場所 [を] 変えたりねえ。 (A んー だから) していたよ。

兵庫 15-10

59A : ン一 ワシラ ソヤカラナー、  
ん一 私たち [は]、 だからねえ、

ソノー、 ソーユヨナ ボーデ、 イワユル バットデナ、  
その そういうような 棒で、 いわゆる バットでね、

(B マダ ウシカ° キヨー イテ {笑}) アレデ  
(B まだ 牛が 来ている [と] 言って {笑}) あれで

ウツサカイニ、 ソノー オンミヤノー ケーダイヤトカ、  
打つから、 その お宮の 境内だとか、

(B ン一) オテラヤトカ、 アーユー ヒロバデナ。  
(B ん一) お寺だとか、 ああいう 広場でね。

(B アー アー ア) ヤリヨッタ。 ソレカ° オマハン  
(B ああ ああ ああ) やっていた。 それが あなた

イマ、コドモノ アソビバカ° ナイヤ、 ヘチマヤ  
今、 子供の 遊び場所が ないだ [とか]、 へちま [=何とか] だ

ユーテヤナー、 (B ン一) ミナ ユーケドヤナー  
[と] 言ってだねえ、 (B ん一) 皆 [は] 言うけどだねえ

(B ン一) オトナカ° カッテナンヤ。 (B ン一)  
(B ん一) 大人が 勝手なんだ。 (B ん一)

オテラヤ オミヤノ ケーダイオヤナ、 アノー、 (B フン)  
お寺や お宮の 境内をだな、 あのー、 (B ふん)

兵庫 15-11/16-1

ナニニ カシ アノー チューシャジョーニ カシテヤナ、  
あれに ×× あの 駐車場に 貸してだな、

(B フン ソーヤ) ホデ、 トリアケ°テーチ、  
(B ふん、 そうだ) それで、 取り上げておいて、

(B フン) ホデ ソノー、 コドモノ アソビバカ°  
(B ふん) それで その一、 子供の 遊び場が

ナートカ (B フン) ナントカ ユー、 (B フン)  
ないとか (B ふん) 何とか 言う、 (B ふん)

カッテナンヤ。  
勝手なんだ。

15↑16

60B : ソヤケド、 ソラ ムカシワ アンタ ヒルカラニナット  
だけど、 それは 昔は あなた、 昼からになると

オーバーサンラカ° ミナ オテライ マイッテヤデー、  
おばあさんたちが みんな お寺に お参りしてだねえ、

(A ホン) タトエ オサエセンモ  
(A ほん) たとえ [ば] お賽銭も

ハイリヨッタダロケンドモ、 イマ アンタ オテラナンカ  
入っていただろうけれども、 今 [は] あなた お寺なんて

アンタ マイルヒトナイモン、 (A アラヘン アラヘン)  
あなた、 参る人 [は] ないもの、 (A ない ない )

兵庫 16-2

ナ、 ソヤカラ (A ソヤカラ モ コドモモナ)  
ね、 だから (A だから もう 子供もね)

オテラノ ホ ホーモ シューキョーモ、 ワルインヤン  
お寺の × ほうも、 宗教も 悪いのよ

61A : シー マー アノー、 コドモモ (B カネモ) ソラ  
んー まあ あの、 子供も (B 金も) それは

(B フン) カワイソーナケドナ、 (B ヘェ) シー  
(B ふん) かわいそうだけれどね、 (B ええ) んー

ホンナン ユーテ、 ワシ ユータッタンヤ  
そんなこと 言って、 私 言ってやったんだ、

(B フンフン) ソヤカラ \*\*\*ノ コドモ アソバ  
(B ふんふん) だから \*\*\*の 子供 ×××

アソバナイ ユーノワ (B フン) アンタラカ°ヤナー、  
遊ばない [と] というのは、 (B ふん) あなたたちがだね、

(B フンフン) オミヤノ ケーダイ トリアケ°テーテ、  
(B ふんふん) お宮の 境内 [を] 取り上げておいて、

(B フン) ホデー クルマノ オキパニ カシテ、 ホデー  
(B ふん) それで 車の 置き場に 貸して、 それで

ソノー マァ ソノシューニューデナ、 (B ン) オンミヤノ  
その まあ その収入でね、 (B ン) お宮の



兵庫 16-3

イジ スルンヤカラ (B ン) アンタラノ タチバワ  
維持 [を] するのだから (B ン) あなたたちの 立場は

ソラ ワカルケドナ、 ワカルケド (B フン) コドモガ°  
それは わかるけれどね、 わかるけれど (B ふん) 子供が

カワイソーヤ ワシラモー、 アノー、 アシコデ ダイジコ°サンノ  
かわいそうだ、 私たちも あの あそこで、大將軍神社の

ケーダイデ オトナ ッアー オセワニナツテルヨーナモンヤ。  
境内で ××× ××× お世話になっているようなものだ。

62B : ソヤ ソヤ ソーヤ、 ソーヤ モー ミナ ナツ  
そうだ そうだ、 そうだ、 そうだ、 もう 皆 夏 [に]

アツマッター オテラノ ミドー イコ スズシイカラナア、  
集まったら、 お寺の 御堂 [へ] 行こう、 涼しいからね、

ソデ アシコラデ ソノ、 ソノ イマノ イイチコトカ  
それで あそのあたりで その、 その 今の 「イイチコ」とか

ナア、 (A ウン) アンナン モッテイッテ  
ねえ、 (A うん) あんなもの [を] 持って行って

アソビヨッタンヤ  
遊んでいたんだ。

63A : ホデ オトコノコワナー (B フーン フーン) モ ダレ  
それで 男の子はね (B ふーん ふーん) もう 誰

兵庫 16-4

ユー (B フン) ダレカ° キメタユーコト ナイケド、  
×× (B ふん) 誰が 決めたということ [は] ないけれど、

ソノ、 ガキダイショーカ° デキテナー ミョーニ、  
その、 ガキ大將が できてね 妙に、

(B フン フン フン フン) ソレカ° ソノ エーコトモ  
(B ふん ふん ふん ふん) それが その いいことも

ワルイコトモ、 (B フン フン) チエ ツケテクルンヤ。  
悪いことも、 (B ふん ふん) 知恵 [を] つけてくるんだ。

(B フーン) ホンデ オボエテキヨッタワナ。 (B フーン)  
(B ふうん) それで 覚えてきたよね。 (B ふうん)

ダカラ イマ ユータヨーニ オヨキ°デモ、 (B フン)  
だから 今 言ったように 泳ぎでも、 (B ふん)

ナンネンセーカラ オヨキ°ダシタカ ユワレタラナ (B フン)  
何年生から 泳ぎでしたか [と] 言われたらね (B ふん)

オソラク ガッコウエ イクマデニワ モー ショーショーヤッタラ  
おそらく 学校へ 行くまでには もう 少々だったら

オヨキ°ヨッタヤローナ。 (B フーン ソーヤデー)  
泳いでいただろうね。 (B ふうん そうだよ)

マタ ソレ (B フン) オヨカ°ナンドラナー、 (B フン)  
また それ (B ふん) 泳がなかったらね (B ふん)

兵庫 16-5

アソンドクレヘンネヤモン。 (B フン) オマエ ヨワキンナツテ  
遊んでくれないのだから。 (B ふん) おまえ、 弱気になって

イネ イネ ユーテナー {笑} ソヤカラ  
帰れ 帰れ [と] 言ってねえ。 {笑} だから

アソンドモラオ オモタラ ヤッパリ、  
遊んでもらおう [と] 思ったら やはり

ケーコセナナレヘン。 (B ソーヤロ。 ソーヤナ ホンマニ)  
稽古しなければならない。 (B そうだろう。 そうだね ほんとうに)

ソヤカラ コドモノ アソビモナ (B フン) イロイロ  
だから 子供の 遊びもね (B ふん) いろいろ

シカシ マー ソンナトキノホーカ° ナツカシイナ  
しかし まあ、 そんなときのほうが なつかしいね。

64B : ソーヤ、 (A フーン) ソヤカラナ ムカシノコトオ  
そうだ。 (A ふーん) だからね 昔のことを

ユーテ ユーテ ユー ナー、 ワカイヒト ユーケド  
言うといつて 言う [けれど] ねえ、 若い人 [は] 言うけれど

ソユーコトオ、 オモイデ ユーコトワネエ、 (A フーン)  
そういうことを、 思い出 [と] いうことはね、 (A ふうん)

ナカナカエーカラ、 ウチラ テレビノ ムカシバナシデモ ミルンヤ。  
なかなかいいから、 私たち テレビの 昔話でも 見るんだ。

兵庫 16-6

オモシロイ。 {笑}

おもしろい。 {笑}

(A ンンン アー マー ホーヤナァ ホン) ホンマニナー

(A んんんん ああ まあ そうだね うん) ほんとうにねえ。

65A : ソレカラ ソノ X1サンカ° カイトツタンニナー、  
それから その X1さんが 書いていたものにねえ、

(B フン フン) ソノー トンドショーカ°ツノ (B フン フン フン)

(B ふん ふん) その 「トンド正月」の (B ふん ふん ふん)

ヤッケンボーラ、 (B フン フン) アノ ホレ ワラデナ、  
「ヤッケンボーラ」 (B ふん ふん) あの ほら 藁でね、

(B フン フン フン) アノ ソノ (B ヒー ケス) フン

(B ふん ふん ふん) あの その (B 火 [を] 消す) うん

(B フン) ワラデ コー ノバラオ タバオ (B フン)

(B ふん) 藁で こう 野ばらを 束を (B ふん)

ナワデ マイテ (B フン) ソノ、 オニノ アノ

縄で 巻いて、 (B ふん) その、 鬼の あの

テツボーミタイナ (B ウン) カッコーニシテナ、

鉄棒のような (B うん) 格好にしてね、

(B シテ フン) ソレト ソノー ジベタオ コー タタエテ、

(B して うん) それと その 地面を こう 叩いて、

兵庫 16-7

(B フン) ホデ ンー (B ヒー ツケニキタラ ケスンヤ)  
(B ふん) それで んー (B 火 [を] つけにきたら 消すんだ)

ウン ソレト ホレカラ (B フン) アノー アノバンニワ  
うん それと それから (B ふん) あの あの晩には

(B フン) ヨーデンドー ヨーデンドー  
(B ふん) 「ヨーデンドー ヨーデンドー [=出てこれられないぞ]」

ユーテ ソノ マチノ マチ (B フン) マチ  
[と] 言って、 その、 町の、 町 (B ふん) 町

ユータテ (B フン) ムカシワ (B フン) ムラヤ、  
[と] いっても (B ふん) 昔は (B ふん) 村だ、

(B フン) ソノー、 ジメンオ ジベタオ、 (B フン)  
(B ふん) その、 地面を 地面を (B ふん)

タタキナカ<sup>o</sup>ラ コー ワメーテ マワリヨッタモンヤ。  
叩きながら こう 大声で叫んで 回っていたものだ。

(B アー ソー ソー ソー) アレオナ、 (B フン)  
(B ああ、 そう そう そう) あれをね、 (B ふん)

ワシ X1サントコエ ソノ アソビニ イッタトキニ、  
私 [が] X1さん [の] ところへ その 遊びに 行ったときに

(B フン) アノー X1サンニ キカレテナー、 (B フーン)  
(B ふん) あの X1さんに 聞かれてね、 (B ふうん)

兵庫 16-8

ドエナコト シヨツタンデ ユーサカエ  
どんなこと [を] していたんだ [と] 言うから

コナイヤコナイヤト。 デ アレオ ワシ モー ソノー、  
こうこうだと、 それで あれを 私 [は] もう その、

ワシラ ナニモ シラズニ ソレ ヤリヨツタケド、  
私たち [は] 何も 知らずに それ [を] やっていたけれど

(B フン) マー アノー、 ハエクサイジキデ シラベテミタラナ、

(B ふん) まあ あの 俳句歳時記で 調べて見たらね、

(B フン) アリヤー ソノ モク<sup>o</sup>ラウチ ユーテナ、

(B ふん) あれは その 「もぐらうち」 [と] 言ってね、

(B ハー ハー) ソノ イナカノホーデ ン モク<sup>o</sup>ラオ ソノ

(B はあ はあ) その 田舎のほうで × もぐらを その

オドスタメニ (B フン) アノ ソノ、 ジメンオ ハ マー

おどすために (B ふん) あの その、 地面を × まあ

イナカヤツタラ ハタケノ アゼヤナ、 (B フン) アンナボー  
田舎だったら 畑の 畦だな、 (B ふん) あんな棒 [で]

タタキマワットッタ (B フン) ソノ ナニカ<sup>o</sup> コー コッチ

叩きまわっていた (B ふん) その あれが こう こちら[へ]

ナカ<sup>o</sup>レトル ユーヨーナコトオ サイジキニ カイトツタ

流れている [と] というようなことを 歳時記に 書いていた

ユーテ ワシ X1サンニ ユータンヤ。(B アー ソー)  
[と] 言って 私 [が] X1さんに 言ったんだ。(B ああ そう)

ホタラ モー、 サイコ°ノホーニヤナ、 (B フン)  
そうしたら もう、 最後のほうにだね、 (B ふん)

カワラチョーノ Aクンニ キータラ コーユーコトオ カイトツ  
川原町の A君に 聞いたら こういうことを ××××

ユータ、 ユータ ト、 (B フン) モー ソーダローナ  
言った、 言った と、 (B ふん) たぶん そうだろうな

ユーヨーナコトオ カイテクレトツタワ。 {笑} ホン。  
[と] いろいろなことを 書いてくれていたよ。 {笑} ほん。

66B : ヤッ ソー {笑} ホンナ (A フン) エーヤンカー。  
あら、 そう。 {笑} だったら (A ふん) いいじゃないの。

16↑17

67A : ワシラ モー アソビヨッテモナー (B フン) ソレカ°  
私 [は] もう 遊んでいてもねえ (B ふん) それが

ドーユー トコロカラ ナカ°レテキタトカ、 (B フン)  
どういう ところから 流れてきたとか、 (B ふん)

ドーユー アレカ° アル ユーコト シレヘンネヤナ  
どういう あれが ある [と] いうこと [を] 知らないんだよね、

コドモヤカラ。 (B フーン ソヤ ソヤ ソヤ ソヤ)  
子供だから。 (B ふん、 そうだ そうだ そうだ そうだ)

兵庫 17-2

ソヤケド ワシヤ マー、イマニナツテ アノー、サイジキ  
だけど 私 [が] まあ、今になって あの、歳時記 [を]

(B フン) ミテミタラ、(B ハン ハン) ヤッパ モク°ラウチ  
(B ふん) 見てみたら、(B はん はん) やはり もぐらうち

テナ (B ハン) アレ モク°ラカ° ジベタ  
[と]いってね (B はん) あれ [は] もぐらが 地面 [に]

(B アッ ハア ソウ) アナ ホルヤロ、(B ウン)  
(B あっ はあ そう) 穴 [を] 掘るだろう、(B うん)

ソレオ オウタメニナ、(B フン フン) コー ジベタオ コー  
それを 追い払うためにね、(B ふん ふん) こう 地面を こう

タタエテナ、(B フン フン フン) ソレノ ナニカ° コー  
叩いてね、(B ふん ふん ふん) それの なにが こう

ナカ°レテキトルラシー。(B ナカ°レテキトー ヘー)  
流れてきているらしい。(B 流れてきている ヘえ)

フン ソユナコトカ° ワカッテナ。(B フーン ソー)  
うん、そんなことが わかってね。(B ふうん、そう)

ソヤカラ アノー トンドショーカ°ツナンカデモ (B フン)  
だから あの 「トンド正月」なんかでも (B ふん)

モー、オーデワ ソノー ソノバンニ カキ°ッテ (B フン)  
もう、相生では その その晩に 限って [は] (B ふん)



兵庫 17-3

イタズラ          テンカ    (B フン)    ゴメンデナ、  
いたずら [も]    天下      (B ふん)    御免でね、

(B フン    ソー    ソー    フン)  
(B ふん、    そう    そう、    ふん)

ヨソノ    アノー    (B ダイコン)    ワシラ    ワシラモ    ヤッタカ°ナ、  
よその    あの      (B 大根)        ×××    私たちも    やったよね。

アスコノ    ホスカ    (B ダイコ      ホシトルノ      {笑})  
あそこの    ×××    (B 大根 [を]    干してあるの    {笑})

フン    イヤ    ホスカイノナ、    (B フン)    カンバン  
ふん    いや    斜め向かいのね    (B ふん)    看板 [を]

ハズシテキテヤナ、    (B フン)    ヤオヤノトコエ  
はずしてきてだね、    (B ふん)    八百屋のところへ

カケテーテナ、          (B フン)    ヤオヤノ    カンバンオ    サカヤエ  
かけておいてね、      (B ふん)    八百屋の    看板を          酒屋に

カケタリナ    {笑}  
かけたりね    {笑}

(B ソー    ソー    ソー    ソー    ソー    {笑}    ホンマヤ      アレ)  
(B そう    そう    そう    そう    そう    {笑}    ほんとうだね    あれ)

ヨーシヨッタナ。    (B フン    フン)  
よくやったね。      (B ふん    ふん)

兵庫17-4

68B : ホンデ アンタ ムカシ ナー オツケモンデモ ゴツツイ  
それで あなた、 昔、 ねえ お漬物でも たくさん

ヒャッポンヤ ニヒャッポン ツケルヤロ、 (A シ フーン)  
100本や 200本 漬けるでしょ、 (A ん ふうん)

ソレオ キレーニ ナラベトンモ ゼンブ オトシテモテヤナー  
それを きれいに 並べてあるのも 全部 落としてしまっただねえ

(A ソー ソー) {笑} ハシッテニゲヨッタナ ミナ  
(A そう そう) {笑} 走って逃げていたね みんな

ヨソノヒト (A ヨー ワメカレヨッタナ) オトコノコワ  
よその人 [は] (A よく 大声で叱られていたね) 男の子は

ホンマ {笑} (A コラー ユーテユワレタ {笑})  
ほんとうに {笑} (A 「コラー」 [と] 言われた {笑})

69A : ダケド マア アノバンダケワ (B フン) モー ナー、  
だけど まあ あの晩だけは (B ふん) もう ねえ、

(B フン) モー イタズラワ テンカゴメンデ、 (B ンー)  
(B ふん) もう いたずらは 天下御免で、 (B んー)

ワシラモ サー、 ソラ エケ<sup>o</sup>ツナイコトワ シヤヘン、  
私は さあ、 そりゃ 極端なことは しない、

(B ンー) ヨーシヤヘンケドナ、 (B ンー) ケド  
(B んー) できないけどね。 (B んー) だけど

兵庫 17-5

カンバンノ カケカエシタリナ、  
看板の かけかえ [を] したりね

(B セヤ セヤ ドロボーナンカワ ナー)

(B そうだ そうだ 泥棒なんかは ねえ)

サエナコトワ シェーヘン (B ムカシ ナカッタケンドナー)  
そんなことは しない (B 昔 なかったけどねえ)

ウン サエナコトワ シェーヘン (B ソー イタズラワ)  
うん そんなことは しない (B そう いたずらは)

イタズラ (B フーン) ソレモ (B ンー) ソノバンダケデナ  
いたずら (B ふうん) それも (B んー) その晩だけでね

(B ソーヤ) ウン

(B そうだ) うん

70B : ソーユーコト ナー (A マァ イロンナコトカ° アッタナ)  
そういうこと [を] ねえ (A まあ いろんなことが あったね)

シヨッタケレド、 ンー イマノ コドモト ダイブン (A ン)  
していたけれど、 んー 今の 子供と だいぶん (A ん)

チカ°ウワ。 ソーユーコト コー イマ オモタラ コー  
違うよ。 そういうこと [を] こう 今 思ったら こう

ナー、 ストレス ユーモン ナー (A フン)

ねえ、 ストレス [と] いうもの [は] ねえ (A ふん)

兵庫17-6

コトバ                    ナカッタケンドネー、 (A フーン)  
ことば [は]                なかったけどね、 (A ふうん)

イマヤッタラ ソーユーコトデ コドモワ ストレス  
今だったら                そういうことで 子供は ストレス

ユーンカ°                タマラヘンネヤロネ、 (A フン)  
[と] いうものが            たまらないのだろうね、 (A ふん)

イタズラ                シタリナー。  
いたずら [を]              したりね。

71A : ソヤカラナー イマノ コドモワ アソビヤトカ (B フン)  
だからねえ                今の 子供は 遊びだとか (B ふん)

ナンヤ (B フン) ユータッテ (B ン) ミンナ  
何とか (B ふん) 言っても (B ん) すべて

ソノー アノー アソビドーク°ヤトカ (B フン フン)  
その あのー 遊び道具だとか (B ふん ふん)

ナンヤオ アタエテモロテ、 (B フン) ソレデ  
何かを 与えてもらって、 (B ふん) それで

ヤットルヤロ? (B フン) ムカシワ ソレガ ナイカラ  
やってるだろう? (B ええ) 昔は                それがないから

ジブンラデ (B フン) カンカ°エテ、 (B フン)  
自分たちで (B ふん) 考えて、 (B ふん)

兵庫 17-7

アソビドーク°オ (B ン) カンカ°エテヤデ、  
遊び方も道具を (B ン) 考えてだよ、

ダンドリ シタリ (B フン) シテ アソビヨッタナ。  
準備 [を] したり (B ふん) して 遊んでいたね。

(B フン) ンー (B ソーヤ) {ライターの音}  
(B ふん) うん (B そうだ) {ライターの音}

72B : イマノミ ムカシノ コドモノホーカ°  
今×× [=今より] 昔の 子供のほうが

ノビノビシテ セーカツシトーワナ。  
のびのびして 生活しているよね。

73A : ソーヤナー (B フン) フン。  
そうだね、 (B うん) うん。

74B : オヤカテ ソーユー、 ナー、 ベンキョーセートカ ホンナコト  
親だって そういう、 ねえ、 勉強しろとか そんなこと

イワヘンシナー {笑}  
言わないしね。 {笑}

75A : イワヘンモン ソンナン、 (B セヤカラ) セヤナ  
言わないもの そんなこと。 (B だから) そういうような

ベンキョーセー ユーヨーナ オヤー ヒトリモ オレヘンワ ホン、  
勉強しろ [と] いうような 親は ひとりも いないよ うん。

兵庫 17-8

(B ウチラ ヨカッタナー オモウワ ナー {笑})

(B 私たち [は] よかったな [と] 思うよ ねえ {笑})

76B : ソイデモ アンタ イチオー ジーモ オボエ  
それでも あなた 一応 字も ×××

オボエテ (A ウン) キトーシナー  
覚えて (A うん) きているしねえ

77A : ソヤナー ギャクニヤナ、 (B フン) サナ  
そうだね 逆にね、 (B ふん) そんな

ベンキョースルマ アッタラ ウシノ フサクデモ カッテコイ  
勉強する時間 [が] あるなら 「牛の / / /でも 刈ってこい」

{笑} (B {笑})

{笑} (B {笑})

78B : ソヤカラ ソーユー ナー、 シャカイベンキョーカ° デケテナー  
だから そういう ねえ 社会勉強が できてねえ

(A ウン) ムカシノ ヒトワ、 エーンヤケンド イマワ モー

(A うん) 昔の 人は、 いいのだけど 今は もう

ソンナコト、 シャカイノコト ホットノケテ  
そんなこと、 社会のこと [は] 放っておいて

ベンキョーダケヤカラ {笑}

勉強だけだから {笑}

兵庫 17-9

(A ウーン、 カワイソーヤデ カンカ°エテミタラ)

(A うーん、 かわいそうだよ 考えてみたら)

カワイソーヤナ オモウワ ホン。

かわいそうだな [と] 思うよ うん。

79A : ヤッパリ (B フン) ノビノビシタトコロカ° ナカッタラナー。

やっぱり (B ふん) のびのびしたところが ないとね。

(B フン フン)

(B ふん ふん)

80B : ソーヤデー ホンマニ。

そうだよ ほんとうに。

81A : ホヤケド (B フン) ドナエナ ドヤーナコトシテ

だけど (B ふん) どんな どんなこと [を] して

アソビヨッタヤロカナー (B フーン)

遊んでいたのだろうなあ。 (B ふうん)

ソノ ワシラ モー ヤランケンド アノー ドン ソノ

その 私なんか もう しないけど あの ×× その

ドンマノリ ユーテナー、 (B フン フン) アノー

「胴馬乗り」 [と] 言ってね、 (B ふん ふん) あの

ツクポッターウエー ドーント (B ンー ドーント ノッテ フン)

屈んでいる上へ ドーント (B んー ドーント 乗って ふん)

ノツテク アレヤトカ (B フン)

乗っていく あれだとか (B ふん)

ソノ X1サンカ° カータ チンダイモーショーヤトカナ  
その X1さんが 書いた 「チンダイモーショ」だとかね

(B フン フン) ンー。ソレカラ ソノー ワシラ ソノー  
(B ふん ふん) んー。それから その 私たち [は] その

17↑18

イマ ユー ヤキューノ ハシクレミタイナコト  
今 [で] いう 野球の 端くれのようなことを

(B ウウウン) アレ アプト アプト  
(B うううん) あれ [を] 「アプト」 「アプト」

イーヨッタ。 (B アプトヤ) ナ。  
[と] 言っていた。 (B アプトだ) ね。

(B アプト ショー イーヨッタヤン)  
(B 「アプト しよう」 [と] 言っていたじゃないの)

ウン、 アプト イーヨッタナー。 (B フン フン)  
うん、 アプト [と] 言っていたね。 (B ふん ふん)

アレ ドツカラ (B シャーケド アレ ドツカラ)  
あれ [は] どこから (B だけど あれ [は] どこから)

サイナナマエ ツケタヤロカ。  
そんな名前 [を] つけた [の] だろうか。



兵庫 18-2

82B : シャーケド オームカシデモ ヤキュー ショッタナ オモウワ  
だけど 大昔でも 野球 [を] していたな [と] 思うよ。

(A エッ?) オームカシデモナ、 (A ホー)

(A えっ?) 大昔でもね、 (A ほお)

ヤキュー ショッタンヤンナ (A ンー) ツマリ。

野球 [を] していたんだよね (A んー) つまり。

83A : ソー ショー。 マ イマノ (B ナーア) ヤキューナンヤ。  
そう やっている。 まあ 今の (B なーあ) 野球なんだ。

84B : フーン ヤキュート (A ハーン) イッショヤ。  
ええ、 野球と (A はーん) 同じだ。

85A : アナエナ ア クワシイ ルールワ ナイケドナ。 (B フン)  
あのような × 詳しい ルールは ないけどね。 (B ふん)

アッ ソーカ ワシ オモウニナ、 イマ オモタ、 アブ  
あっ そうか、 私 [が] 思うのにな、 今 思った、 ××

(B ンデモ ボールヒライモ オッタノニ) ンー オッタ

(B それでも ボール拾いも いたのに) うん いた

(B チョード ヤキュート イッショヤ) イヤ イヤ ソヤカラナ、

(B ちょうど 野球と 同じだ) いや いや だからね、

(B フン) アプト アプト ユーノワナ、

(B ふん) 「アプト」 「アプト」 [と] いうのはね、

兵庫 18-3

(B フン) イマノ アレ アウト、 アレカラ キタンヤナインカ

(B ふん) 今の あれ アウト、 あれから きたのではないか

オモウナ。 (B フーン ソヤカラ ソノ)

[と] 思うね。 (B うん だから その)

マー アウト セーフ ユーヤロ (B ウ ウン)

まあ アウト セーフ [と] 言うだろう (B × うん)

ソレデ ソノ アブ アンナー、 ジブンカ°

それで その ×× あのね、 当時が

86B : ボール ヒロタモンカ°、 ハシルンカ° オソカッタラ

ボール [を] 拾った者が、 走るのが 遅かったら

アプト、 ユーテ ソノコニ ヒツツケテヤナー、

アプト [と] 言って その子に くっつけてだねえ、

(A ソー ソー ソー ソー) デ ソレカ° マケヤ。

(A そう そう そう そう) それで それが 負けだ。

87A : ソウ ソノ (B フン) アプトカ°ナ、 (B フン)

そう その (B ふん) アプトがね、 (B ふん)

イマカラ オモタラ ソノ アウト、 (B フーン) ンー、

今から 思ったら その アウト、 (B ふうん) うん、

セーフ アウトノナ (B フン) アウトカラ

セーフ アウトのね (B ふん) アウトから

兵庫 18-4

トツタンジャナイカ オモウネヤナ ソノジブン。  
とったのではないか [と] 思うんだよ、 その当時。

88B : ンー ソヤロカナー ウチ、  
んー そうなのかなあ 私、

89A : ワシャ サンコト ゼンゼン サ アノジブン シラズニ  
私は そんなこと [は] 全然 × あの頃 知らないで

ヤリヨッタケドナ。  
やっていたけれどね。

90B : ヤキュー センゴ°モ ハヤッタケレド、 (A ンー)  
野球 [は] 戦後も はやったけれど、 (A んー)

ムカシデモ オンナジコト シヨッタナ オモーテ ウチラ  
昔でも 同じこと [を] していたな [と] 思って 私たち [は]

(A ソーヤナ ンー) オモウワ ンー。  
(A そうだね うん) 思うわ うん。

91A : ケッキョク ヤッパリ、 (B ンー) アノジブンニ アンナコトカ°  
結局 やはり、 (B んー) あの頃に あんなことが

アッタ ユーコトワ、 (B ンー) アレワ モー  
あった [と] いうことは、 (B んー) あれは もう

ガイコクカラ モトモト キタモンヤロケド、 (B ンー)  
外国から もともと 来たものだろうけど、 (B んー)

兵庫 18-5

ソヤケド (B ドッカラ ハエツタンカナー) ンー  
だけど (B どこから 入ったのかなあ) うん

ワシラ モー ハヨ モー、 イマ サッキ ユータヨーニ  
私など もう 早く もう、 今 さっき 言ったように

ロクジューネンモ (B ン) ロクジューゴネンモ  
60年も (B ん) 65年も

マエノコトヤカラ、 (B ン) ソノジブンニ スデニ ワシラガ  
前のことだから、 (B ん) その頃に すでに 私たちが

(B ン) ミヨーミマネデ アンナコト  
(B ん) 見よう見まねで あんなこと [を]

シヨッタ ユーコトワ ヤッパリ ソノー、 (B ン)  
していた [と] いうことは やはり その、 (B ん)

チューオーノホーデワ、 ヤッパリ ガーコクカラ  
中央のほうでは、 やはり 外国から

ハエツツタンダロナ、 ンー。  
入っていたんだらうね、 うん。

92B : ソヤカラ、 ワタシラカ° サン サンネンセーグ°ラエニ ソノ、  
だから、 私たちが ×× 3年生ぐらい [のとき] に その、

ゴバンノ フクカ°ナ、 (A ンー) ハヤッテ ッテ  
碁盤の [目の] 服がね、 (A んー) 流行して それで

兵庫 18-6

ガッコエ モツテキテネ、 (A ン一) ホデ アノ スカートト  
学校へ 持ってきてね、 (A ん一) それで あの スカートと

ウワキ°ト (A ン一) コノフク、 マー (A ア ソウ)  
上着と (A ん一) この服、 まあ (A あ そう)

アノー、 カイタイ ヒトワ コータラエー ユテ  
あの、 買いたい 人は 買えばいい [と] 言って

ゴバンノ フクオ コータンヤ、 (A ア ソウ) ボーシト  
基盤の 服を 買ったのよ、 (A あ そう) 帽子と

(A ン) ミツツ ソロエテナ。  
(A ん) 三つ 揃えてね。

93A : ワシラ モー、 アノー ジンジョーコートーショーカー°ッコー、  
私など もう、 あの 尋常高等小学校 [を]、

ソツキ°ョースルマデ フク キタコトナエ。  
卒業するまで 服 [を] 着たこと [は] ない。

(B ソーヤロナー) ウン、 ズット キモノ。 (A ン一)  
(B そうだろうね) うん、 ずっと 着物 [だった]。 (A ん一)

デ ワシナー、 ミョーナコト コー ムッカシ\*  
それで 私ねえ、 妙なこと こう 昔\*

94B : オトコノコーモ キモノヤッタデ ズーット。  
男の子も 着物だったよ、 ずっと。

兵庫 18-7

95A : キモノイナ ワシワ モー サヤナ フクナンカ コー  
着物だよ 私は もう だから 服など こう

96B : セヤカラ タエソーノトキ ソノ フク キタラ エートカナ  
だから 体操のとき [に] その 服 [を] 着たら いいとかね

(A ン) コー スカートンナ

(A ン) こう スカートのね

97A : イヤ ソノ ナツモナ、 (B ナツモ) シャツ\*、 シャツト  
いや その 夏もね、 (B 夏も) シャツ\*、 シャツと

(B ンー ンー ンー) アノー ズボン、 アレワー、

(B ンー ンー ンー) あの ズボン、 あれは、

ヤッタ。 (B ナー) ダエド ヘーゼーノ ソノ  
[服] だった。 (B なあ) だけど ふだんの その

ガクセーフク チューノワ モー キタコトナエ。  
学生服 というのは もう 着たこと [は] ない。

(B ナカッタ ナカッタ マダ ンー) イヤ ソレカ°ヤ、

(B なかった なかった まだ ンー) いや それがだ、

(B ミナ カスリ キテ) ホニヤコトナエ

(B 皆 紺 [を] 着て) そんなこと [は] ない

アッタンヤ。 アツテモナ、 (B ン) クラスニナ、  
あったんだ。 あってもね、 (B ン) クラスにね、

兵庫 18-8

(B ン) フタリカ サンニン、 ソノ チョーカイキーンノ  
(B ン) ふたりか 3人、 その 町会議員の

ムスコヤトカナ、 (B ン) ワシラ ドーキューサー\*\*\*  
息子とだかね、 (B ン) 私ら [の] 同級生\*\*\*

コーチャーハンノ ムスコヤトカナ、 (B フン フン) ニサンニン  
校長さんの 息子だとかね、 (B ふん ふん) 2、3人

アッ カイシャノ ホレ エライヒトノナ、 (B フン フン フン フン)  
あっ 会社の ほら 偉い人[=上役]のね、 (B ふん ふん ふん ふん)

エサ ムスコトカ (B フン) ソンナンカ° ニサンニンワ  
×× 息子とか (B ふん) そんなのが 2、3人は

アッタケドナ、 (B フーン) ワシラ モー、  
いたけれどね、 (B ふーん) 私たち [は] もう、

サイコ°マデ キモノ。 (B キモノヤナア) ンー。  
最後まで 着物 [だった]。 (B 着物だねえ) うん。

ワシ ホデ イマカラ ヒョット オモイダスノガ° (B フン)  
私 それで 今から ふっと 思い出すが (B ふん)

アレ、 アレヤッタラ ジンジョーショーカー°ッコーノ  
あれ、 あれなら 尋常小学校の

イチネンセーカラ ニネン、 マ テンジンヤマエ  
1年生から 2年、 まあ 天神山へ

兵庫 18-9

イキヨッタジブンニナ、 (B ハー ハー ハー) アノー  
行っていた頃にね、 (B はー はー はー) あの

ジョークューサーノ オナコノコーニ、 (B フン)  
上級生の 女の子に、 (B ふん)

ヒヤカサレタコト アルワ。 ソレ ユーンカ°ナ  
冷やかされたこと [が] あるよ。 それ [と] いうのがね

オクレソーンナツテナ、 (B フーン) ワシャ イエ  
遅れそうになってね、 (B ふーん) 私は 家 [が]

チカカッタカラナ、 (B フン) ガッコーエ、  
近かったからね、 (B ふん) 学校へ

(B フン フン ソーヤ) モー ダイブ オソカッタ、  
(B うん うん そうね) もう だいぶん 遅かった、

オクレソーニナツテ ソノママ トンデイッタラナ、 タ、  
遅れそうになって そのまま とんでいったらね、 そうしたら、

アレ コドモノジブンニ キモノニ ツケヒモテ ヒメ ヒモカ°  
あれ 子供の頃に 着物に 付紐という ×× 紐が

ツイトッタヤロ、 (B フン フン ツイトー ー)   
ついていただろう、 (B ふん ふん ついてる うん)

ノマンマ モー イッタラシー。 {笑} (B オビ セント)  
そのまま もう 行ったらしい。 {笑} (B 帯 [を] しないで)



兵庫 18-10/19-1

オビ セズニ。 タラ コノコ ヤー ヤー、  
帯 [を] せずに。 そうしたら この子 まあ まあ、

オビモセント シ キトー テイワレタン  
帯もしないで × 来ている って言われたの [を]

オモイダスワ。 (B アー) ホン。  
思い出すよ。 (B ああ) うん。

18↑19

98B : マエカ° アカンヨーニ ツケヒボオナ、  
前が 開かないように 付紐をね、

(A ソウ ソウ ソウ フーン) ミナ シターツタカラナ。  
(A そう そう そう うん) 皆 してあったからね。

99A : マー ツケヒモ ユーコトワナ、 (B フーン) マー イマデモ  
まあ 付紐 [と] いうことはね、 (B ふうん) まあ 今でも

ユーケドナー、 (B フーン) マー ツケヒモノコロトカ、  
言うけどね、 (B ふうん) まあ 「付紐の頃」とか、

(B フーン) イト コン コマーイトキノコト ユーケンド、  
(B ふうん) ×× ×× 小さいときのこと [を] 言うけれど

(B フン フン) ソノママナ、 (B ンー ンー ンー)  
(B うん うん) そのままね、 (B うん うん うん)

ガッコー イッテナー、 {笑} ホデ オナコ°ノコノ  
学校 [へ] 行ってね、 {笑} それで 女の子の

兵庫 19-2

(B ンー) モット ウエノ コーニナ (B アー ソヤナー)  
(B うん) もっと 上級の 子にね (B ああ そうねえ)

コノコ ドコノコーカイナ ツケヒモノ アノ ツケヒモデ  
この子 どこの子かしら 付紐の あの 付紐で

オビモセズニ ガッコウエ キテー テ ユワレタコト  
帯もしないで 学校へ 来て [っ] て 言われたこと [を]

オモウワ

思うよ。

100B : ウチラ サンネンセーマデ テンジンヤマエ イタンデ  
私たち [は] 3年生まで 天神山に 行ったのよ

ガッコウ。 (A ンー ワシ ソー) ホデ コノ  
学校 [は]。 (A うん 私 そう) それで この

シンコーシャカ° タツマデナ、 (A ン) アノー、  
新校舎が 建つまでね、 (A ん) あの、

テンジンヤマニ オットンヤ、 (A ソヤロ) サンネンダケ  
天神山に いたんだ、 (A そうだろう) 3年だけ

オットンヤ。

いたんだよ。

101A : ソヤロ ワシラ (B ウン) ゴネンセーヤッタ。  
そうだろう 私たちは (B うん) 5年生だった。

兵庫 19-3

(B シ ナラ アンタ)

(B うん だったら あなた)

ゴネンセー アッチノ カリコーシャヤ。

5年生 [は] あっちの 仮校舎だ。

102B : シー アサ ハヨ イタラナー、 チーサイ イケカ° アッタンヤ  
んー 朝 早く 行ったらね、 小さい 池が あったんだ

ソコニ。 (A シー アー アー アー ウラノホーニヤロ)

そこに。 (A うーん ああ ああ ああ 裏のほうにだろう)

ンナ ソコデ ソージ シタリスルヤロ、 (A シー)

そうしたら そこで 掃除 [を] したりするだろう、 (A うん)

ソノミズ クンデ。 (A シー) ホンダラ ウシロニ

その水 [を] 汲んで。 (A うん) そうしたら 後ろに

ソノ、 アノー、 イケノ ナカノホーニ クローニ

その、 あの、 池の 中のほうに 黒く

ナニ シトルン、 オルモン ミタラナ

あれ [を] しているの [が]、 いるもの [を] 見るとね

(A シ) ソレカ° ウ、 ウミポーズミタイナンヤ ユテ

(A うん) それが × 海坊主みたいななのよ [と] 言って

オバケヤ ユーテヤナ、 (A ハー ハー ハー ハー)

お化けだ [と] 言ってね、 (A はい はい はい はい)

兵庫19-4

モー アサ ハヨー イタラ モー オトロシイカラ モット  
もう 朝 早く 行ったら もう 恐ろしいから もっと

オソ イコー ユーテ (A ンー) ゴニンヤ ロクニンデ  
遅くに 行こう [と] 言って (A うん) 5人や 6人で

イッキヨツタンデ。  
行っていたのよ。

(A ンー ホンマニ アレ ヤマノ スソヤツタカラナ)  
(A うん、ほんとうに あれ [は] 山の 裾だったからな)

ソンナ アノー オバケカ° オルトカナー、 ソーユーコトモ アノ、  
そんな あの お化けが いるとかねえ、 そういうことも あの、

ソンナ トー、 ナナツ ヤッツ グラエニ ソーユーヨーナ  
そんな 十、 七つ 八つ くらいに そういうような

ケーケンモ シトーシナー、 (A ウン) ンナ オトナ  
経験も しているしねえ、 (A うん) そんな 大人 [は]

オラヘンシ ハヨーニ トーバンデ ソージ ショー  
いないし 早くに 当番で 掃除 [を] しよう

オモテ ミズ クミニイタラ ソレカ° ナー、 (A ウン)  
[と] 思って 水 [を] 汲みに行ったら それがねえ、 (A うん)

アノ パーット ウイトンヤ ナニカ° ウイトツタンカ  
あの パーッと 浮いているんだ 何が 浮いていたのか [は]

兵庫 19-5

シランケド ソレオ、 ミナカ° ウミ ボーズヤ ユーテ  
知らないけど それを、 皆が ×× 坊主だ [と] 言って

(A イヤ ソノナー) イーヨッタンヤ。 {笑}

(A いや そのねえ) 言っていたんだよ。 {笑}

103A : イヤ ソーユー コワイ ハナシワナー、 (B フン {笑})  
いや そういう 怖い 話はね、 (B うん {笑})

ムカシノ トッショリワ ヨー ハナシ ワシラデモ  
昔の 年寄りは よく 話 [を] 私たち [に] でも

イーキカシテクレタ。 ソノー、 ナンカ、 アノー、 {笑}  
言って聞かしてくれた。 その、 なんか、 あの、 {笑}

アレ ドコノハナシ カワラバシノコト  
あれ [は] どの話 [だろう] 川原橋のこと [を]

ユートッタンカナー (B ン) マ ワカランケド  
言っていたのかなあ (B ン) まあ わからないけど、

ソノー (B ン) パン オソーマデ アソビヨッタラナー、  
その (B ン) 晩 遅くまで 遊んでいたらねえ、

(B フン フン) アノー ワルイ ユーンオ

(B うん うん) あの 悪い [と] いうことを

(B ン) アレ ユーテ キカシトッタンヤロナー。

(B ン) あれ [は] 言って 聞かしていたのだろうな。

兵庫 19-6

(B ン) アソコ バシ オソー ハシ  
(B ン) あそこ [を] 晩 遅く [に] 橋 [を]

トリーヨッタラ (B ン) アズキアラエカ° オル  
通っていたら (B ン) 「小豆洗い」が いる

ユーテナー。  
[と] 言ってね。

104B : イヤ ウチラモ キータデ アズキアラエ  
いや、 私たちも 聞いたよ 「小豆洗い」

(A キータヤロ フン) フン。フン、 ホデ  
(A 聞いただろ うん) ふん。うん、 それで

アズキアラエ ッテ ド ドンナン ユータラ モ  
「小豆洗い」 って × どんなの [と] 言ったら もう

サーラサーラ ユーテ アズキ アライヨー オトカ°  
サーラサーラ [と] いて 小豆 [を] 洗っている 音が

スル ユーテ (A オトカ° スル ユーテナー)  
する [と] 言って (A 音が する [と] 言ってねえ)

アンタ コノ ガッコノ ハシノ シタニモ、 アズキアラエカ°  
あなた この 学校の 橋の 下にも、 「小豆洗い」が

オル ユータノニ。  
いる [と] 言ったのに。

兵庫 19-7

105A : アンナコト          イマカラ オモタラナ、 ヤッパリ コドモワ  
あんなこと [は] 今から 思ったらね、 やっぱり 子供は

オソーマデ アソンドラ イカンド ユーサトシヤナ。  
遅くまで 遊んでは いけないぞ [と] いう論しだね。

(B ンー) ソレオ

(B うん) それを

106B : ソレカラ オテラノ ミゾニモ {A 笑} オルンヤ、  
それから お寺の 溝にも {A 笑} いるんだ、

アズキアラエカ°。 (A ンー ンー ンー キータ キータ)  
「小豆洗い」が。 (A うん うん うん 聞いた 聞いた)

ソヤロ (A ン) オテラノナー (A ン)  
そうだろう (A ん) お寺のねえ (A ん)

ミゾノ オテラノ マエ トーッタラ、 サラサラ ユーテ  
溝の お寺の 前 [を] 通ったら、 サラサラ [と] いて

アズ (A ン) アスキアライカ° オル ユーテ。  
×× (A ん) 「小豆洗い」が いる [と] 言って。

107A : ホラ ソイデ ムカシワナー、 (B フーン) アノ  
ほら それで 昔はね、 (B ふうん) あの

オーノ サカナヤカ°ナー、 (B ン) サカナウリカ°ナ  
相生の 魚屋がね、 (B ん) 魚売りがね

兵庫 19-8

(B ン) ニノーテナ、(B ハー ハー) アノー、サカ  
(B ン) 担いでね、(B はあ はあ) あの、坂 [を]

コシテ、(B ン) デ タツノノ カドベマデ サカナ  
越して、(B うん) それで 龍野の かどべまで 魚 [を]

ウリニ イキヨッタヤナー。(B アッ ソウ) ソレカラノチワ  
売りに 行っていたんだね。(B あっ、そう) それから後は

ジテンシャデ イキヨッタケド (B ン ン ン) ソレマデ  
自転車で 行っていたけれど (B うん うん うん) それまで [は]

ニノテ イキヨッタラシーワ、(B ウン ニノテ イキヨッタン)  
担いで 行っていたらしいよ、(B うん 担いで 行っただの)

ワシャ ソレ シランネヤケドナ。  
私は それ [は] 知らないのだけれどね。

(B ンー) ンー ソノトキニ、ドコノサカナヤノ オッサンカ  
(B うん) そう そのときに、どこの魚屋の おやじか [は]

シランケド、(B フン フン) ソノー、オソーマデ  
知らないけれど、(B ふん ふん) その、遅くまで

マー、タツノノ サカノトコ、(B フン フン)  
まあ、龍野の 坂のところ [で]、(B ふん ふん)

カエリヨッタラ オソナッテモテ、(B フン フン)  
帰っていると 遅くなってしまって、(B ふん ふん)



兵庫 19-9

アノキタザカノ テッペン コシテ (B ン)  
あの北坂の てっぺん [を] 越えて (B ン)

モドリヨッタラ、 (B ン ン ン) ホダラ ナンカ、エー  
帰っていたら、 (B ン ン ン) そうしたら 何か、××

ユーレンデモナシ オボケデモ ナンカ (B ン ン)  
幽霊でもなくもない お化けでも 何だか (B ン ン)

ヤヤコシーモンカ° デテッテ、 (B ン) アノー ニノトー  
ややこしいものが 出てきて、 (B ン) あのー 担いでいる

オケー ニノトーノ、 マワリ、 (B ン ン)  
桶を 担いでいるの [を]、まわり [に]、(B ン ン)

ソナナカエ グット コー テー ツッコンド、 (B フン)  
その中へ ぐっと こう 手 [を] 突っ込んだ、 (B ン)

ホンデ コノガキー ユーテナ、 (B フン)  
それで この野郎 [と] 言ってね、 (B ン)

オッサン オコッテ (B ン) デバデモッテナ、  
おやじ [は] 怒って (B ン) 出刃 [包丁] でね、

(B ン) ソノテー ギューッテ キッタッテンヤ ト。  
(B ン) その手 [を] ギューッと 切ってやったんだ っ。

(B ン) ホデ トンデ モドッテキタンヤ ト。  
(B ン) それで 急いで 戻ってきたんだ っ。

兵庫 19-10

(B ヘエッ {笑}) ホデ モドッテミタラナ (B ン)

(B ヘえっ {笑}) それで 帰って見たらね (B ん)

チョーメン ズボート キッテモトッタ ユーテ  
帳面 [を] ズバっと 切ってしまっていた [と] いて

サヤナハナシモ キータリナ、 (B ハーン) ソヤカラナ  
そんな話も 聞いたりね、 (B はーん) だからね

ワシラ アノサカ コワイ コワカッタ  
私など あの坂 [は] 怖い 怖かった

(B フーン) ソーユーハナシ キクカラ。

(B ふーん) そういう話 [を] 聞くから。

108B : ソラ アノサカワヤナー ソノムカシ ココノヒトモ ナー、  
それは あの坂はねえ その昔 この人も ねえ

(A ハカバカ° アルシナー) ソノ、 アノー オーノ

(A 墓場が あるしねえ) その、 あの 相生の

ムラ ビンゴームラヤロ、 (A ウン) ソヤカラ モ  
村 [は] 貧乏村だろう、 (A うん) だから もう

ソレデ モ ミンナ モー セーカツニ コマッテ、 ホイデ  
それで もう 皆 もう 生活に 困って、 それで

アノー ジキソシタンヤ。

あの 直訴したんだ。

兵庫 19-11/20-1

(A ンシ ホンマ アノー、 アッコノ オジゾーサン)

(A うん ほんとう あの あそこの お地蔵さん)

ンー テ ジキソシトカ° アノ キタザカノ テッペンデ  
んー それで 直訴した人が あの 北坂の てっぺんで

クビ キラレタカラ、  
首 [を] 切られたから、

(A アー アー アソコデ クビウタレタンナ フーン)

(A ああ、 ああ あそこで 首 [を] 討たれた [件] ね ふーん)

オジゾーサン ツクッテンヤデー。  
お地蔵さん [を] 作ったのだよ。

19↑20

109A : ソヤケド マー、 (B ンー) ソヤナ ヤッパリ ソノ  
だけど まあ、 (B うん) そんな やっぱり その

ナンヤロノ ソノ {咳払い} コワイ ハナシモ、 アルテード  
なんだろうね その {咳払い} 怖い 話も、 ある程度

ソノー、 マー コドモワ ヨアソビシタラ (B ン) イカントカ、  
その、 まあ 子供は 夜遊びしては (B うん) いけないとか、

(B ンー ンー ンー) マー イマヤッタラナ (B ンー)

(B うん うん うん) まあ 今だったらね (B うん)

アノ、 モンゲンカ° ナンジャトカ、 (B ンー ンー)  
あの、 門限が 何時だとか、 (B うん うん)

兵庫 20-2

ナンジマデニ カエッテコイ トカ ユーテ チョクセツ ソレ  
何時までに 帰って来い とか 言って 直接 それ [を]

ユーケド ムカシノ シトワ、 トーマワシニ (B フン)  
言うけれど 昔の 人は、 遠まわしに (B うん)

ソーユー コワイ ハナシモ シテヤナー、 (B ンー)  
そういう 怖い 話も してだねえ、 (B うん)

ンデ コドモワ オソーマデ アソングラ イカンド  
それで 子供は 遅くまで 遊んでは いけないぞ

ユーヨナ (B ンー) ナニヤ ナカッタンカ  
[と] いうような (B うん) あれでは なかったのか、

オシエヤ ナカッタンカ オモウナ イマ、 (B ン)  
教えでは なかったのか [と] 思うね ×× (B ん)

イマニシテヤッタラ。 (B フン フン) ンー。 ソノジブンワ  
今にしてだったら。 (B ふん ふん) うん。 その頃は

(B ウチラ) ソラ モー コワーイバッカリ  
(B 私たち) それは もう 怖いばかり

ヤッタケドナ。  
だったけどね。

110B : アノ ソノ X3ヤン ユー オジーサンカ° ウチノ、  
あの その X3やん [と] いう おじいさんが 私の、

兵庫 20-3

オヤノ ナコードハンヤツタンデ モー パン ナツタラ ホノエ  
親の 仲人さんだったので もう 夜[に] になると その家[に]

アソビニ キョツタンヤナ。 (A ホン ホン ホン) ソヤカラ  
遊びに 来ていたんだよね。 (A ふん ふん ふん) だから

ソノオジーカ° モー イツツモ ムカシバナシオ シテ  
そのおじいさんが もう いつも 昔話を して

キツネノ ハナシ、 (A ホーン キツネノ ハナシカ)  
狐の 話 [を]、 (A ふーん、 狐の 話か)

ホデ ソノー ノセザカ イキヨッタ キツネカ°、  
それで その 野瀬坂 [へ] 行っていると 狐が、

ナー、 ナイテ フリムイタラ キレーナ モモワレニ  
なあ、 鳴いて 振り向いたら きれいな 桃割れに [髪を]

ユートンデ、 オマハン ナニ ションデ  
結っているから 「お前さん 何 [を] しているんだい」

ユーテ イデ コンド イッショケンメー アルイタラ、  
[と] 言って それで 今度 一生懸命 [に] 歩いたら、

ナンボ イッテモ ノセ イカントナー。 {笑}  
いくら 行っても 野瀬 [に] 着かなくてね。 {笑}

(A アー ホーカ グルグル マワットツタン {笑})

(A あー そうか、 ぐるぐる 回っていたの {笑})

兵庫 20-4

タンボノ グルリ マワッテ オマエ、 コエツボントコニ  
田んぼの 周り [を] まわって おまえ 肥えつぼのところに

オッタ ユーテ ソーユー (A ハーン)  
落ちた [と] 言って そういう (A はーん)

ハナシバッカシナー、 ソノ、 ダーブ アノ オジーサンニワ  
話ばかりねえ、 その、 だいぶん あの おじいさんには

コンナ ムカシバナシ キートーデ。  
こんな 昔話 [を] 聞いているよ。

111A : ソラマア イマカラ オモタラナ、  
それはまあ 今から 思ったらね、

(B アッハ オッカシー {笑})  
(B ああ 面白い {笑})

ターイモナイコッチャッタヤケド ヤッパリ ソレ  
他愛もないことだったのだけれど やはり それ [を]

シンケンニ キキヨッタモンナ。 (B {笑}) {笑}  
真剣に 聞いていたものね。 (B {笑}) {笑}

112B : ホデ ケッコシキニ、 コンレーデ、 ノセノ コンレーデ  
それで 結婚式に、 婚礼で 野瀬の 婚礼で

イッキョッタラ、 ソノー キツネ ユータラ アタマオ  
行っていたら、 その きつね [と] いうのは 頭を

兵庫 20-5

コー アノー タウエ シタ ミズデナー、 (A ー) ン  
こう あの 田植え [を] した 水でね、 (A うん)

アタマオ コーット ナゼタラナ、 (A ー) ン  
頭を こうやって なぜるとね、 (A うん)

バケルンヤテー。 (A アー ソーカ {笑}) ンデナ  
化けるんだって。 (A あー そうか {笑}) それでね

ソノオジーカ° ユーンヤ。 ホデ ソノ バケタラ アノー  
そのおじいさんが 言うんだ。 それで その 化けたら あの

ソレオ ソノ オジサンカ°、 ケッコンシキニ コンレーニ  
それを その おじいさんが、 結婚式に 婚礼に

イッキョンノニ ミタラ、 エライ ヤッリョンナ テ  
行っているのに 見たら、 「ずいぶん やっているね」 と

ユータンヤ、 ダマッテ トーッタラ エーノニ、 ホデ ミラレタ  
言ったのよ、 黙って 通れば いいのに、 それで 見られた

オモテ、 パーット イキヨッタラ マタ オナコ°ノヒトカ°  
[と] 思って パーッと 行っていたら また 女の人

デテキテナ、 ホイデ マー アイサツシテ エライ  
出てきてね、 それで まあ 挨拶して ずいぶん

ベッピンサンヤデ アノ ヤッリョンナ アイツ  
美人だから あの やってるな あいつ [は]

兵庫 20-6

キツネヤナ オモタンヤケレド、 (A ー) ン  
きつねだな [と] 思ったのだけれど、 (A うん)

ソナナリナ ノセー イコ オモテ サッササッサ  
そのままね 野瀬へ 行こう [と] 思って サッササッサ [と]

イタ ナンボ イッテモ ノセー イカイデナー、 ノセー  
行ったら いくら 行っても 野瀬に 着かなくてね 野瀬へ

コノー コンレーノ バショノ イエ イテ アマドカ°  
この 婚礼の 場所の 家 [へ] 行って 雨戸が

イッパイ シマツトーカラ アマドノ アナオ コー  
いっぱい しまっているから 雨戸の 穴を こう

ノゾイタラナー、 ホンナラ ソノー コンレーノ ソノ  
覗いたらね、 そうしたら その 婚礼の その

ヨメハント ムコハント コー ナランドンヤ ユーテ  
お嫁さんと お婿さんと こう 並んでいるのだ [と] 言って

オキヤクサンモ、 デ イッショーケンメー ソレ  
お客さんも、 それで 一生懸命 それを

ミトツタラナ、 ヒョーット ウシ ウシロ タタカレタンデ  
見ていたらね ひょっと ×× 後ろ [を] 叩かれたので

メカ° アノ イヤ キカ°ツイタラ、 ソノ ンマノナー、  
目が あの いや 気がついたら、 その 馬のねえ、



兵庫 20-7

アシデ ポーント タタカレテナー、 (A {笑}) デ  
足で ポーんと 叩かれてね、 (A {笑}) それで

ウマノ シリノ アナ ノゾキヨッタンヤ ユーテヤナー  
馬の 尻の 穴 [を] 覗いていたんだ [と] 言ってね

(A {笑})

(A {笑})

ソナハナシデモ ヨー キートーデ。 オッカシーヤロ。  
そんな話でも よく 聞いているよ。 おかしいだろう。

ソレ、マタ ヤッリョンナ ユータンデ ダマサレタンヤ。  
そら、また やっているな [と] 言ったから 騙されたんだ。

113A : ソノ ソノナー、 サエナ ハナシオナ、  
その そのねえ、 そんな 話をね、

(B ソナ キツネ オッタンヤロカ ユータラ  
(B そんな 狐 [が] いたんだろうか [と] 言ったら

ホンマニ オッタンヤ ユーテ {笑}) イヤ、  
ほんとうに いたんだ [と] 言って {笑}) いや、

サエナ ハナシオナ、 (B フン) イマノ コーニ シタツテ、  
そんな 話をね、 (B ふん) 今の 子に したところで、

(B フン) ホーン チューヨーナ

(B ふん) ほーん というような

兵庫 20-8

ホホーン チャナモンヤ。

ほほーん というようなもんだ。

(B アホミタイヤナ ユテ ソーヤ ソヤ ソヤ {笑})

(B ばかみたいだな [と]言って そうだ そうだ そうだ {笑})

ソヤケド ソノジブンワ サ コマイシ、  
だけど その頃は そりゃあ 小さいし

(B ジッサイ ソーヤッタンヤナー) ホデ ソノ コノ

(B 実際 そうだったんだなあ) それで その この

マチカ<sup>o</sup>ナ、 (B ウン) イマミタイニ ソノー ハンカナ  
町がね、 (B うん) 今みたいに その にぎやかな

マチヤ ナインヤカラ、 (B ソー ソー ソー)  
町で [は] ないのだから、 (B そう そう そう)

ソーユーハナシ キーテモ (B ウン)  
そういう話 [を] 聞いても (B うん)

ソノ ニアウンヤ、 フサワシーワナ。 (B ハー ハー)  
その 似合うんだ、 ふさわしいよね。 (B はあ はあ)

ソヤカラ ヤッパリ コワカ<sup>o</sup>リヨッタナ。 ソヤカラ  
だから やはり 怖がっていたね。 だから

(B ソーヤ ンデ) ンー パン オソーマデ ヨーアソバン

(B そうだ それで) うん 夜 遅くまで 遊べない

ユー、 エーカゲンニナ、 {咳払い} カエッタ。  
[と] いう、 適当 [な時間] にね、 {咳払い} 帰った。

20↑21

ソレニ イマカラ オモタラ ソノー アノー ワシラデモ  
それに 今から 思えば その あの 私たちでも

ヨー オコラレタモンヤ。  
よく 叱られたものだ。

デンキカ° ツイトンノニ イツマデ アソンドッタンド  
電気が ついているのに いつまで 遊んでいたんだ

ユテ モドッテッタラ オコラレルワケヤ。  
[と] 言って 帰ってくると 叱られるわけだ。

(B ンー ンー ソヤ ソヤ ソヤ) イマヤッタラナ、  
(B うん うん そうだ そうだ そうだ) 今だったらね、

デンキカ° ツイトル ソヤナモン モー ヒルデモ  
電気が ついている そんなもの もう 昼でも

ツイトンヤケド、 ムカシワ ホレ、 アノー  
ついているんだけど、 昔は ほら、 あの

(B コノヘヤニ ヒトツヤッタシヤ)  
(B この部屋に ひとつだったんだ)

デンキカ° ツイトンノ、 ヒトツヤ。 (B ホデ)  
電気が ついているの [は]、 ひとつだ。 (B それで)

兵庫 21-2

ソデ コードカ°ナ、 (B ソヤ ソヤ) モー  
それで コードがね、 (B そうだ そうだ) もう

ゴメータモ ロクメータモ アルネヤ。 デ メシクー  
5メートルも 6メートルも あるんだ。 それで 御飯 [を] 食べる

ユータラ ソノ、 ヒッパッテキテ ダエドコロエ  
[と] 言うと その、 引っ張ってきて 台所へ

モツテクンヤ。 (B タベテナー ホン)  
持って来るんだ。 (B 食べてなあ ふん)

ホデ ホテ オキヤクサン アッター ユータラ  
それで それで お客さん [が] あった [=ある] [と] いうと

ソレオ マタ (B ザシキー) ヒッパッテッテ ザシキー、  
それを また (B 座敷へ) 引っ張って行って 座敷に、

ソヤカラ ホノ ホデ ヒル デンキカ° ツカンヤロ。  
だから その それで 昼 [は] 電気が つかないだろう。

(B フン ツカヘン) ミナ テーカ°クトーヤカラ。  
(B うん つかない) 皆 定額灯だから。

(B フン ヒカ° クレテカラ) ソヤカラ モ ヒカ°  
(B うん 日が 暮れてから) だから もう 日が

クレテナ ツカヘンネヤ。 ソヤカラ、 デンキカ°  
暮れていないと つかないんだ。 だから、 電気が

兵庫 21-3

ツイトンノニ イツマデ アソンドンドー ユーテ  
ついているのに いつまで あそんでいるんだ [と] 言って

(B フン フン) ヨー オコラレテタモンヤ。

(B うん うん) よく 叱られたもんだ。

(B フン フン ソヤ ソヤ)

(B ふん ふん そうだ そうだ)

ソヤカラ オヤジニ オコラレタコトデモナ、 (B ン)

だから 親父に 叱られたことでもね、 (B ン)

デンキカ°、 ヤッパリ、 デンキカ° ツイトンノニ  
電気が、 やはり、 電気が ついているのに

イツマデ アソンドッタ ユーコトカ°ナ、 (B ン)

いつまで 遊んでいた [と] いうことがね、 (B ン)

ヤッパリ ソノー ジダイカ° ワカルワケヤナ

やはり その 時代が わかるわけだな

(B ソヤナー) ホン。

(B そうだな) うん。

114B : ホヤカラ ウチノ オカーチャンラ、 アノー イッツモ ソノ  
だから 私の おかあちゃんなど あの いつも その

ランプノナ、 (A ンー) ホヤオ ソージ シヨッタケド

ランプのね、 (A うん) ほやを 掃除 していたけど

兵庫 21-4

(A ン一) デンキカ° ツイタラ ソージ センデエー

(A ん一) 電気が ついたら 掃除 しなくていい

ベンリヤナー ユーテ ヨロコビヨッタ。 {笑}

便利だなあ [と] 言って 喜んでいた。 {笑}

115A : イヤ、 ワシラデモ ホヤ ソージ シタ オモイデカ°

いや、 私たちでも ほや [を] 掃除 した 思い出が

アルデー。

あるよ。

116B : アッ ソー ウチラ アラヘンナ。

あっ そう、 私たち [は] ないね。

117A : オボロケ°ナカ°ラ、 オボロケ°ナカ°ラヤナー ウン。

おぼろげながら、 おぼろげながらだなあ うん。

118B : アレ ホヤ ソージ セナ クライカラナー。

あれ ほや [は] 掃除 [を] しないと 暗いからねえ。

119A : ン一 カカ°ッテマウカラナ ン一。

うん かがって [=煤がついて] しまうからね うん。

120B : ソヤカラ ソレオ セ セナ モー ショーガ°ナカッタンヤ。

だから それを × しなければ もう しかたがなかったんだ。

デンキワ ベンリヤナー ユテ。 オッカシイナー

電気は 便利だなあ [と] 言って。 おかしいね

兵庫 21-5

ウチラ      ダイブシ   ムカシニンケ°ンヤナ  
私 [は]      だいぶ      昔人間だな

オモーフ      ツクズク。  
[と] 思うよ      つくづく。

121A : シー イヤ ソヤカラ、 (B {笑}) ソノー オヤジヤ  
うん いや だから、 (B {笑}) その 父親や

オカンニ (B ン) オコラレタコトデモ (B ン)  
母親に (B ン) 叱られたことでも (B ン)

イマ ズーット オモイダシテミタラナ、 (B フーン)  
今 ずっと 思い出して見るとね、 (B ふうん)

ヤッパリ ソノジブンノ セーカツジョータイカ°  
やはり その頃の 生活状態が

(B ウン ウン) ワカルワナ  
(B うん うん) わかるよね

(B ウン ソウ ソウ ソウ フウ)  
(B うん そう そう そう ふうん)

ソナンデモ、 ソノ アル イッペンカ°ナ シー。  
そんなことでも、 その ある 一面がね うん。

122B : シー ソーヤナァ。 {笑}  
うん そうだねえ。 {笑}

123A : {笑}  
{笑}

124B : ホンマニ {笑}  
ほんとうに {笑}

125A : ソヤナー モー デンキカ° ツイタンヤッタラ、  
そうだなあ もう 電気が ついたのだったら、

ナンボク°ライニ ナルヤロカ ワシラ  
どれくらいに なるだろうか 私たち [が]

ナンボク°ライノトキヤロカ モ トモカク  
いくつくらいのときだろうか もう とにかく

ナナジューネンイジョーフ タットルワナ。  
70年以上は 経っているよね。

126B : イヤ モット タットーフ。  
いや もっと 経っているよ。

127A : ソヤロカ。  
そうだろうか。

128B : ダロ オモウワ。 ソラ メージノ  
だろう [と] 思うよ。 それは 明治の

オワリク°ライトチャウカ?  
終わりぐらいじゃないか?



兵庫 21-7

129A : イヤ ソーデモナイド ワシカ°  
いや そうでもないぞ 私が

(B ホナ タイショー ヤロカ)  
(B だったら 大正 だろうか)

ウロオボエニ オボエトンニヤモン。  
うる覚えに 覚えているんだから。

130B : ンー ンー ンナ メージヤ。 アンタ ランプ ミズ ミ  
んー んー だったら 明治だ。 あなた ランプ ×× ×

ソージ セーヘンヤロ?  
掃除 [を] しない [=しなかった] だろう?

131A : イヤ ワシワ シタコトナイケド ナンカ (B ウン)  
いや 私は したこと [は] ないけれど 何だか (B うん)

シヨットン オボ ウ ウロオボエヤナ ソレモ。  
していたの [は] ×× × うる覚えだな それも。

(B フン フン) アッタコトワ シットル。 (B フン フン)  
(B ふん ふん) あったことは 知っている。 (B ふん ふん)

132B : ランプワ (A イヤ ナンセ) ミタコトワ アルケンド  
ランプは (A いや とにかく) 見たことは あるけれど

カタチワ。  
形は。

兵庫 21-8

133A : ナンセ ワシノ オバーカ° (B ンー) オバーカ°ナ、  
ともかく 私の おばあさんが (B んー) おばあさんがね、

(B ンー) アノ オハグ°ロ ツケヨッタン  
(B んー) あの お歯黒 [を] つけていたのを

シットルモン ワシ。 (B ンー) ナンカ アノー  
知っているもの 私。 (B うん) なんか あの

テツミタイナモン (B ダーブ ムカシヤナー) コー  
鉄のようなもの (B だいぶん 昔だねえ) こう

ヒツケテ ンー オハグロナー、 ハーオ クロシヨッタナー  
くっつけて うん お歯黒ねえ、 歯を 黒くしていたね

ムカシノヒトワ。 (B アー ソー ソー ソー) ソレ  
昔の人は。 (B ああ そう そう そう) それ [を]

ワシノ オバーサンカ°ナ、 (B ンー) ヤッリョンオ ワシ  
私の おばあさんがね、 (B んー) しているのを 私

シットルモン。 (B アー ソー フーン) ヤー  
知っているもの。 (B ああ そう ふーん) いやあ

ホンマニナー イマ カンカ°エテミタラ カクセーノカンガアルワ、  
ほんとうにねえ 今 考えてみたら 隔世の感があるよ、

コナーナジダイカ° クルトワ モー ユメニモ  
こんな時代が 来るとは もう 夢にも

オモワヘン。  
思わない [かった]。

134B : ハーン ホンマヤナー。 ソヤカラナー、  
ふーん ほんとうだねえ。 だからねえ、

135A : ソヤカラ モー (B ン) コドモノ アソビニシタツテ  
だから もう (B ン) 子供の 遊びにしても

(B ン) モー ナニモカモカ°ナー (B ン) ン  
(B ン) もう 何もかもがねえ (B うん) ン

カワッテシモテナー。  
変わってしまったねえ。

136B : ホンマヤ、 ホンマヤナー。  
そうだ、 ほんとうだねえ。

21↑22

137A : ソヤカラナー モー ソノー クラシムキモ アソビモ  
だからねえ もう その 暮らし向きも 遊びも

ナニモカモカ° ナンカコー、 モー ネンジューカ° ベターツト  
何もかもが なにかこう、 もう 年中が ベターツト

シテモテナア。 (B ハイ ハイ)  
してしまっただねえ。 (B はい はい)

ソノ キセツカンヤトカ (B ン) ヘカ  
その 季節感だとか (B うん) それから

兵庫 22-2

ナンヤトカチューノカ° ナニモカモ ゼンブ ナニモカモ  
なんだとかいうのが 何もかも 全部 何もかも

イッショデナ、 (B ン一) タベモンカ° ソーヤシ、  
一緒にね、 (B うん) 食べ物が そうだし、

ソヤカラモー (B ン) ダエ ユーンカナ  
だからもう (B うん) 何 [と] いうのかね

ソノー シキノ ウツリカワリヤトカ、 (B ハン ハン)  
その 四季の 移り変わりだとか、 (B はあ はあ)

ソヤナ カンジカ°ナ (B ン)  
そういう 感じがね (B うん)

マツリカ° キタテ キトンカトモ、 (B ン ソーヤ)  
祭りが 来たって 来ているのかとも、 (B うん そうだ)

ソヤカラ モー ショーカ°ツガ キタッテ アンタ (B ン一)  
だから もう 正月が 来たって あなた (B うん)

ヒトツモ カンキョー ワカヘンカ°ナ モー。  
ひとつも 感興 [が] わかないよ もう。

138B : ソラ ショーカ°ツデモ ゲンジューニ ショッタカラナー。  
それは 正月でも 嚴重に していたからねえ。

139A : ヘーゼー アンタ ゴツツオー タベトルシ、 マエヤッタラ  
ふだん [から] あなた 御馳走 [を] 食べているし、 以前だったら

兵庫 22-3

マツリカ° キタラ アー エー キモノ  
祭りが 来たら あー いい 着物 [を]

キセテモロテ ゴツツオー タベヤシテモロテ コズカイ  
着せてもらって 御馳走 [を] 食べさせてもらって 小遣い [を]

モロテ デ ヨロコビヨッタケド イマ アンタ モー ナー。  
もらって それで 喜んでいたらけれど 今 [は] あなた もう ねえ。

140B : カンケ°キカ° ナエナー コドモデモ。 (A ホンマヤ)  
感激が ないねえ 子供でも。 (A ほんとうだ)

141A : ソヤカラ モー タンチョー、 タンチョーニ ナッテモタ  
だから もう 単調、 単調に なってしまった

ユーンカ (B ンー) ンー。  
[と] いうのか (B うん) んー。

142B : ムカシノ ウ ウ ワタシラカ° カンカ°エトン、 アン  
昔の × × 私たちが 考えている [のは]、 ××

カミジヨノ シャタクニ キューシューカラ ヨーケ キトツヤロ、  
上町の 社宅に 九州から たくさん 来ていたでしょ、

(A ハー ハー ハー ハー) ナー アンナ カイシャノ。

(A はあ はあ はあ はあ) ね あんな 会社の。

(A ハー ハー ハー ハー) ナー ドックエ ハタラキニ キタ

(A はあ はあ はあ はあ) ねえ ドックへ 働きに 来た

兵庫 22-4

ユーテ。 ホデ ソーユーヒトノ イエー イタ ソノー  
[と] 言って。 それで そういう人の 家へ 行くと その

ショーカ°ツ イタラ アノ、シャタクデモナー (A フン)  
正月 [に] 行くと あの、社宅でもねえ (A うん)

ソノー、 クミチョーヤ、 イマノ ナー (A フン)  
その、 組長だ、 今の ねえ (A うん)

ハンチョーヤケンド、 ソーユーヒトシ ナッタラ アノー ソノー  
班長だけど、 そういう人に なったら あの その

ワカイシューオ ナ (A フン) ショーカ°ツワ ヨブンヤ  
若い衆を ね (A うん) 正月は 呼ぶんだ

(A ンー ンー ンー ンー) ナー。 アノー クロマメヤ ミナ  
(A うん うん うん うん) ね。 あの 黒豆など [を] 色々

タイトーカラ。 (A ンー ンー) ホンデ アマド アケタラ  
煮ているから。 (A んー んー) それで 雨戸 [を] 開けると

ワルイカラナー ガンジツワ (A ホー ホー ホー ホー ホー)  
いけないからね 元日は (A ほう ほう ほう ほう ほう)

ホデ モー ウスー モ チョボット アケテ モー ホンマニ  
それで もう 薄く もう ちょっと 開けて もう ほんとうに

マックラカ°リデ サケ ノンデ、 ソコエ アノー ゲ アノ  
真っ暗がりだ 酒 [を] 飲んで、 そこへ あの × あの

兵庫 22-5

ゲーシャハンオ ヨンデナー、 (A フーン フン フン)  
芸者さんを 呼んでね、 (A ふーん ふん ふん)

シャタクデモナー (A フン フン フン) コー ヨンダラ  
社宅でもねえ (A ふん ふん ふん) こう 呼んだら

キヨッタ ホデ ソンナン ウチ ヨー ミトーデ。  
来ていた それで そいうの [を] 私 [は] よく 見ているよ。

(A イヤ ソヤカラナ) フーン  
(A いや だからね) ふーん

(A イマ ユータリ ソノ ボーネンカイヤトカ アナイナモン)  
(A 今 みたいに その 忘年会だとか ああいうもの)

アッコエ ゲーシャカ° キトーワ ユーテ ンデ  
あそこに 芸者が 来ているわ [と] 言って それで

ミニイッテヤナー (A フン) ホデ アノ ソノジブン  
見に行っただねえ (A ふん) それで あの その頃 [の]

ショーカ°ツワ ミナ ゲーシャー モンツキ キテナー  
正月は 皆 芸者は 紋付 [を] 着てねえ

(A フン ソーヤ) ホンデ アノ ワカイカラナ (A フン)  
(A ふん そうだ) それで あの 若いからね (A ふん)

キレーカッタワイナ ホイデ、 ソーユーコト シテ  
綺麗だったもんだ それで、 そういうこと [を] して

兵庫 22-6

シロトノ イエエ キテナー (A ウン)

素人の 家へ 来てねえ (A うん)

ソーユー アノ フツノ サンザエ シテヤデ、 (A ウン)

そういう あの 普通の 散財 [を] してだよ、 (A ウン)

サンザエ ユーテ オサケ ノムダケヤケンド、  
散財 [と] 言って [も] お酒 [を] 飲むだけだけど、

ソーユーコト キューシューノヒトラ マタ ハデナカラナ

そういうこと [は] 九州の人たち [は] また 派手だからね

(A ウン) ソーユーコト ヨーシヨッタ。 オーノ

(A うん) そういうこと [を] よくしていた。 相生の

ジーノ ヒトワ ソー ナー、 (A ウン サエナンシエヘン)

地元の 人は そう なあ、 (A うん そういうことはしない)

モッサリシトーケドネー。

垢抜けないけどねえ。

143A : シ イヤ ソヤカラナ (B フン) ボーネンカイデモナ

うん いや だからね (B ふん) 忘年会でもね

(B フン) ワシラ コドモジブンニ (B フン フン)

(B うん) 私たちが 子供の頃に (B ふん ふん)

マ アルイエデ ソノー (B フン フン) アノー

まあ ある家で その (B ふん ふん) あの



兵庫 22-7

(B ミンナ ソイ) イヤ ヤリヨッタ ソレオ

(B みんな それ) いや やっていた それを

(B リョーリヤ ユーテ アラヘンモンナー コンナン)

(B 料理屋 [と] 言って [も] ないものねえ こんなもの)

フン ソレオナー (B フン フン) ソノー オトコ アノー

うん それをねえ (B ふん ふん) その 男 あの

(B フツノ シトヤ) オトナノヒトカ° (B フン)

(B 普通の 人なんて) 大人の人が (B ふん)

ソレ ナンデー ユータラ アノ (B フン フン)

それ [は] 何だ [と] 言ったら あの (B ふん ふん)

アレナ、 ボーネンカイ ユンヤトイヤイ。

あれ [は] ね、 忘年会 [と] いうんだって。

(B フーン) ボーネンカイ ユータラ ナンデー

(B ふうん) 忘年会 [と] いうのは 何だ

ユータラナー トシワスレデナ (B フン フン フン)

[と] 言ったらね 年忘れでね (B ふん ふん ふん)

アーンナコト ユーテ ノムラシーワ (B ソウ)

あんなこと [を] 言って 飲むらしいよ (B そう)

オーノヒトワ シレヘンネヤモン (B ハア ハア ハア)

相生の人は 知らないんだもの (B はあ はあ はあ)

兵庫 22-8

ホナモン。 ヤッパリ ソノ ナカ°サキカラ キタリ  
そんなもの。 やっぱり その 長崎から 来たり

(B フン フン) アーユーレンチューカ° ヤリダシタカラ  
(B ふん ふん) ああいう連中が やりだしたから

ソノ ボーネンカイユーナモンガ マ デキタワケナンヤ  
その 忘年会 [と] いう [ような] ものが × できたわけなんだ

(B ソノ ソーヤナー) ンー。 ソレマデ オーニワ  
(B その そうだねえ) うん。 それまで 相生には

サエナモン アレヘン、 ウン。(B ホンマデー ンー)  
そんなもの [は] ない、 うん。(B ほんとうだよ ンー)

タダ マー ションカツワナ、 アノ、 ミウチ ヨッテ  
ただ まあ 正月はね、 あの、 身内 [が] 集まって

チョット イッパイ ノムクライノコトワ ヤリヨッタヤロケド  
ちょっと 軽く 飲むくらいのことは やっていただろうけど

ボーネンカイヤ トシワスレ サエナモン アルカイナ、 アンタ  
忘年会だとか 年忘れ [とか] そんなもの あるもんか、 あんた

(B ソーヤナー) ナー。(B ナー) アレワ モー  
(B そうだねえ) ねえ。(B ねえ) あれは もう

ヤッパリ ヨソカラ キタ ヒトラカ° ヤリダシテナ、  
やっぱり よそから 来た 人たちが やりだしてね、

兵庫 22-9

(B ソーヤ ソヤ ソヤ ソーヤロネー) シン

(B そうだ そうだ そうだ そうだろうねえ) うん

ソーナンヤ、 (B フン ソヤカラ) ソヤカラ キンジョノ

そうなんだ、 (B うん だから) だから 近所の

ヒトデモ ソレヤッタラ メズラシカニ

人でも それだったら ××××××

メズラシカ°リヨッタカ°ナ。 (B ハー ハー ハー)

珍しがっていたよ。 (B はあ はあ はあ)

ワシラデモ コドモンジブンワ ミニイキヨッタカ°ナ ソレ。

私らでも 子供の頃は 見に行っていたものだよ それ[を]。

(B ハー ハー ハー) {笑}

(B はあ はあ はあ) {笑}

144 B : ソーヤデ ミナナー ノゾイテ アノ ミニ イタリ (A アー)

そうだよ 皆ね 覗いて あの 見に行ったり (A ああ)

シヨッタカ°ナ ソノー、 チョボート アマド

していたよね その、 ちょっと 雨戸 [を]

アケトーカラ。

開けているから。

145 A : イエデ イエデ サエナ ナー (B フン)

家で 家で そんな ねえ (B ふん)

兵庫 22-10

サンザイ シタリスル ユータラナ (B フン)  
散財 [を] したりする [と] 言えばね (B ふん)

コンレーカ ナンゾヤナカッタラ アラヘン。 (B フン)  
婚礼か 何かでなければ ない。 (B ふん)

22↑

## 兵庫県相生市1985注記

- [1] シナ  
ソレナラ → ホシナラ → シナ。
- [2] ラ  
「～など（複数）」を表す。
- [3] コーテマウ  
コーテモラウ → コーテマウ。
- [4] ダメー  
アクセントはダメー。小さな巻貝。
- [5] インナンコ°  
おはじき。
- [6] カド  
門の外のこと。
- [7] デキタ  
デテキタ → デーキタ → デキタ。テの子音が弱化し、更に変化したもの。
- [8] ヨーアビン  
能力可能の打消。能力可能は、「～するだけの能力があるので～できる」。  
例：子供だから火をヨーツケヘン。  
一方、状況可能は、「～する状況にあるので～できる」。  
例：湿気ているので火がツケラレヘン。
- [9] ツキハメラレタリ  
ハメルは、海、池など、水中に突き落とすこと。
- [10] ヨー  
能力可能ヨーオヨク° の前半部分。間にソノが入っている。
- [11] アソビドークヤ  
アソビドーク° ヤイタテ、もしくは、アソビドーク° ヤナイカの省略。
- [12] アイテ  
飽きて。アク（飽きる）の連用形（イ音便）。

[13] ウチ

女性一人称。

[14] シマ

ウマではない。

[15] ドシマノリ

「胴馬乗り」か。

[16] カー

カラ。此処からそこまで → コッカ (一) ソコマデとなることがある。

# 作成・公開の経緯

## 「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

### (1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

### (2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

### (3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)



③老年層の女性2人の対話，または，老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話，または，両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の，目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間，各場面につき1～3分程度）

場面に応じて，老年層の男性2人の対話，または，老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，

⑧老年層の女性2人の，目上の者と目下の者の会話（1時間）

または，

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（1時間）

を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

#### (4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

#### (5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

#### (6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

#### (7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

## 「各地方言収集緊急調査」地点一覧

### 北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楯法華村
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

### 青森県

- 02a 下北郡川内町
- 02b 北津軽郡市浦村
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

### 02e 弘前市

### 岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

### 宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

### 秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村
- 05d 河辺郡雄和町
- 05e 湯沢市

### 山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

### 福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

### 茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
- 08e 古河市

### 栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町

### 群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町
- 12b 印旛郡印西町（一印西市）
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村

石川県

- 17a 羽咋郡押水町

福井県

- 18a 坂井郡芦原町
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韮崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町
- 22c 磐田郡水窪町
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村
- 24b 阿山郡阿山町
- 24c 志摩郡阿児町
- 24d 北牟婁郡海山町
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町
- 25c 神崎郡能登川町
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町

京都府

- 26a 中郡峰山町
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市

34e 安芸郡倉橋町

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町

35c 徳山市

35d 美祢市

35e 豊浦郡豊北町

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町

36d 海部郡海南町

36e 三好郡東祖谷山村

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡頰娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

47b 那覇市

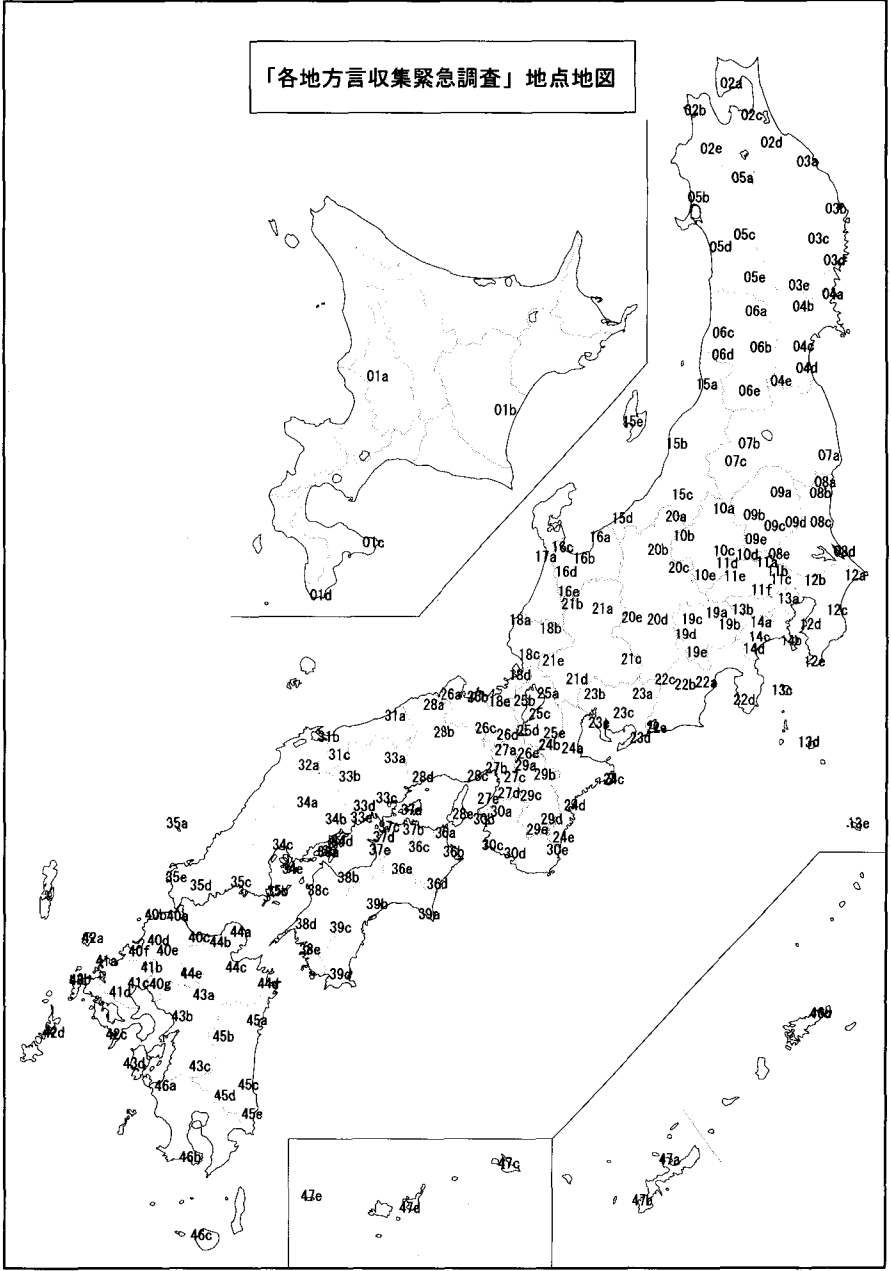
47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町



「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001. 10. 01作成)

## 各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

### 1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

### 2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

## 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日  
文化庁長官裁定  
(昭和62年6月1日廃止)

### 1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

### 3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

### 4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

### 5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	各地方言収集調査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金	調査員、調査補助員等謝金 資料
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費	通信運搬費	郵便、電信電話料等
			使用料及び賃借料 委託料	会場借上料 器具借上料 〇〇委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

# 各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日

文化庁次長 決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

## 1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

## 2. 録音内容・話者

### ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

### イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の教場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

### 3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

### 4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

## 各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

	NO. <u>正</u>
○ ○ 県	- ○
	(副)
各地方言収集緊急調査録音記録票	補助要項 の記号
1 採録地点	_____
2 採録年月日	_____
3 話題・時間	A面 _____ ( )分
	B面 _____ ( )分
4 話者	_____
	_____
5 採録機種	_____

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和 年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点	○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- |            |   |          |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票  | } | （別紙のとおり） |
| ② 方言資料割付用紙 |   |          |
| ③ 方言調査解説用紙 |   |          |



## 調査実施上の留意事項について

### 1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（ア－（1））	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（ア－（2））		1
2年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（ア－（3））		1
3年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは、（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

### 2 調査報告書の提出部数

#### (1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

#### (2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1部

副……正のコピー 2部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県  各地方言収集緊急調査録音記録票	NO. 正 ー〇 (副)
1 採録地点 _____ 2 採録年月日 _____ 3 話題・時間 A面 _____ ( ) 分 B面 _____ ( ) 分 4 話者 _____ _____	補助要項 の記号
5 採録機種 _____	

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和    年度）  各地方言収集緊急調査 文字化原稿  （正） 又 は 副  調査地点    ○○○○	

(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
  - ② 方言資料割付用紙
  - ③ 方言調査解説用紙
- } 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の「[]」には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音のカタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaɡami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma<sup>~</sup>do] (窓)

カンゴ [ka<sup>~</sup>go] (籠) ー高知方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwazi] (火事) ー九州方言などー

(オ) [se] [dse] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [senaka] (背中) ー九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ、デイ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) ー高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸe<sup>~</sup>bi] (蛇) ー奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イェダ [jeda] (枝) ー九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [agɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には \_\_\_\_\_ 線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを \_\_\_\_\_ 線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup>「カステクロエ」または「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聞き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聞き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を \_\_\_\_\_ 線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聞き取り不能の箇所には、 \_\_\_\_\_ 線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように ( ) を利用し、発言

が重複する部分に    線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ<sup>°</sup>トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレアー) アト スグ<sup>°</sup>イ モツテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に    線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット  
ナカ<sup>°</sup>ス キター。

B イヤ イソカ<sup>°</sup>スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ××××××

ゴジューエングラエージャッタカー。

オ 笑い声などは文字化本文中に ( ) に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを ( ) に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声的特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

#### 解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

#### A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

#### B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

## 「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)の交付を受けて、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成データベース名は、「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名は、「全国方言談話資料データベース」作成委員会である。作

成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度は交付の最終年度であり、『全国方言談話データベース』の公開を開始した。

なお、「全国方言談話資料データベース」の作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。



- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。

- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化の text ファイル、共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは、デジタル化した後、サンプリングレート、音声ファイル形式などの調整を行い、音声 wave ファイルを作成する。そして、それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声（wave ファイル）、文字化（カタカナ表記、text ファイル）、共通語訳（漢字かなまじり表記、text ファイル）、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子、pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門）、委員として、熊谷智子（研究開発部門第二領域）、三井はるみ（研究開発部門第二領域）、井上優（日本語教育部門第一領域）、井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお、刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM1枚，CD1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-13

全国方言談話データベース  
日本のふるさとことば集成

第13巻 大阪・兵庫

2002年3月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

---

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

（平13-13）